

南スーダン国

青年・スポーツ省／一般教育指導省

南スーダン国
スポーツを通じた平和促進プロジェクト
事業完了報告書

2025年2月

独立行政法人国際協力機構（JICA）

株式会社JIN

南ス事
JR
25-002

目次

図表目次

略語表

I. プロジェクトの概要	1
1. プロジェクト対象国	1
2. プロジェクト名称	1
3. プロジェクト実施期間（計画と実績）	1
4. プロジェクトの背景	1
5. 上位目標及びプロジェクト目標（討議議事録（R/D）からの抜粋）	2
6. 実施機関（カウンターパート（C/P））	3
II. プロジェクトの成果	4
1. プロジェクトの実績	4
1-1 日本側の投入	4
1-2 南スーダン側の投入（計画と実績）	6
1-3 プロジェクトの活動（計画と実績）	6
2. プロジェクトの成果	107
2-1 成果と指標	107
2-2 プロジェクト目標とその指標：インパクト調査の結果から	111
3. PDM 改訂の経緯と内容	112
3-1 PDM 改訂の背景・経緯	112
3-2 改訂内容の詳細	113
4. その他：ジェンダー／平和構築配慮の結果	115
III. 合同評価の結果	118
1. 開発援助委員会（Development Assistance Committee：DAC）評価項目による合同評価の結果	118
2. プロジェクト実施やそのアウトカムに影響する主要要因	122
3. プロジェクトリスク管理の結果にかかる評価	123
4. 教訓	124
5. パフォーマンス	124
6. 付加価値	125
IV. プロジェクト終了後の上位目標の達成	127
1. 上位目標の達成見込み	127
2. 上位目標達成のための活動計画と実施枠組み	127
3. 南スーダン側への提案	128
4. プロジェクト終了から事後評価までのモニタリング計画	128
添付資料	129
添付資料 1：本プロジェクトの結果	130
添付資料 2：プロジェクト成果品リスト	133
添付資料 3：PDM 及び PO	134
添付資料 4：活動発表実績	144

図表目次

表 II-1：専門家担当分野の変更及び追加理由	4
表 II-2：技術研修（本邦研修）実施に係る主な変更点	4
表 II-3：機材リスト（計画）	5
表 II-4：機材リスト（実績）	5
表 II-5：期待される成果と活動及び活動実績記述部分の項目リスト	7
表 II-6：NUD の目的を達成するための対策・活動	9
表 II-7：第 8 回 NUD の実施プロセスとプロジェクト活動の概要	10
表 II-8：第 6 回 NUD 参加選手の選考基準	11
表 II-9：第 8 回 NUD 参加選手の選考基準	11
表 II-10：情報収集調査の主な結果	12
表 II-11：第 7 回州会合での他機関からの支援内容	15
表 II-12：モニタリングで確認された優れた取り組みと課題	17
表 II-13：第 6 回 NUD の参加者	18
表 II-14：第 7 回 NUD の参加者	19
表 II-15：第 8 回 NUD の参加者	19
表 II-16：第 6 回 NUD における平和推進ワークショップ概要	24
表 II-17：第 7 回 NUD における平和推進ワークショップ概要	24
表 II-18：第 8 回 NUD における平和推進ワークショップ概要	24
表 II-19：NUD における広報活動	26
表 II-20：第 6 回 NUD の資金・資源動員の成果	28
表 II-21：第 7 回 NUD の資金・資源動員の成果	29
表 II-22：第 8 回 NUD の資金・資源動員の成果	29
表 II-23：第 7 回効果測定調査の対象、手法	30
表 II-24：NUD 実施の評価	31
表 II-25：調査対象校・アカデミー選定基準	36
表 II-26：対象学校とスポーツアカデミーにおけるパイロット活動の当初全体計画案	38
表 II-27：質の高い体育授業を構成する要素（分析の視点）	42
表 II-28：授業計画シートの構成	44
表 II-29：評価シートの内容と主な評価結果	47
表 II-30：Juba City Council Model Primary School の第 2 回モデル授業に対する評価	49
表 II-31：平和促進のための学校内スポーツに関する、プロジェクトの主な成果と課題	56
表 II-32：トリットのニーズ調査から得られた主な所見	57
表 II-33：トリットの追加詳細調査から得られた主な所見	58
表 II-34：ロゴ・フットボール・アカデミーに供与した物品リスト	60
表 II-35：シンバ・バレーボール・アカデミーに供与した物品リスト	60
表 II-36：「Parent's Day」開催後に実施した保護者を対象としたインタビュー結果	69
表 II-37：ジュバにおけるパイロット活動と Everyday Peace 概念との関係性	79
表 II-38：トリット研修の構成	80
表 II-39：研修プログラムの各段階	80
表 II-40：視察や聞き取りからの主な気づき	81
表 II-41：トリット研修の参加者人数	83
表 II-42：トリット研修のファシリテーター・技術実習講師	83
表 II-43：トリット研修のスケジュール表	85
表 II-44：トリット研修における Safe Space と Peaceful Community についてのディスカッション結果	85

表 II-45 : 「Safe Space」と「Peaceful Community」のために、トリットのアカデミーがこれ からできる活動についてのディスカッションの結果	86
表 II-46 : トリット研修のアンケート結果（全体評価）	89
表 II-47 : トリット研修のアンケート結果（Everyday Peace）	90
表 II-48 : トリット研修のアンケート結果（女子の参加）	91
表 II-49 : トリット研修のアンケート結果（アクションプラン作成）	91
表 II-50 : モニタリングの目的と活動	93
表 II-51 : Everyday Peace の観点から見る研修後の変化	94
表 II-52 : プロジェクト紹介を行った団体・企業リスト	98
表 II-53 : 働きかけを行った団体・企業リスト	99
表 II-54 : プラットフォームでの行動計画案	101
表 II-55 : 調査対象、主な調査項目など	106
表 II-56 : 成果 1 の指標とその達成状況	107
表 II-57 : 成果 2 の指標とその達成状況	107
表 II-58 : 学校に関するパイロット活動への関係者の印象・認識・評価	108
表 II-59 : スポーツアカデミーに関するパイロット活動への関係者の印象・認識・評価	109
表 II-60 : コーチ研修への関係者の印象・認識・評価	109
表 II-61 : 審判研修への関係者の印象・認識・評価	110
表 II-62 : 成果 2 の指標とその達成状況	110
表 II-63 : YES for Peace プラットフォームへの関係者の印象・認識・評価	111
表 II-64 : プロジェクト目標に関する指標についてインパクト調査から得られた結果と主な 所見	111
表 II-65 : 主な PDM 改訂内容とその理由	113
表 II-66 : PDM の改訂内容の詳細	113
表 II-67 : 参加型手法の結果	117
表 A-1 : JICA 専門家リスト	130
表 A-2 : C/P リスト	130
表 A-3 : 南スーダン国内での研修実績	131
表 A-4 : 技術研修（本邦研修）の実績	132
表 A-5 : プロジェクト成果品リスト	133
表 A-6 : 活動発表実績	144
図 II-1 : 作成された単元計画例	50
図 II-2 : 本プロジェクトにおける学校を対象にしたパイロット活動の動き	56
図 II-3 : SVA のロゴを含んだバナー	68
図 II-4 : Everyday Peace の 2 要素	77
図 II-5 : Safe Space 構築のための活動例	78
図 II-6 : Peaceful Community 構築のための活動例	78

略語表

略語	スペル	和文
C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
DAC	Development Assistance Committee	開発援助委員会
DG	Director General	局長
GIZ	Deutsche Gesellschaft fuer Internationale Zusammenarbeit	ドイツ国際協力公社
GRSS	Government of the Republic of South Sudan	南スーダン共和国政府
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JIN	JIN Corporation	株式会社 JIN
LFA	Lologo Football Academy	ロロゴ・フットボール・アカデミー
MoGEI	Ministry of General Education and Instruction	一般教育・指導省
MoYS	Ministry of Youth and Sports	青年・スポーツ省
NTTI	National Teachers Training Institute	国家教師訓練機関
NSS	National Security Service	国家安全保障局
NUD	National Unity Day	国民結束の日
P.E.	Physical Education	体育
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operation	業務計画
PTA	Parent Teacher Association	保護者と教師の会
R-ARCSS	Revitalised Agreement on the Resolution of Conflict in South Sudan	再活性化された南スーダンにおける衝突の解決に関する合意
R/D	Record of Discussion	討議議事録
SDC	Swiss Agency for Development and Cooperation	スイス開発協力局
SMC	School Management Committee	学校運営委員会
SMoCYS	State Ministry of Culture, Youth and Sport	州文化・青年・スポーツ省
SVA	Simba Volleyball Academy	シンバ・バレーボール・アカデミー

略語	スペル	和文
ToR	Terms of Reference	委託事項／仕様書
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国際連合教育科学文化機関
UNFPA	United Nations Fund for Population Activities	国連人口活動基金
UNHCR	United Nations High Commissioner for Refugees	国連高等弁務官事務所
UNICEF	United Nations International Children's Emergency Fund	国際連合児童基金
UNMISS	United Nations Mission in South Sudan	国連南スーダン共和国ミッション
UN Women	United Nations Entity for Gender Equality and the Empowerment of Women	ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国際連合機関（国連女性機関）
US	Undersecretary	事務次官
USAID	United States Agency for International Development	アメリカ合衆国国際開発庁
YES for Peace Project	Project for Youth Empowerment through Sports for Peace Promotion	スポーツを通じた平和促進プロジェクト

I. プロジェクトの概要

1. プロジェクト対象国

南スーダン共和国

2. プロジェクト名称

【和文】 スポーツを通じた平和促進プロジェクト

【英文】 Project for Youth Empowerment through Sports for Peace Promotion (YES for Peace)

3. プロジェクト実施期間（計画と実績）

【計画】 2019 年 11 月～2024 年 10 月（5 年）

【実績】 2019 年 11 月～2025 年 2 月（5 年 4 カ月）

第 1 段階：2019 年 11 月～2021 年 9 月（1 年 11 カ月）

第 2 段階：2021 年 10 月～2025 年 2 月（3 年 5 カ月）

4. プロジェクトの背景

南スーダン共和国（以下、「南スーダン」という。）は 2011 年 7 月に独立を果たしたが、その後国内の権力闘争を背景にし、民族間¹の対立が表面化して紛争が継続的に発生してきた。2013 年 12 月の大統領・副大統領間での騒擾発生¹のあと、2015 年 8 月には「南スーダンにおける衝突の解決に関する合意文書」が署名されたものの、2016 年 7 月には再び両派間で騒擾が発生した。その後 2018 年 9 月の「再活性化された南スーダンにおける衝突の解決に関する合意 (Revitalised Agreement on the Resolution of Conflict in South Sudan : R-ARCSS)」が関係者間で結ばれ、関係者の政治的な意思の下、2020 年 2 月に暫定移行政府が樹立された。

他方、南スーダンが平和を実現し、独立国として安定した発展を遂げるためには、政治レベルでの和平合意の履行だけでなく、その基盤として民族間融和を通じた包摂的な社会の形成が不可欠である。国民が民族間対立意識を超えて「南スーダン国民」としての一体的意識を形成していくために、特に次世代を担う若年層を対象としてその取り組みを行うことが求められている。

独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency : JICA）は 2016 年以降、「スポーツを通じた平和構築のための情報収集・確認調査」（2015 年～2017 年）及び「スポーツを通じた平和促進（個別専門家）」（2017 年～2019 年）を通じ、4 度の全国スポーツ大会「国民結束の日」（National Unity Day : NUD）の開催支援を行い、若年層を中心とした国民間の融和と社会的統合の促進を試みてきた。その結果、大会に出場した選手を対象とした調査によると、スポーツを通じた活動が若年層の相互理解促進に効果的であることが確認された。

¹ 南スーダンの現地の人々は、民族集団を指し示す際に日常的に「部族（=Tribe）」という語句を用いるが、同語句は欧米列強による植民地支配の産物という点が長らく指摘されており、負の側面を内包している。そのため、本報告書内では「民族（=ethnicity）」を用いる。

他方、NUD は地方選抜の選手及び開催地ジュバ市のコミュニティ・住民に裨益が限られたため、より多くの若年層にスポーツを通じた融和の機会を広めることが社会全体の融和促進に重要であること、また学校やコミュニティレベルでスポーツを通じた平和促進活動を実施するには、スポーツ活動の実施主体となる学校やスポーツクラブ・アカデミーの運営管理者・教員や審判・スポーツ指導者等の人材育成が必要であること等の課題が明らかになった。さらに、スポーツを通じた平和促進活動（NUD の実施及び学校やスポーツクラブ・アカデミーによるコミュニティレベルの活動）に必要な資金的・技術的な支援を受けるためのスポーツ競技団体（例えば国際サッカー連盟などの国際競技連盟や国内外のプロスポーツクラブ）や国際機関・NGO 等と青年・スポーツ省（Ministry of Youth and Sports : MoYS）の連携体制を構築し、活動の継続性・主体性を確保していくことの必要性が確認された。

MoYS をはじめとする南スーダン政府は、NUD を継続・拡大し、社会的統合・融和と若年層育成に取り組む意欲を示し、日本政府に対しこれら課題解決を図るための技術協力プロジェクト（以下、「本プロジェクト」²という。）を要請した。日本政府により本要請が採択されたことを受け、2019 年 11 月より 2 段階技術協力プロジェクトの第 1 段階として、JICA 直営専門家（以下、「長期専門家」という。）による活動を開始し、国内有識者との意見交換や南スーダンにおける現地調査や活動の試行的実施を行い、2020 年 12 月にプロジェクト構想会議を実施した。

第 1 段階では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり遠隔での現地活動支援が主となったなか、学校の現状把握、同感染症予防支援のニーズアセスメント、第 2 段階移行に向けたタスクフォースの運営に焦点を当てた。

これら結果を踏まえ、本プロジェクトの詳細計画を策定し、2021 年 6 月の合同調整委員会（Joint Coordination Committee : JCC）にてプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix : PDM）及び業務計画（Plan of Operation : PO）の改訂を行い、業務実施契約により本プロジェクトの第 2 段階を実施した。なお、新型コロナ禍によって活動及び調査の実施に遅れが生じたことに伴い、本プロジェクトの実施期間を 2019 年 11 月～2024 年 10 月の 5 年間（1 年間の延長）とすることが決定された。加えて、後述する地方（於トリット）活動に必要な業務期間を確保するため、第 2 段階実施中にプロジェクト期間がさらに 2025 年 2 月まで延長された。

5. 上位目標及びプロジェクト目標（討議議事録（R/D）からの抜粋）

【上位目標】 スポーツを通じて南スーダンの若年層を中心とする国民の相互信頼や結束が高まり、融和が促進される。

【プロジェクト目標】 若年層を対象にした、スポーツを通じた平和促進活動を推進するための青年・スポーツ省、一般教育・指導省及びパイロット州政府の事業実施能力が強化される。

² 本報告書では、プロジェクトそのものを指す際は「本プロジェクト」、JICA 専門家と C/P を合わせたプロジェクト活動主体を指す際は「プロジェクトチーム」を使用する。

6. 実施機関（カウンターパート（C/P））

青年・スポーツ省及び一般教育・指導省（Ministry of General Education and Instruction : MoGEI）

II. プロジェクトの成果

1. プロジェクトの実績

1-1 日本側の投入

(1) 日本側総投入額

【計画】約 6.30 億円

【実績】約 7.89 億円

(2) 専門家派遣

【計画】 第 1 段階：長期専門家 2 名

第 2 段階：専門家 9 名

【実績】³ 第 1 段階：長期専門家 2 名及び短期専門家 1 名

第 2 段階：専門家 9 名（2 分野については変更及び追加）

表 II-1：専門家担当分野の変更及び追加理由

主な変更点	変更の理由
「心理社会ケア」から「社会的弱者配慮・社会参加促進」への変更	本プロジェクトの計画段階では、南スーダンが紛争の影響を受けているという背景から、心理社会的ケアの専門家を配置することが重要だと想定されていた。しかし、プロジェクト活動を進めるうちに、心理社会的ケアを必要とする可能性のある人々だけでなく、さまざまな社会的・経済的要因によって脆弱な立場に置かれている社会的弱者についても考慮することが重要であることが明らかになった。そこで、「心理社会ケア」の担当分野名を「社会的弱者配慮・社会参加促進」に修正し、担当する専門家がさまざまな配慮点をより包括的に評価できるようにした。
「調達管理」の専門家の追加	第 6 回 NUD までは JICA 南スーダン事務所が物品調達を行っていた。その経験を通じて、C/P タスクフォースメンバーが調達プロセスに直接関与することで、調達業務がより効率的かつ効果的になるという知見を得た。そのため、第 7 回及び第 8 回 NUD の調達業務において C/P メンバーを支援する専門家を配置するため、「調達管理」の担当分野が設けられた。

(3) 研修員受入

【計画】遠隔 1 回、本邦研修 1 回

【実績】本邦研修 2 回⁴

表 II-2：技術研修（本邦研修）実施に係る主な変更点

主な変更点	変更理由
遠隔実施から日本での研修に変更（第 1 回）	COVID-19 の流行に伴う渡航制限のため、第 1 回目の研修は遠隔で行われる予定だった。しかし、COVID-19 の流行が収束するにつれ、渡航制限の一部が解除され、研修参加者の日本への渡航が可能となった。プロジェ

³ 専門家のリスト（氏名と所属）は添付資料 1 を参照。

⁴ 本邦研修の内容については、添付資料 1 を参照。

主な変更点	変更理由
第1回・第2回の研修の実施時期の変更	クトチームは、遠隔研修よりも現地研修の方が効果的であると判断し、日本での研修を実施することになった。 NUDは国民スポーツ大会（旧称：国民体育大会）をモデルとしているため、こうしたスポーツ大会の視察は貴重な学習機会となる。そこで、国民スポーツ大会は10月、インターハイは8月に開催されるため、その時期に2回の講習会を実施し、研修員が大会を視察できるようにした。 ⁵

(4) 機材供与

【計画】 約 130 万円

表 II-3：機材リスト（計画）

機材	数量	合計金額 (万円)	目的
ノート PC	3 台	25.00	C/P が使用するため
複合機	1 台	106.50	プロジェクトに必要な書類の印刷のため

【実績】 約 630 万円

第1段階目では、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた資機材、深刻な経済状況を踏まえ C/P の事業実施に必要な資機材を供与した。

また、当初の計画ではノートパソコン 3 台を C/P3 名に供与予定であったが、該当する C/P が既にノートパソコンを所有しており、新たに調達する必要がなくなった。他方で、第1段階で調達・供与したノートパソコンの故障などが発生したため、第2段階では2台のノートパソコンを購入し、古いものと取り換えた。

表 II-4：機材リスト（実績）

機材	数量	合計金額 (万円)	目的
新型コロナ感染対策用品 マスク 手洗い用バケツ 手指消毒液 石鹸	1 式 (15,000 枚) (452 個) (350 個) (620 個)	460.00	新型コロナウイルス予防支援
ノートパソコン	8 台	53.00	C/P が使用するため。
ノートパソコン	2 台	20.57	C/P が使用するため。
複合機	1 台	92.21	プロジェクトに必要な書類の印刷のため。

(5) 在外強化費

【計画】 約 2.12 億円

【実績】 約 2.36 億円

上記費用には、第5回から第8回 NUD の準備・実施に係る費用、プロジェクトオフィスの

⁵ 第1回技術研修では、栃木で開催される国民スポーツ大会への訪問を実現させようとしたが、大会の運営団体が大会関連の業務で忙しく、研修グループを受け入れることができなかったため、実現しなかった。

運営に係る費用、第1段階における長期専門家の宿舎に係る費用を計上している。

1-2 南スーダン側の投入（計画と実績）

(1) カウンターパート配置⁶

【計画】 MoYS : 6 名

MoGEI : 4 名

【実績】 MoYS : 6 名

MoGEI : 6 名

(2) 執務室の提供

プロジェクトの事務所スペースは、南スーダン政府を代表して MoYS が提供した。

(3) その他先方負担事項

なし

1-3 プロジェクトの活動（計画と実績）

背景で述べたとおり、第1段階は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、遠隔での活動支援となるなか、主に学校の現状把握、同感染症予防支援のニーズアセスメント、第2段階移行に向けたタスクフォースの運営に焦点を当てた活動を以下のように実施した。

学校の現状把握

2021年2月21日から3月7日にかけて、ジュバ市内82校の初等・中等学校を対象に、学校長、体育スポーツ担当教員、一般教員、保護者と教師の会（Parent Teacher Association : PTA）、学校事務員など計316名から質問票を用いた聞き取り調査（構造化インタビュー）を行った。本調査は実態調査、ニーズアセスメント、ベースライン調査を兼ねており、本プロジェクト第2段階のパイロット実施対象校候補（約12校）より広く対象校を設定し、初等及び中等、公立だけでなく私立やコミュニティ学校からも情報を収集した。同調査で収集・分析したデータは以下のとおりである。

- 学校における体育とスポーツの実施実態（運動会やその他関連行事を含む）
- 学校長、学校運営委員会、PTA、理事会や体育スポーツ教員が、平和促進のための体育スポーツに抱く認識やコンセプト、各人の役割認識
- 体育スポーツ教員の研修経験の有無、研修ニーズ
- 学校運営委員会、PTA、理事会から本プロジェクト実施に係る支援を得るにあたっての課題と機会
- 学校における体育スポーツ推進の課題

⁶ カウンターパートのリスト（氏名と所属）を本報告書の添付資料1に記載する。

本調査結果から、下記の点を確認した。

- 首都ジュバ以外の地方でも実態調査が望ましい。
- 体育教員及び学校運営に携わる人材の育成が必須。
- 全国に設置が予定されている **Peace Club** の巻き込みが重要となり得る。
- スポーツ用具支援が不可欠である。

新型コロナウイルス感染症予防支援のニーズアセスメント

2020 年 8 月 24 日から 9 月 7 日にかけて、ジュバ市内の初中等学校 20 校、民間スポーツクラブ（20 団体）、スポーツアカデミー（22 団体）の教員やコーチなど青少年の指導的立場にある 124 人を対象とするニーズアセスメントを実施した。本ニーズアセスメントに基づき、2021 年 3 月に資機材（マスク、手洗用バケツ、手指消毒液、石鹸）を学校（82 校）、スポーツクラブ（20 団体）、スポーツアカデミー（22 団体）に配布した。

第 2 段階移行に向けたタスクフォースの運営

新型コロナウイルス感染症の影響による長期専門家の帰国（2020 年 3 月）を踏まえ、遠隔によりタスクフォースを通じて、次の活動を実施した。タスクフォースメンバーは MoGEI、MoYS、JICA 南スーダン事務所、長期専門家で構成された。

- C/P へのヒアリングを通じた現地情報収集（2020 年 7 月～12 月）
- 学校・民間スポーツクラブ・アカデミーを対象とする新型コロナウイルス感染症予防対策支援ニーズアセスメント調査（2020 年 8 月～9 月）
- 感染予防資機材の調達、配布（2020 年 10 月～2021 年 3 月）
- 第 2 段階移行のための計画（2020 年 11 月～12 月）
- 平和大使ワークショップ準備（2021 年 1 月～2 月）
- 学校調査企画実施（2021 年 2 月～3 月）

第 1 段階から引き継ぐ形で、本プロジェクトの本格実施となる第 2 段階が 2021 年 10 月より開始した。次表にて、PDM (ver. 3) ⁷に基づく本プロジェクトにおける各成果とそれに対応する活動を示す。表内最右列では、それぞれの活動実績の詳細が記述されている本報告書内における項目番号を記している。

表 II-5：期待される成果と活動及び活動実績記述部分の項目リスト

	活動（計画）	活動実績記載項目
成果 1	スポーツ省の NUD 関連活動に関する、事業計画、実施、監督及び評価、財政管理能力、調整能力が強化される。	
1-1	全国スポーツ大会や地方大会を実施する他国事例の視察や、NUD 実施に係る関係者のニーズ調査を行い、NUD を継続開催していくために能力強化が必要な課題を分析する。	1-(2)
1-2	NUD 実施に係る関係者（中央・州政府職員、タスクフォースメンバー、スポーツ指導者、審判など）に対する研修を計画・実施する。	1-(4)
1-3	NUD を毎年開催するための準備・調整会議を、関係者と少なくとも年 2 回	1-(3)

⁷ 各バージョンの PDM は、添付資料 3 として本報告書に添付している。各バージョンにおける変更内容については、本報告書の第 2 章で詳述している。

活動（計画）		活動実績記載項目
	開催し（州会合、モニタリング訪問等を含む）、既存の NUD マニュアルに従い競技内容・ルール、選手選考方法等を決定する。	
1-4	各州における選手選考プロセスをモニターし、州における選考方法を年に 1 度改善する（選考において包摂性や女性の参加を阻害する要因を分析し、より良い選考方法を検討する）	1-(5)
1-5	NUD を毎年開催する。	1-(1), 1-(5), 1-(6), 1-(7), 1-(8), 1-(9), 1-(10)
1-6	スポーツ省より NUD 開催予算を増加すべく、スポーツ省内の NUD 開催の重要性についての理解度向上に努め、スポーツ省大臣や次官に予算確保について働きかける。	1-(11), 1-(14)
1-7	NUD の準備・実施プロセス及び NUD 結果を評価し、既存の NUD マニュアルを改訂する。	1-(12), 1-(13), 1-(15)
成果 2	ジュバ及びパイロット州の学校やスポーツアカデミーにおいて、スポーツを通じた若年層育成による平和促進活動のための実施体制が明らかになる。	
2-1	学校体育及びスポーツ教育の現状、スポーツクラブ・アカデミーの活動状況及び教員・スポーツ指導者の配置・育成機会等の調査を実施する。	2-(1), 2-(4)
2-2	学校体育やスポーツ指導者の育成システム等に関する他国事例の視察や、活動実施のリソースとなりうる平和大使（NUD 参加者）の関心・ニーズ調査を行い、学校やスポーツアカデミーによるコミュニティレベルのスポーツを通じた平和促進活動の具体的な事業案や活動実施団体（学校、スポーツアカデミー）の能力強化が必要な課題を分析する。	2-(2)
2-3	コミュニティレベルのスポーツを通じた平和促進活動に係るパイロット事業案を、パイロットとして選抜された学校やスポーツアカデミーとともに検討・計画する。その際、NUD に参加した平和大使の活用を検討する。	2-(3), 2-(5)
2-4	各パイロット事業を実施するために必要な、中央・州政府職員、学校やスポーツアカデミーの運営管理者（スポーツアカデミーと学校の代表者など）・教員、審判・スポーツ指導者に対する研修を計画・実施する。	2-(3)
2-5	学校やスポーツアカデミーとパイロット事業を実施する。	2-(3), 2-(5)
2-6	研修・パイロット事業の結果をモニタリング・評価し、YES for Peace 体育・スポーツ教育指導ガイドラインを作成する。その際、学校・スポーツアカデミーが期待するスポーツ活動による若年層育成の要素（ライフスキルの発展や心理社会ケアなど）を反映する。	2-(8)
2-7	スポーツを通じた平和促進活動を広めるうえで必要な活動（新たな裨益層へのアプローチやコミュニティレベルでの活動案）を検討する。	2-(6), 2-(7)
成果 3	スポーツ省及び教育省、州青年・スポーツ省、州一般教育・指導省、スポーツアカデミー、学校及び協力機関（スポーツ支援団体、国際機関・NGO、各国大使館、民間企業等）とのスポーツを通じた平和促進活動関する連携プラットフォームが構築される。	
3-1	活動実施団体（学校、スポーツアカデミー）及び協力機関（スポーツ支援団体、国際機関・NGO、各国大使館、民間企業等）とのスポーツを通じた平和促進・調整会議を定期的に開催する。	3-(1)
3-2	協力機関に対し、若年層を対象としたスポーツを通じた平和促進活動への資金的・技術的な継続支援を呼びかける。	3-(2)
3-3	活動実施団体（学校、スポーツアカデミー）が外部から技術的・資金的支援を得るために必要な活動や能力強化に係るニーズを調査する。	3-(3)
3-4	スポーツを通じた平和促進の活動を実施するための、YES for Peace プラットフォームの計画が準備される。	3-(2)
成果横断的な活動：群馬県前橋市とのパートナーシップ		1-3-4
プロジェクト効果測定調査		1-3-5

1-3-1 成果 1 に係る活動

長期にわたる紛争の影響を受ける南スーダンでは、かつて国民和解のためのユニークな活動として、スポーツが社会の結束に活用されていた実績がある。1972 年のアディスアベバ合意により第 1 次スーダン内戦が終結したあとには、マラカル、ワウ、ヤンビオ、ジュバで全国スポーツ大会が開催され、さまざまな地域から選手が一同に会し、人々がスポーツを通して交流していた歴史がある。

南スーダン独立から 5 年後の 2016 年 1 月、MoYS は JICA の支援を受けて NUD と呼ばれる国民的スポーツイベントを立ち上げ、このイニシアチブを復活させた。南スーダンの人々は、NUD のような取り組みが、国民と政府、中央政府と地方政府、距離や民族の帰属によって隔てられたコミュニティなど、南スーダンのさまざまな集団を隔てる溝を埋めるのに役立つと考えるようになった。

NUD の実施を通じて、スポーツは平和と団結を促進するツールとして南スーダンの国民に認知されるようになった。NUD の実施により、出身地や民族、年齢、性別に関係なく若者が集う機会を提供することがじつげんされた。

MoYS は、これまでの NUD において、以下のようなテーマと目的を設定した。

- テーマ：平和と社会的結束のためのスポーツ
- 目的：スポーツ、フェアプレー精神、スポーツマンシップを通じて、多様な人々の統合を促進する。

この目的を達成するために、NUD では以下の点に配慮しながら大会が運営された。

- 人々を一つにまとめ、一体感を醸成する。
- 南スーダンの多様な民族と文化を受け入れる。
- できるだけ多くの選手を参加させる（包摂性）。
- 選手選考プロセスの透明性を確保する（公平性）。
- フェアプレー（公平性）と非暴力のルールを奨励する。
- スポーツを通じて女性のエンパワーメントを促進し、男女平等を推進する。
- さまざまなコミュニケーションツールを用いて、NUD のテーマと平和のメッセージを発信する。

NUD の目的を達成するために、本プロジェクトでは下表のような対策・活動を行った。

表 II-6：NUD の目的を達成するための対策・活動

観点	対策	活動
公平性	・ 公平な選考プロセスと登録	・ 選考基準の作成 ・ 競技結果と過去の記録結果に基づく選考 ・ MoYS による州／地域の選考プロセスのモニタリング ・ 公的書類による厳格な登録制度（出生証明書の確認など） ・ NUD 参加者全員の ID カードの準備 ・ 試合前の ID チェック
	・ 公平な判定	・ 州や地域のすべての関係者が参加する州会合での NUD 競技のルールの合意 ・ 判定技術向上のための審判員研修 ・ 明確なルールとシステムによる問題解決（例：NUD の技術委員会と組織委員会の設置）
	・ フェアプレー	・ NUD 参加者に対するフェアプレーに関する講義 ・ 試合開始前の各チームキャプテンによるフェアプレーの宣誓 ・ フェアプレー賞の授与
包摂性	・ より多くの選手の参加	・ カウンティ間対抗戦の推奨 ・ 過去の NUD 参加者の参加制限
結束	・ 合意形成	・ 州会合における州／行政区のすべての関係者の参加による、透明でオープンな意思決定プロセス

観点	対策	活動
	・ 他者の尊重	・ NUD目的に関するオリエンテーションの実施 ・ コーチに対する、選手の他チーム尊重を促すためのトレーニング
	・ 選手の交流	・ さまざまな地域からの参加者と同じ宿泊施設に泊まる ・ 同じ場所で一緒に食事をする ・ 平和と文化の日のレクリエーション・スポーツの混成チーム作り ・ 最終日に参加者全員でダンスをする
女性のエンパ ワーメント	・ 女性のスポーツ参 加の促進	・ 女性のスポーツ競技（女子サッカー、バレーボール、陸上競技な ど）の促進 ・ 女性特有の問題に関する講義の実施 ・ 必要に応じて生理用ナプキンの提供
若者のエンパ ワーメント	・ 若い選手の参加促 進	・ 年齢制限の引き下げ（年齢上限を20歳から17歳に変更） ・ 若い選手により多くの機会を提供するため、プロクラブの選手を NUDに参加させない

1-(1) NUD 実施プロセスと活動概要

本プロジェクトの第2段階では、第6回、第7回、第8回 NUD の実施支援を行った。第6回（2022年）及び第7回（2023年）の NUD は、COVID-19 の蔓延に伴う学校スケジュールの変更により、例年と時期をずらして3月に開催された。

NUD の実施過程と活動を説明するために、2024年に実施された第8回 NUD を例にとり、NUD の実施過程と関連するプロジェクト活動を下表に示す。

表 II-7：第8回 NUD の実施プロセスとプロジェクト活動の概要

時期	NUD 実施プロセス	プロジェクト活動
2023 年 9 月	・ 州会合の実施 ・ コーチ研修の実施	・ 州会合プレゼンテーション資料とミニッツ草案の準備 ・ 州会合参加パートナーとの調整 ・ コーチ研修の調整
2023 年 10 月	・ 選手選考の実施 ・ 物資調達手続きの開始	・ 選手選考モニタリングスケジュール及びアンケートの準備 ・ 調達品目リストの作成
2023 年 11 月	・ 選手選考モニタリングの実施 ・ NUDパートナーシップ・フォーラムの開催（2回） ・ 現地コンサルタントの調達開始（イベント運営、ケータリング、インパクト調査）	・ NUDパートナーシップ・フォーラムの資料作成 ・ 現地コンサルタント（ケータリング）プロポーザル依頼書の作成・配布
2023 年 12 月	・ 選手選考モニタリングの実施 ・ 必要物品の調達 ・ 選手の確認・登録 ・ 協賛団体との協力内容の調整	・ 選手選考モニタリング結果の取りまとめ ・ 現地コンサルタント（インパクト調査）プロポーザル依頼書の配布 ・ 現地コンサルタントの調達（ケータリング） ・ 現地コンサルタントからのプロポーザルの評価（イベントコンサルタント） ・ 審判員研修の調整
2024 年 1 月	・ 選手選考モニタリングの実施 ・ 必要物品の調達 ・ 審判リフレッシュ研修の実施 ・ 第8回NUDの実施	・ 現地コンサルタントの調達（インパクト調査） ・ 第8回NUD実施支援 ・ 現地コンサルタントの業務監督
2024 年 2 月	・ 第8回NUDの実施 ・ 第8回NUDレビュー会議の実施	・ 第8回NUD実施支援 ・ 現地コンサルタントの業務監督 ・ 第8回NUDレビュー会議結果の取りまとめ ・ 第8回NUD報告書作成

第7回と第8回の NUD では、それまでの大会形式から大きな変更が加えられた。1 点目は、第 1 回から第 6 回までの NUD で実施されていた男子サッカーを廃止し、女子スポーツ参加を促進するために、女子サッカーを大会正式種目として採用した点である。2 点目は、参加選手の年齢を 20 歳から 17 歳に変更し、若い選手により多くの機会を与えたことであった。

第 7 回 NUD の準備過程において、NUD 実施予算の大半を拠出している JICA 南スーダン事務所が、JICA 全体の予算の制約から、NUD への支援予算を大幅に削減することを決定せざるを得ない状況となった。これを受け、MoYS タスクフォースメンバーは、NUD の参加者数や大会日数を減らし、少ない予算で NUD を企画するためのさまざまなアイデアを検討した。

また、限られた予算内での調整だけでなく、MoYS が女子スポーツ振興の重要性を認識しており、第 7 回 NUD の企画に先立ち、JICA がウガンダで支援する女子サッカー大会の TICAD CUP を視察していたことから（詳細は後述）、男子サッカーを廃止し、女子サッカーを追加することも検討された。このようなプロセスを経て、本プロジェクトでは、予算の減少に対応するため、サッカー選手の数 11 名から 8 名に減らすことを決定した。また、その過程で、NUD の参加年齢制限を 20 歳から 17 歳に引き下げ、若い選手により多くのチャンスを与えることも提案した。

第 7 回 NUD 州会合では、参加年齢制限の引き下げは州／行政区からの反対もなくスムーズに承認された。しかし、女子サッカーの導入については、特に女子スポーツが一般的でない南スーダン北東部の州／行政区代表者から強い反対があった。これに対し、MoYS やほかの州／行政区の代表者たちは、反対する代表者たちを真摯に説得し、最終的に女子サッカーの導入を決定した。第 7 回 NUD 州会合は長時間の議論を要したが、NUD 主催者である MoYS は、NUD の大会形式が関係者全員によって十分に議論され、合意されることを最も重視した。これは、NUD の新たな大会形式が、MoYS が全州／行政区の代表者とともに決定したものであることを示しており、このプロセスは非常に意義深いものであった。

NUD 大会形式の大幅な変更を示すため、第 6 回と第 8 回の NUD の大会参加者の選考基準を以下に示す。

表 II-8：第 6 回 NUD 参加選手の選考基準

選考基準	参加資格	検証方法
年齢	・ 20 歳以下（2002 年 1 月 1 日以降生まれ）	・ 身分証明書／出生証明書
国籍	・ 南スーダン	
NUD 過去大会への参加	・ 新しい選手を参加させるため、過去 NUD に 2 度参加したことのある者は参加資格がない	・ 州文化・青年・スポーツ省（SMoCYS）が承認した推薦書 ・ MoYS によるデータベースとの照合
能力面	・ 証明された実績	・ 以下のいずれかに該当する推薦書：1) 選手が出場した大会、2) 選手を推薦するクラブ、3) その他当局による正当な理由

表 II-9：第 8 回 NUD 参加選手の選考基準

選考基準	参加資格	検証方法
年齢	・ 17 歳以下（2007 年 1 月 1 日以降生まれ）	・ 身分証明書／出生証明書
能力面	・ プロクラブチームに所属していないこと	・ SMoCYS が承認した推薦書

1-(2) 情報収集調査

プロジェクトチームは、2021 年 11 月から 2022 年 2 月にかけて、トリット、ボル、アビエイ、ワウ、アウェイ、ヤンビオ、ルンベク、ジュバの各州において、第 6 回 NUD 選手選考のモニタリング訪問時に情報収集調査を実施した。調査の目的は、SMoCYS 職員、第 6 回 NUD に参加したスポーツ連盟関係者やコーチ、学校教員、青少年団体、コミュニティリーダー、またこれまでの NUD や 2021 年 4 月に開催された平和大使ワークショップに参加した選手へのインタビューを通じて、青少年の問題や価値観、社会的弱者やジェンダーに関する問題、青少年のスポーツへの参加など、社会問題やスポーツの現状について広く情報を収集することであった。MoYS の行政官は、SMoCYS 及び現地のスポーツ連盟の関係者に質問票を用いたインタビューを行った。

調査では、スポーツ関係者に対し、スポーツの実施状況、課題、スポーツを通じて学べる知識・態度、スポーツ行政・振興に関して身につけたい技能などを確認した。また、過去に NUD に参加した選手から、NUD 参加後の変化や現在の平和促進に関する活動について聞き取りを行った。主な調査結果は以下のとおりである。限られた資源ではあるが、州レベルでスポーツイベントが広く開催されていることや、元 NUD 参加者のなかには独自の方法により平和促進に関する活動を継続している者もいることが確認された。

表 II-10：情報収集調査の主な結果

テーマ	調査結果		
スポーツの実施状況	- サッカー、バレーボール、陸上、バスケットボールは多くの地域で実施されている。 - スポーツ大会は、スポーツ連盟が積極的に大会を開催したり、NGO が支援・援助を行っている場合に広く実施されている。 - 多くの州でカウンティ対抗戦や知事杯などさまざまなスポーツ大会が開催されている。		
課題	- 州政府の予算不足 - スポーツ施設（スタジアム等）や用具の不足 - コーチ、審判、管理者の能力不足 - 試合のための交通手段の不足 - 学校での体育の実施の不足 - 女子のスポーツへの参加機会の不足 - 治安悪化によるスポーツ活動の制限		
スポーツを通じて学べる知識や態度	<table border="0"> <tr> <td> - ルールを守ること - 時間を守ること - 良いチームワーク - 許すこと - 純真さ </td> <td> - 協調性 - 体力 - コミュニケーション - 他民族との協調性 - ストレス解消 </td> </tr> </table>	- ルールを守ること - 時間を守ること - 良いチームワーク - 許すこと - 純真さ	- 協調性 - 体力 - コミュニケーション - 他民族との協調性 - ストレス解消
- ルールを守ること - 時間を守ること - 良いチームワーク - 許すこと - 純真さ	- 協調性 - 体力 - コミュニケーション - 他民族との協調性 - ストレス解消		
スポーツの運営・普及に関連する技能	<table border="0"> <tr> <td> - リーダーシップ技能 - コミュニケーション能力 - 時間管理能力 - コーチング技能 - 審判技能 - 対人関係技能 </td> <td> - 説明責任を果たし、透明性を向上する技能 - 一般的な管理・運営技能 - スポーツイベントの運営技能 - 資源動員技能 - 人的資源の開発技能 - スポーツクラブ、組織運営技能 </td> </tr> </table>	- リーダーシップ技能 - コミュニケーション能力 - 時間管理能力 - コーチング技能 - 審判技能 - 対人関係技能	- 説明責任を果たし、透明性を向上する技能 - 一般的な管理・運営技能 - スポーツイベントの運営技能 - 資源動員技能 - 人的資源の開発技能 - スポーツクラブ、組織運営技能
- リーダーシップ技能 - コミュニケーション能力 - 時間管理能力 - コーチング技能 - 審判技能 - 対人関係技能	- 説明責任を果たし、透明性を向上する技能 - 一般的な管理・運営技能 - スポーツイベントの運営技能 - 資源動員技能 - 人的資源の開発技能 - スポーツクラブ、組織運営技能		
NUD 参加後の選手の変化と改善した点	- 協力し合えるようになった - 他人を敵としてではなく、友人として見るようになった - 多くの友人を得た - 他州とネットワークを持つようになった - NUD では時間が守られていたため、時間を管理しながら行動するようになった - 地域社会との関わりを持つようになった		
2021 年の平和大使ワークショップ	- 学校での平和クラブでの活動 - 平和の歌を作成する大会への参加		

テーマ	調査結果
ブ参加者による 現在の平和推進 活動	・ 平和に関する歌の披露 ・ 平和に関する音楽とダンスのプログラムへの参加 ・ ラジオトークショー出演 ・ 町で行われる平和の歌大会への参加 ・ ピアグループ・ディスカッション ・ 町の平和対話フォーラムへの参加 ・ 州指導者による会議の開催支援 ・ 地域リーダーとの平和についての対話

1-(3) 州会合

NUD を包摂的なものとし、すべての州／行政区が NUD の準備・実施過程に含まれるようにするため、MoYS は準備段階における州／行政区との協議の場として、第 6 回から第 8 回 NUD のためにそれぞれ 2021 年 10 月、2022 年 11 月、2023 年 9 月に州会合を開催した。州会合は、通常各 NUD の 4 カ月前に 10 州と 3 行政区の代表者が一堂に会し 2 日間の日程で実施された。

州会合には、SMoCYS の局長 (Director General : DG)、スポーツ部門の代表、二つのスポーツ競技のコーチ 2 名が招待された。州会合では、NUD の目的、テーマ、種目、スケジュール、選手選考基準、ルールなどが話し合われ合意され、MoYS と州／行政区代表は、州会合後から NUD までに必要となるさまざまな活動を記したアクションプランを作成・合意した。なお、新型コロナ禍にあった第 6 回 NUD の開催準備のために実施された州会合では、NUD 大会期間中の同ウイルス感染症の予防策について話し合いを行った。

各州会合の最後には、MoYS と JICA 南スーダン事務所とともに、すべての州／行政区がミニッツに署名した。州／行政区代表は、このミニッツを各州・行政区に持ち帰り現地で関係者と共有し、必要なフォローアップを行うことが推奨された。ミニッツを書面で残し共有することで、SMoCYS 内で担当者が異動するリスクにも対処が可能となった。さらに州会合後も MoYS と MoCYS が継続的かつ緊密なコミュニケーションを確保するため、MoYS は各州／行政区の MoCYS DG との情報共有を促進し、写真や文書を共有した。

州会合は、潜在的なパートナーからの支援を得る機会としても機能した。2022 年 4 月から 6 月にかけての第 6 回 NUD のあと、プロジェクトチームは国際連合開発計画 (United Nations Development Program : UNDP)、国際連合教育科学文化機関 (United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization : UNESCO)、国際連合人口基金 (United Nations Fund for Population Activities : UNFPA) と協議し、本プロジェクトと各機関の協力関係についての意見交換を行った。これらの団体は、NUD が全国から集まった多くの若者にアプローチできる貴重な機会であると考え、協力の機会を積極的に模索した。UNESCO と UNFPA は、MoYS が同組織の C/P 機関であることから MoYS への支援に高い関心を示した。これらの国際機関からは、NUD の準備段階からプロセスに関ることについて要請があったため、プロジェクトチームは、第 7 回 NUD 州会合以降は国際機関を州会合に招待するよう調整を行った。

第 7 回 NUD の準備が始まった 2022 年 11 月、本プロジェクトは UNDP、UNESCO、UNFPA を州会合に招待し、これを受け UNFPA と UNDP は会合の一部に参加した。

第 7 回 NUD の経験を踏まえ、第 8 回 NUD 州会合でもパートナーに参加してもらうよう調整した

結果、国際連合南スーダン共和国ミッション（United Nations Mission in the Republic of South Sudan : UNMISS）とドイツ国際協力公社（Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit : GIZ）が参加することになった。UNMISS 市民局は、UNMISS のスポーツ関連活動に関するプレゼンを行い、将来的な協力の可能性について話し合うプログラムを検討していた。しかし、州会合当日、州／行政区からの参加者より、会合期間中の日当を支給すべきとの主張があり、これを支払うまで会合に参加しないというボイコットが発生した。事態を収拾するため、MoYS と州／行政区参加者で協議を行う必要があり、州会合のプログラムが中断されることとなった。協議の結果、会合は再開したもののプログラム全体に大幅な遅れが生じたため UNMISS と GIZ のセッションはキャンセルせざるを得なかった。UNMISS と GIZ の参加は実現できなかったが、プロジェクトチームは UNMISS と GIZ に対して州会合のミニッツを共有することで情報の共有を行った。



第 7 回 NUD 州会合のミニッツの引き渡し



第 8 回 NUD 州会合議論の様子

1-(4) 州の行政官、コーチ、審判員に対する研修

a. 州行政官・コーチ研修

2022 年 11 月 24 日から 25 日にかけて、第 7 回 NUD 州会合に参加した州行政官とコーチを対象に、トラウマ・ケアと平和促進の視点に立ったコーチング能力を高め、より価値ある NUD の実施に貢献することを目的とした研修を実施した。

研修では、NUD の意義や特徴を説明し、第 3 回 NUD 効果測定調査の結果やウガンダでの TICAD CUP での経験共有について発表した。その後、JICA 専門家が日本のさまざまなレクリエーション体操やゲームを紹介し、参加者はこれらの体操やゲームを行いながら、レクリエーション体操やゲームの作り方・実施方法を学んだ。

また、UNDP の専門家が「スポーツにおける係争マネジメント」というテーマで、スポーツにおけるコンフリクトの解決方法や留意点についてのセッションを行った。また、UNDP の心理社会的支援専門家が「トラウマの認識と心理社会的支援トレーニング」をテーマとした講義を行い、トラウマの実態、セルフケア技能の重要性、トラウマ・ケアの必要性について説明した。

参加者からは好意的な意見が多かったが、平和促進の視点だけでなく、各競技の技術研修を熱望する声も多かった。そこで、次回の州会合で技術研修を取り入れる可能性を検討することとなった。その結果、第 8 回州会合では、技術研修を実施した。



UNDP による講義



目隠しを使ったエクササイズ

表 II-11：第7回州会合での他機関からの支援内容

機関	支援内容
UNDP	スポーツにおける係争マネジメントにかかる講義
UNDP	トラウマの認識および心理社会的支援にかかる研修

b. 州及びパイロット活動対象スポーツアカデミーのコーチのためのトレーニング

2023年9月14日から17日にかけて、第8回 NUD 州会合に参加した13の州／行政区からのコーチと、成果2に係るパイロット活動の対象としたロゴ・フットボール・アカデミー (Lologo Football Academy : LFA) とシンバ・バレーボール・アカデミー (Simba Volleyball Academy : SVA) のコーチのための研修を行った。研修では、サッカー連盟から3名、陸上連盟から2名、バレーボール連盟から3名のトレーナーを招き、理論的な講義と実習を行った。研修に先立ち、各競技担当のタスクフォースメンバーとトレーナーは、講義の内容やスケジュールについて協議し、研修内容を設計した。

研修では、各競技について、競技規則、指導内容・方法などをコーチに説明した。研修では、一般的な技術指導に加え、コーチの資質、NUDの目的である「平和のためのスポーツ」を推進するための公平・平等な競技への配慮、女子のスポーツ参加を促すための選手や保護者への接し方などについても講義が行われた。

研修に対する評価の結果、参加者の理解度は高く、講義内容が参加者の指導レベルに適していたことが確認された。また、今後の研修の必要性も確認された。



サッカー講師による座学研修



バレーボール講師による実技研修

c. 審判員リフレッシュトレーニング

2024 年 1 月 17 日から 18 日にかけて、第 8 回 NUD の審判員リフレッシュ研修を実施した。研修は、サッカー、陸上、バレーボールの各連盟から 2 名のトレーナーを招き、講義と実技講習を行った。研修に先立ち、タスクフォースメンバーによる「NUD における審判」についての全体講義が行われた。

研修では、競技ごとに、その競技のルールや試合審判の内容・方法などが説明された。また、一般的な技術指導に加え、NUD の目的である「平和のためのスポーツ」を推進するため、審判員の資質や公平・公正な競技への配慮についても講義が行われた。これにより、参加者は NUD の重要性と、NUD 審判員に求められる資質についての理解を深め、さらに NUD 審判員に必要な審判技術も習得した。この研修を通じて審判員同士の関係性が強まり、互いに協力し合うことで、NUD プログラムにおける競技の円滑な運営に貢献した。



陸上、座学研修



サッカー、実技研修

1-(5) 公平な選手選考と検証の徹底

NUD 開催に向け、選手の選考基準を明確にし、公平な選考が行われるよう地方で予選会などの競技会を実施するなどの関連活動が行われた。以下に、公平な選手選考とその検証に関するプロジェクト活動を記載する。

a. 選手選考基準の明確化

前述のとおり、選手選考基準は州会合で決定され、会合ミニッツに記録されている。その基準について理解を深めるため、州会合では、ほかの州・行政区からの参加者から、選手選考の好事例について経験を共有する時間を設けた。さらに、州会合ではアクションプランが策定され、選手選考に関連するプロセスや各プロセスの期限などが話し合われ、州会合に参加するすべての州・行政区が選手選考に必要な情報を理解できることを確保した。

b. 選手選考プロセスの実施状況を確認するためのモニタリング

MoYS が選考基準を最終決定し、州会合で州／行政区の担当者と連絡を取ったあと、MoYS は各州／行政区の選考の実施状況をモニターするために現地を訪問し、選手選考の実態を確認し、より詳細な情報を入手した。モニタリングや聞き取り調査は、NUD 開催の 2～3 カ月前の地方で予選会などが行われる時期に実施された。

公平な選手選考を行うため、SMoCYS には、直近の成績から選手を見極める方法として、それぞれの地域でカウンティ対抗の試合を実施することが奨励された。パートナーの協力を得て実施できた州／行政区もあれば、必要な財源・資源の制約、移動距離の長さ、治安上の課題から実施出来ない州／行政区もあった。それでも、各地域はそれぞれの状況下で最も効果的な選考方法を話し合い、採用した。

モニタリング対象地として、第 6 回 NUD では、トリット、ボル、アビエイ、ワウ、アウエイル、ヤンビオ、ルンベク、ジュバの 8 カ所が選ばれた。第 7 回 NUD では、トリット、クアジョク、ルウェン、マラカル、ベンティウの 5 カ所が選ばれた。第 8 回 NUD では、アビエイ、ヤンビオ、アウエイル、ルンベク、ワウの 5 カ所が選ばれた。以下は、スポーツ活動、選考プロセス、課題に関してモニタリングで確認された優れた取り組みと課題である。

表 II-12：モニタリングで確認された優れた取り組みと課題

テーマ	優れた取り組み	課題
選考手段	SMoCYS は選考委員会を設置した。委員会の設置により協議の場が設けられ、公正な選考プロセスに貢献した。（ワウ 第8回 NUD）	必要な身分証明書や出生証明書が入手できず、選考から外れる貧困家庭が多かった。（トリット 第7回NUD）
NUD 情報の共有	NUD に関する情報は、オリエンテーションや電話を通じて共有された。ラジオが効果的で、回答者の約半数がラジオを通じて NUD 選考情報を得た。（アビエイ 第8回 NUD）	- 州会合に出席していた SMoCYS の DG と Director が異動となった。新任の DG、Director は選考基準を知らなかった。（ルウェン 第7回NUD） - 州会合に参加した DG が州に戻らず、NUD の情報が大臣と共有されなかった。（ベンティウ 第7回NUD）
スポーツ活動実施予算	- スポーツ活動への個人からの寄付により、難民と受入コミュニティと一緒にスポーツを楽しんでいる。個人が資金を提供して自主的に実施している例である。（ルウェン 第7回NUD） - SMoCYS 大臣が第7回NUD について州で行われている閣僚会議で情報を共有したところ、知事の支持を得ることが出来た。（クアジョック 第7回NUD）	スポーツ振興の体制は全般的に弱く、予算も限られており、政府主導の活動もない。（ルウェン 第7回NUD）
関係機関の連携	SMoCYS と NGO の連携が強い（例：グラウンド整備を NGO が支援した）。（マラカル 第7回NUD）	州会合後に NUD に関する情報が州サッカー連盟と適切に共有されていないため、SMoCYS と州サッカー協会との間に不和がある。（トリット 第7回NUD）
社会文化的要因		女子選手の親が娘にスポーツをさせないこともあり、陸上競技の選手が少ない。（ルンベク 第8回NUD）
治安		アビエイとトウィッチ間の民族間緊張の高まりが、選手選考を含むスポーツ活動を妨げた。（アビエイ 第8回NUD）



ルウェンでのモニタリング



マラカルでのモニタリング

c. 選手の決定

各州／行政区は代表選手を選出したあと、SMoCYS が推薦書と必要書類を MoYS に提出することになっていた。タスクフォースメンバーがそれぞれ 3～4 の州／行政区を担当し、州／行政区と調整しながら代表選手を最終決定するという流れで選考が行われた。州／行政区から推薦書と必要書類（ID／出生証明書、写真、等）を受け取ると、タスクフォースメンバーが確認することになるが、多くの州／行政区は提出が州会合で合意された提出期限に間に合わなかったり、虚偽の ID が送られることもあり、タスクフォースメンバーによる第 1 次チェックにはかなりの時間を要した。タスクフォースメンバーによる 1 次チェックのあと、スポーツ連盟の審判員 3 名、州スポーツ協会の上級審判員 2 名、MoYS タスクフォースメンバーで構成される各競技の技術委員会のメンバーが書類を再度確認し、資格のある選手を最終決定した。選手の最終決定後、NUD 期間中の選手の入れ替えを防ぐため、選手の顔写真入りの ID が用意された。第 6 回、第 7 回、第 8 回 NUD の種目別参加者数を下表に示す。

表 II-13：第 6 回 NUD の参加者

競技	サッカー	陸上		バレーボール
	男子	男子	女子	女子
参加者数 (チーム、競技毎の参加者)	10 チーム	7 チーム	7 チーム	6 チーム
	200 名	56 名	56 名	60 名
	合計 372 名			

MoYS は、2022 年 3 月 19 日から 27 日までジュバで第 6 回 NUD を開催し、13 の州／行政区から合計 372 名の選手、24 名の州行政官、44 名のコーチが参加した。アビエイは治安上の懸念からチームを派遣できなかった。州のオーナーシップを促進するため、各州は参加するサッカー選手全員と各州／行政区からジュバまでのコーチ 1 名の渡航費を負担することが求められた。それぞれの地域の財政事情により、ヤンビオとアウエイルは渡航費を確保することができず選手を出場させることが出来なかった。

表 II-14 : 第 7 回 NUD の参加者

競技	サッカー	陸上		バレーボール
	女子	男子	女子	女子
参加者数 (チーム、競技毎の参加者)	13 チーム	6 チーム	6 チーム	7 チーム
	156 名	48 名	48 名	84 名
	合計 336 名			

MoYS は 2023 年 3 月 26 日から 4 月 1 日までジュバで第 7 回 NUD を開催し、13 の州／行政区から 336 名の選手、26 名の州行政官、52 名のコーチが参加した。これまでの NUD では 20 歳以下の青少年を対象としていたが、本大会では 17 歳以下に変更して、より若い年齢層をターゲットとし、才能ある若い選手により多くの機会が与えられることとなった。また、第 7 回 NUD のサブテーマであった女性のスポーツ参加推進に伴い、女子サッカーが初めて競技種目として採用された。その結果、参加選手 336 名中 288 名（約 86%）が女性となった。本大会の男子選手及びアシスタントコーチの旅費は各州が負担することになっていたが、全州が自助努力により渡航費を確保した。このような努力の結果、第 7 回 NUD は、NUD 開始以来、初めて全州／行政区が参加した大会となった。

表 II-15 : 第 8 回 NUD の参加者

競技	サッカー	陸上		バレーボール
	女子	男子	女子	女子
参加者数 (チーム、競技毎の参加者)	12 チーム*	6 チーム	7 チーム	5 チーム
	120 名	42 名	52 名	50 名
	合計 264 名			

*ピボットチームはサッカー競技出場として登録を行っていたが、サッカーの技術指導が十分でなかったためサッカーに出場せず、陸上競技に出場した。ただし、登録上はサッカーチームとして登録されているため、サッカーチームの登録数には、実際にはサッカー競技に出場していないピボットチームも含まれている。

MoYS は、2024 年 1 月 28 日から 2 月 3 日までジュバで第 8 回 NUD を開催し、13 の州／行政区から合計 264 名の選手、13 名の州行政官、48 名のコーチが参加した。前回同様、17 歳以下が対象となり、女子サッカーが採用された。アビエイは治安上の懸念からチームを派遣できなかった。

d. 大会中の目視での確認

本プロジェクトで実施されたすべての NUD において、技術委員会は、選手がジュバに到着し宿舎に登録する際に選手 ID の写真と実際の選手を目視で確認し、事前書類審査で承認された選手と登録選手に相違がないことを確認し、確認が取れた選手には ID カードを手渡した。また、各試合前には、審判員が選手の ID カードの写真と出場選手の顔を目視で確認し、選手が入れ替わっていないことを厳密に確認した。



技術委員会による選手の確認と ID の配布



試合前の審判員による ID 確認

1-(6) NUD のためのサービス・物品の調達

NUD の実施には、数多くのサービスや物品の調達が行われた。一部の物資はパートナーが調達し現物支給を行ったが、それ以外はすべて本プロジェクトの資金で調達している。

まず、プロジェクトチームと JICA 南スーダン事務所は、NUD の運営に関連するすべてのサービスや物品のリストを作成し、それらの調達方法について協議した。そして、その調達手順と内容をもとに、a) JICA 南スーダン事務所が契約したイベントコンサルタントが調達するもの、b) JICA 南スーダン事務所が調達するもの、c) MoYS と JICA 南スーダン事務所間で交わされた NUD 実施に関する覚書に基づき MoYS が調達するもの、d) 本プロジェクト予算を利用し、MoYS が調達するもの、e) 本プロジェクトが現地業者と再委託契約を結び、現地業者がサービス提供を行うもの、に分類した。基本的に、1 契約あたりの金額が大きい契約や選手の安全に関わる契約は JICA 南スーダン事務所が調達主体となるよう分類した。

a. イベントコンサルタントによる調達

JICA 南スーダン事務所が契約したイベントコンサルタントによる調達には、開会式・閉会式の会場設営、参加者の宿泊・食事提供、参加者の輸送手配などの物品・サービスの調達が含まれる。この調達に関し、MoYS は物品とサービスのリストを作成し、イベントコンサルタントの委託事項（Terms of reference : ToR）を確認し、応札者のプロポーザルを評価し、調達した物品の搬入とサービスの質を確認した。また、イベントコンサルタントの調達実施に不備があった場合、MoYS は JICA 南スーダン事務所と連携してイベントコンサルタント会社に指導を行った。NUD 実施中、MoYS とイベントコンサルタントの間では、イベントコンサルタントの提供するサービスの質が十分でないという理由でしばしば対立が見られた。特に、食事の量や質、宿泊施設の運営などで意見が対立するケースが多々あった。そのため、第 8 回 NUD では、本プロジェクトが直接ケータリング会社と契約し、品質と数量をより厳密に管理することになった。この取り決めにより、綿密な監理、調整、協議を通じて、十分な量の質の高い食事の提供が実現した。

b. JICA 南スーダン事務所による調達

この調達形態には、選手の州からジュバまでの航空賃と、ジュバ市内の警備費用（国家安全保障局（National Security Service : NSS）や警察など）が含まれる。この調達では、MoYS が各州／行政区や関係機関と航空便の出発・到着時間について調整し、警備については NSS や警察と派遣人数や単価について調整した。

c. MoYS と JICA 南スーダン事務所間で交わされた NUD 実施に関する覚書に基づき MoYS が調達するもの

この調達形態では、第 6 回 NUD に関する MoYS と JICA 南スーダン事務所との間の覚書に基づき、MoYS が調達を行った。この調達には、参加者の ID、招待状、開会式・閉会式及び平和と文化の日（Peace and Culture Day）の経費の一部、スポーツ用品、警備サービス、医療サービスなどが含まれる。JICA 専門家は、MoYS が調達したこれらの物品・サービスの調達手続きを支援した。このプロセスにおいては、JICA 専門家は見積書の受領状況、支払方法（銀行振込または現金支払）、支払いに必要な書類（請求書と納品書）を示した調達物資の調達モニタリング表を作成し、円滑な調達を支援した。

d. 本プロジェクト予算を利用し、MoYS が実施する調達

第 7 回 NUD から、安全管理のためのサービスを除き、調達するすべての物品とサービスを本プロジェクト予算で購入することとなった。この変更により、調達に係る手続きが簡易になり、調達プロセスに大きな柔軟性がもたらされた。このため、追加の物品やサービスの購入が必要になった場合、急な変更にもスムーズに対応することができた。さらに、スポーツ用品の仕様については、タスクフォースメンバーが JICA 専門家とともに目視で確認し、適切なスポーツ用品を調達できるようにした。MoYS は当初から調達プロセスに深く関与していたため、責任を持って調達業者を管理し、業者と良好な関係を築くことができた。

e. 現地業者との再委託契約により現地業者がサービス提供を行うもの

本プロジェクトが現地業者との再委託契約を結び、現地業者がサービス提供を行った調達として、第 7 回 NUD と第 8 回 NUD の効果測定調査と第 8 回 NUD のケータリング契約が挙げられる。前者は NUD のインパクトを評価するための調査で、後者は、宿泊施設で選手やコーチに食事を提供するための業務である。このケータリング業務は、第 7 回 NUD まではイベントコンサルタント契約に含まれていたが、サービスの質の低さがしばしば問題となっていたため、JICA 南スーダン事務所に対して、プロジェクトチームが直接ケータリング業務を管理することを提案し、JICA 南スーダン事務所もこれを受け入れた。本プロジェクトでは、MoYS とともに再委託契約書の作成、メニュープランの立案、選定過程での試食などを行い、サービスの質の確認や資材の調達方法などをチェックしたうえで選定を行った。これにより、第 8 回 NUD では例年に比べて食事の質・量ともに充実したサービスを提供することができた。このプロセスを経て、MoYS は調達請負業者の管理に関する能力を大幅に向上させた。



宿舎となる学校のアセスメント



宿舎で使用するマットレスの確認作業



調理器具の確認作業



ケータリング会社選定のための試食会

1-(7) スポーツ競技

第6回 NUD では、9 日間の大会期間中、7 日間にわたって競技スポーツの試合が行われた。第7回、第8回 NUD では、7 日間の大会期間中に4 日間にわたって競技が行われた。試合はジュバ市内の4〜5 カ所の競技場で行われ、MoYS は技術委員会や競技連盟と協力し、試合日程の作成、グラウンドや競技場の整備・使用の調整、審判や医療関係者への必要な指導など、スポーツ競技の実施全般を監督した。NUD を重ねるごとに、技術委員会や各競技連盟との関係も深まり、競技会も円滑に運営されるようになった。

a. オリエンテーションにおける公平性に関するセッションの実施

スポーツ競技において MoYS は競技の公平な実施を強調している。そのため、NUD の初日に MoYS が主催する SMoCYS の DG、コーチ、選手を対象としたオリエンテーションのなかで、サッカーの国際レベルの審判員がフェアプレーについて説明した。第6回 NUD までは、競技開始前に MoYS が各州／行政区の代表者とコーチを集めてくじ引きを行い、サッカーとバレーボールの予選グループのグループ分けした。その後、第7回と第8回の NUD では、サッカーとバレーボールのグループ分けのくじ引きは、選手を含む参加者全員が参加するオリエンテーションのなかで、公開した形で行われ、参加者に競技の公平性を認識させた。

b. 公正な問題解決

競技実施における技術的・一般的な問題を解決するために、競技ごとに組織委員会と技術委員会の2種類の委員会が設置された。これらの委員会の役割と責任、問題解決のプロセスは、州会合で説明され参加者によって合意された。この委員会は有効に機能したため、設置の必要性が関係者によって認識された。

c. 公正さに対する表彰

競技におけるフェアプレーを重視し、技術委員会は大会を通じてフェアプレーを行ったチームを選出し、本チームに対して閉会式でフェアプレー賞を授与した。



第8回 NUD ブルク競技場の整備



第8回 NUD 陸上競技前の審判員の打ち合わせの様子



第6回 NUD 男子サッカー



第7回 NUD 女子サッカー



第7回 NUD 宿舎での食事風景



第8回 NUD けが人に対する治療

1-(8) 平和促進ワークショップ

平和推進ワークショップは、NUD 実施期間中に選手たちに平和推進に関する特定のトピックについて意識を高めるために実施されたワークショップである。ワークショップは数日に分けて実施され、各ワークショップは約2時間程度実施された。各 NUD でワークショップを実施したパートナー団体とワークショップの内容は以下のとおりである。これらのワークショップは、NUD に参加した若い選手たちにとって、NUD の目的、フェアプレーの重要性、南スーダンの状況、自分たちで出来る平和を促進するための活動、ジェンダーの問題などについて考える良い機会となった。また、これらのワークショップを通じて、多くのパートナーが本プロジェクトと協力し、活動を企画・実施した。

表 II-16 : 第 6 回 NUD における平和推進ワークショップ概要

実施日	内容	実施機関
2022 年 3 月 19 日 (土)	・ NUD の概念 ・ 紛争マネジメント	・ MoYS ・ UNMISS 民生部
3 月 21 日 (月)	・ 平和と安全の安定のための重要なステップとしての紛争下での性的暴力 ・ トラウマの癒しと心理社会的支援	・ UNMISS シニア女性保護アドバイザー事務所 ・ UNDP ジュバ大学心理学者
3 月 26 日 (土)	・ GBV と身体的自律性 ・ 月経の健康、MHM ラボのデモンストレーション ・ 早期・意図しない妊娠/包括的性教育 ・ 子宮頸がん啓発活動	・ Young Positives South Sudan ・ AfriYAN 南スーダン支部 ・ Shab le Shahab Youth Alliance Amref South Sudan ・ 看護師・助産師協会 (SSNAMA)

表 II-17 : 第 7 回 NUD における平和推進ワークショップ概要

実施日	内容	実施機関
2023 年 3 月 26 日 (日)	・ NUD の概念 ・ フェアプレー ・ UNMISS のマンデート	・ MoYS ・ 南スーダンサッカー連盟 ・ UNMISS
3 月 30 日 (木)	・ 平和構築・ジェンダー・トラウマワークショップ	・ UNDP

表 II-18 : 第 8 回 NUD における平和推進ワークショップ概要

実施日	内容	実施機関
2024 年 1 月 28 日 (日)	・ NUD の概念 ・ フェアプレー ・ 平和ワークショップ ➢ 平和構築・ジェンダー・トラウマ	・ MoYS ・ 南スーダンスポーツ連盟 ・ UNDP
2 月 1 日 (木)	・ 平和ワークショップ ➢ UNMISS マンデート ➢ ジェンダー平等 ➢ 紛争解決と社会的統合 ➢ 憲法制定手続き ➢ 選挙手続き	・ UNMISS
2 月 1 日 (木)	・ エクササイズを利用した平和促進ワークショップ	・ GIZ
2 月 3 日 (土)	・ ピースビルダーズワークショップ：若者のジェンダー啓発を通じた平和と社会的結束	・ NewGen Peacebuilders



第8回 NUD UNDP による平和ワークショップ



第8回 NUD NewGen Peacebuilders によるワークショップ

1-(9) 平和と文化の日

NUD の主な目的は、スポーツの持つ力を活用し、人々を一つにまとめ、人々の友好的な交流を促進することである。NUD の期間中、MoYS は「平和と文化の日 (Peace and Culture Day)」というイベントを開催した。これは選手同士の交流と親睦を目的としたレクリエーションイベントで、州や行政区からの参加者を混ぜ、男女混合のチームを編成し交流を行った。当日は縄跳び、徒競走、障害物競走、綱引き、ボルボル (南スーダン発祥の女子のボールゲーム) などを実施し、選手間の交流を図った。縄跳びやかかけっこは、チームメイトと協力して回数を増やし、スピードを上げることが必要なレクリエーションである。選手たちはチームメイトと話し合い、試行錯誤しながら練習を重ね、より良い結果を出すように努めた。勝利のために作戦を話しあったり、練習を繰り返すことで、選手たちは互いに交流する機会を増やし、一緒に楽しみながら交流することで、初対面の他地域からの参加者に対する不安を和らげることができた。

伝統的なダンス、平和の歌、詩の朗読、文化劇も披露された。ダンスでは、プロのダンスチームが選手たちのためにさまざまな民族の踊りを披露した。南スーダンは多くの民族で構成されており、それぞれの民族が独自のダンスを有している。選手たちは踊りから他民族の文化を学ぶ機会を得た。自分たちの民族ダンスを見た選手たちは熱狂し、プロのダンサーに混じって自分たちのダンスを踊ることもあり、歌とダンスにより平和で楽しい雰囲気のイベントとなった。



第7回 NUD ボルボル



第6回 NUD 綱引き

1-(10) 広報活動

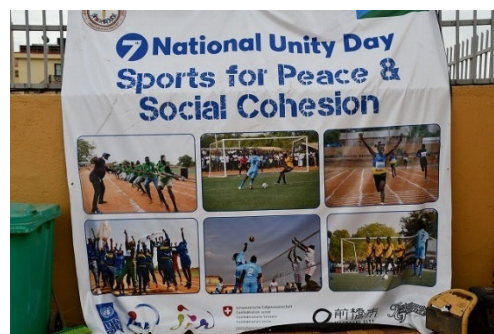
NUD 開催に際しては、さまざまな広報活動が行われた。以下に、イベント期間中に行われたすべての広報活動について記す。

表 II-19 : NUD における広報活動

イベント	手段	活動と成果
第 6 回 NUD	ポスター	ジュバ市内にポスター2,000 枚掲示
	バナー	ジュバ市内にバナー13 枚掲示
	ラジオ	ラジオトークショー3 回
	イベント	コミュニティイベント 3 回実施
第 7 回 NUD	ポスター	ジュバ市内にポスター2,000 枚掲示
	バナー	ジュバ市内にバナー30 枚掲示
	ラジオ	ラジオトークショー2 回 (Miraya、Eye Radio)
	テレビ	トークショー1 回、インタビュー2 回
第 8 回 NUD	ポスター	ジュバ市内にポスター1,000 枚掲示
	バナー	ジュバ市内にバナー30 枚掲示
	ラジオ	トークショー (Miraya、Advance Youth Radio、City FM)
	テレビ	開会式、平和促進ワークショップ、平和と文化の日、閉会式の生中継
	Facebook	NUD アカウントから NUD に関する記事を 12 件掲載



ラジオトークショーへの出演



バナー

1-(11) 南スーダン政府及びパートナーからの資金・資源動員

a. 南スーダン政府からの資金・資源動員

MoYS は、NUD の毎年の継続開催を熱望しており、本プロジェクト開始当初から本プロジェクト成果の持続的発展（サステナビリティ）が重要であることを認識してきた。他方、南スーダン政府の財政状況に大きく改善がなく、MoYS は本プロジェクト期間中、人件費及び事業費ともに欠乏する状況に直面した。本プロジェクトでは、NUD 実施に係る自国政府の努力を促すため適宜次官に直接 NUD へ政府予算の配賦を提案したが、本プロジェクト期間中、NUD のための南スーダン政府予算の配賦は実現しなかった。

2023 年 12 月、大臣から次官・局長に対し、MoYS スポーツ戦略文書の策定に必要な支援を得るための対外企画書（コンセプトノート）起案支援を本プロジェクトで検討するよう要請があった。この戦略文書は、MoYS が今後スポーツ政策・事業を実施するために必要な資金動員のツールとして活用できるものであり、MoYS は国連機関にこの企画への支援を打診する想定であった。そこで、プロジェクトはコンセプトノートの起案を支援したが、結果的には、省庁内において、戦略文書を策定する企画は中止となった。

b. 開発パートナーからの資金・資源動員

本プロジェクト期間中、MoYS は NUD の協賛を募る目的で「パートナーシップ・フォーラム」を各 NUD の開催前に 2 回ずつ主催した。同会合の招待状は、主に欧米大使館・援助機関、国連機関、外資系企業宛てに発出された。会合の内容は、これまでの NUD の経緯と実績を紹介し、開催予定の NUD の日程、規模、競技などの詳細計画及び必要な物資・サービスを発表し、出席者に物資・サービスの寄付、サイドイベントの企画・参加、NUD の掲げる価値のメディア等を通じた発信などへの協力を求めるものであった。

パートナーシップ・フォーラムを経て、パートナーより、物品・サービスの現物寄付、NUD の目的を伝えるサイドイベントの開催、さまざまなメディアやネットワークを通じて NUD の価値を広めるための広報支援等の打診があった。現金の寄付に関する申し出もあったものの、MoYS や本プロジェクトに外部資金を管理する受け皿がなかったため、現金での寄付は受け付けなかった。そのため、スポンサーは原則として、MoYS のリクエストに従って特定の物品やサービスを調達・供給し、必要な調整や調達のための調整コストを負担することが期待された。プロジェクトチームは、大会実施のために調達が必要なすべての物資・サービスの一覧を作成し、そのなかから①本プロジェクト予算では予算の制約上調達が不可能なもの（T シャツ、ジャージ、賞品・景品など）、②協賛者にとって寄付しやすいもの（スポーツ用品、トロフィー、メダル、啓発ワークショップなど）を特定し、支援要請を行った。



第 7 回 NUD に向けたパートナー・フォーラム



第 6 回 NUD に向けたパートナー・フォーラム

以下に、資金・資源動員に係る活動と実績を大会ごとに示す。

第 6 回 NUD

第 6 回 NUD については、2021 年 11 月 3 日及び 2022 年 2 月 2 日にパートナーシップ・フォーラムを開催した。参加者はそれぞれ 2 者（UNDP、ZAIN）、7 者（GIZ、スウェーデン大使館、アメリカ合衆国国際開発庁（United States Agency for International Development : USAID）、UNDP、UNFPA、国連高等弁務官事務所（United Nations High Commissioner for Refugees : UNHCR）、UNMISS）であった。会合に出席した団体に加え、青年、スポーツ、文化を管轄とし、過去に連携実績のある UNESCO 及び日本人職員が在籍し JICA 事業との連携に関心を寄せていた UNHCR にも個別にアプローチし、結果として 7 者（UNDP、UNESCO、UNFPA、UNHCR、UNMISS、ZAIN、JIN）の協賛を得た。なお、上述 7 者に加え、閉会式の際に南スーダンの企業から優勝者への賞金の提供があったが、これは主催者側に知らされておらず、ほかの協賛者への配慮に欠け大会の運営管理上好まし

くないと考えられたことから、第7回 NUD 以降は同企業もパートナーシップ・フォーラムに招待をした。第6回 NUD の資金・資源動員の成果を以下の表に示す。

表 II-20：第6回 NUD の資金・資源動員の成果

組織	支援内容
UNDP	ジャージ、平和と文化の日 T シャツ、ポスター、平和促進ワークショップ（トラウマ治療と心理サポート）、レスリング親睦試合（開会式・平和と文化の日）
UNMISS	平和促進ワークショップ（平和と安定のための紛争管理・紛争下の性暴力）、競技場整備、開会式スピーチ、閉会式催し、UNMISS ラジオ局の協力
UNFPA	バレーボールチームのユニフォーム、ボクシングチームのユニフォーム、平和促進ワークショップ（ジェンダーに基づく暴力とからだの自己決定権、月経に関わる健康と月経衛生管理ラボの実演、早すぎる妊娠・予期せぬ妊娠）、包括的性教育、子宮頸がん啓発）、イベント会場と宿舎でのブース展示
UNESCO	平和と文化の日 T シャツ、閉会式催し
Zain	バナー、ラジオトークショー
Just Donald Smart Company	賞金・賞品、親善試合用のパネル
JIN	競技・ワークショップにかかる費用、式典用品、マスク、T シャツ、宿舎（学校）への椅子

第6回 NUD では、物資供与を約束した協賛者が支援を忠実に履行せず、不都合が生じたケースが複数あった。ジャージ、ポスター、サッカーボールは、納品が期日より大幅に遅れ、大会開始に間に合わなかった。サッカーボールについては、遅れについて事前に通知があり、本プロジェクト予算で調達した。バナーは数が不足し、写真の画質も悪く、さらに納品の遅れにより、効果的な広報活動ができなかった。「平和と文化の日」イベントに催しを行うはずのパフォーマンス・グループは、予定していた日時に会場に現れなかった。大会に必要な物資・サービスを協賛者から確実に受け取るため、あるいは、納品が間に合わないことを早めに察知し可能な限りの対策をとるためには、協賛者とのきめ細かい調整が必要であることが明らかとなったものの、大会の運営で多忙な主催者側がそのような調整を負担するのは困難であった。リスクを減らす工夫として、次回以降、協賛の嘆願期限を早めに設定し、さらに、調達にかかる期間の目安を主催者から協賛者に嘆願時点で共有しつつ、期限厳守の必要を強調することとした。

第7回 NUD

第7回 NUD については、2022 年 12 月 8 日及び 2023 年 3 月 7 日にパートナーシップ・フォーラムを開催し、それぞれ 3 者ずつ（第1回は UNDP、UNMISS、国連児童基金（United Nations International Children's Emergency Fund : UNICEF）、第2回は UNMISS、スイス開発協力局（Swiss Agency for Development and Cooperation : SDC）、GIZ が出席した。

関心を表明した団体と個別の調整の結果、5 者から現物支援の提供があった。協賛者数は前回に比し減少したものの、各者の支援量は比較的大きなものとなった。第6回 NUD の反省から、協賛者には調達に必要な期間の目安を共有し、物品の納期厳守を要請したものの、ジャージ、競技練習着、ポスターについては大会初日に間に合わせることはできなかった。SDC からは 30,000 フランを上限とする贈与合意を得て、プロジェクトチームは調達する物品・サービスを特定し、調達支援を行った。また、SDC に提出する報告書の作成を行った。下表に、協賛内容を示す。

表 II-21：第7回 NUD の資金・資源動員の成果

組織	支援内容
UNDP	ジャージ、競技練習着、ポスター、平和促進ワークショップ（平和構築、ジェンダー、トラウマ・ケア）、レスリングの催し
SDC	スポーツ用品、表彰景品、医療サービス、バナー、州行政官のジュバまでの渡航費
UNMISS	平和促進ワークショップ（UNMISS のマンデート）、ラジオトークショー
前橋市	サッカーボール、サッカー練習着
JIN	スポーツ用品、T シャツ

第8回 NUD

第8回 NUD については、2023 年 11 月 7 日及び同月 28 日にパートナーシップ・フォーラムを開催した。初回は 5 者（GIZ、NewGen Peacebuilders（以下、「NewGen」という。）、UNDP、UNMISS、USAID）、2 回目は 2 者（GIZ、UNMISS）が出席した。UNDP からは、第8回 NUD の時期である 1 月は予算配賦前であるため、物資の支援が難しい旨、表明があった。UNMISS、GIZ、NewGen からそれぞれ支援表明があった。別途調整を行った SDC については、JICA 南スーダン事務所と SDC 間で選手の地方からジュバへの航空賃と警察や軍への警備謝金に関する支援の協力合意が実現し、プロジェクトチームは選手の移動に関する州との調整や警察・軍との調整を行った。下表に、協賛内容を示す。

表 II-22：第8回 NUD の資金・資源動員の成果

組織	支援内容
UNMISS	バナー、T シャツ、スポーツ用品、UNMISS ラジオの協力、平和促進ワークショップ、ソーシャルメディア上の情報発信
SDC	選手の渡航費（航空券・バス）、警備・治安にかかる費用
NewGen Peacebuilders	平和促進ワークショップ、ラジオトークショー、南スーダン国営テレビ放送での露出、バナー
GIZ	平和促進ワークショップ、生理用品
UNDP	平和促進ワークショップ
South Sudan Football Association	生理用品
AfriYAN	生理用品
JIN	生理用品、宿舎（学校）の椅子、T シャツ



第6回 NUD UNFPA による啓発イベント



第8回 NUD 生理用品の寄付

1-(12) 第7回 NUD の効果測定調査

本プロジェクトでは、第7回 NUD の効果測定調査を実施し、NUD の公平性、包摂性の確認、NUD の効果の評価という二つの調査を行った。データ収集は、現地のコンサルタントである Skillmax Consulting 社（以下、「Skillmax 社」という。）が担当した。現地調査は、質的・量的調査の経験が豊富な Skillmax 社のチームと、調査に必要な人数に応じて割り当てられた調査アシスタントによって行われた。データの入力と分析は Skillmax 社が行い、さらなる分析と最終報告書のまとめは JICA 専門家チームが担当した。

調査の目的は、NUD の目的である社会的結束と女性のスポーツ活動への参加のインパクトを分析することであった。

表 II-23：第7回効果測定調査の対象、手法

対象	手法
州行政官	半構造化インタビュー（21 名）
選手	質問票による調査（67 名）
コーチ	半構造化インタビュー（26 名）

調査対象者総数は 114 名で男性が 58 名（50.9%）、女性が 56 名（49.1%）であった。以下は調査によって確認された主要事項である。

a. NUD の公平性・包摂性

大多数の州・行政区が NUD の代表選手を選抜するために 1 回以上の競技会を開催し、公平性を確保していることが確認された。これは、コーチや州政府関係者の主観的な判断ではなく、多くの選手が実力に基づいて選抜されていることを意味する。また包摂性の観点からは、コーチや州政府関係者は、財政的制約、道路状況の悪さ、治安の問題などにより、州・行政区にあるすべての郡から選手を選抜することは難しい状況である。しかしながら、包摂性に対する満足度は高く、州・行政区の限られた能力の範囲で、比較的包摂性の高い選手選考プロセスが実施されていることが示唆されている。

また、公平性と包摂性を担保するためにはさまざまな課題に直面していることも確認された。州政府関係者の大多数（76.2%）が、選考プロセスに関して何らかの問題を抱えていると回答しており、その主な課題には、競技場の不足、ボールなどのスポーツ用品へのアクセスの制限、競技会場までの長距離移動、ユニフォームの不足などである。

b. 第7回 NUD のインパクト

調査結果によると、ほぼすべての選手（98.5%）が、他州の選手と交流したと回答していることが明らかとなった。さらに、単に交流しただけでなく、その交流を「楽しんだ」ことも、選手たちの回答から確認され、これは参加者が交流を通じて平和と結束について学んだことを示している。また、第7回 NUD で学んだことに関する質問に対して、大多数（87%）の選手が「スポーツは一体感を生み出す」と回答しており、66%の選手が「スポーツは人々を結束させることができる」と学んだと回答している。さらに、選手の半数以上が、結束の重要性（77%）、社会的結束や他者と協力する方法（55%）を学んだと回答した。

これらの結果から、全体として、第7回 NUD は、異なる州の人々との交流を促進し、若い選手たちの間で平和と結束を促す上で、肯定的な影響を与えたと言える。

c. 第7回 NUD への女性選手の参加

調査結果とその分析から、第7回 NUD は、若い選手の平和と団結を促進するという目的を達成することに成功したと結論づけることができる。特に特筆すべきは、女性のスポーツ参加促進に繋がった男子サッカーから女子サッカーへの競技種目の変更が好意的に受け止められ、さらに第8回 NUD でも同様のアレンジの継続を望む回答が多数を占めたことである。女性が軽視されがちなスポーツ環境のなかで、この変更が受け入れられたことは、NUD をより包摂的なものにするための大きな一歩であった。本調査の結果を踏まえ、本プロジェクトは第8回 NUD の種目として女子サッカーを採用した。

一方、回答者は女性がスポーツに参加する上でのさまざまな障壁を挙げており、その中でも南スーダンにおけるジェンダー役割の認識が女性選手のスポーツ参加を妨げる要因となっているとの意見が多数を占めた。例えば、女性がスポーツをすることへの親からの反対や家事をしなければならないことが NUD への参加を妨げる理由として挙げられており、これは伝統的な性別に基づく労働分担を反映していると言える。つまり、女性は家庭に留まり、主に家族や家事に従事すべきであるという社会的な期待が、女性選手のスポーツ参加を困難にしていると推測される。

1-(13) NUD の評価

2018年9月、JICA は MoYS 自身が NUD を計画・実施できるようになるため、NUD マニュアルの作成を支援した。このマニュアルは全25章で構成されており、NUD の実施に必要な準備作業の概要や運営に関するノウハウがまとめられている。

MoYS、JICA 南スーダン事務所担当者、JICA 専門家が NUD 実施後にレビュー会議を開催し、NUD マニュアルのレビュー項目に沿って、NUD の成果、課題、問題点を項目別に確認した。本プロジェクトが実施した3回の NUD の成果と課題・問題点を項目別に下表に取りまとめた。

医療サービス、宿泊サービス等の課題については、今後の対策を議論した。このプロセスを通じて、次の NUD でいくつかの改善が実現された。また、州会合では、SMoCYS が NUD の反省点を各州の DG やコーチと共有することで、次の大会では各州からの参加者の対応にも変化が見られた。このような点から、すべての関係者による反省会を開催し、情報を共有することは、多くの関係者が関わるメガスポーツ大会の実施において重要な取り組みであると考えられる。

表 II-24 : NUD 実施の評価

項目	確認事項
【成果】	
・ 全体事項	・ MoYS は、さまざまなステークホルダー（SMoCYS 行政官、コーチ、警察、NSS、イベントコンサルタント、JICA を含むパートナーなど）と協力し、NUD を適切に運営した。（第6回、第7回、第8回 NUDs）
・ COVID-19 予防策	・ NUD の前後に COVID-19 の検査を実施。イベント終了後に感染者が数名発見され、隔離された場所（自宅や JICA 南スーダン事務所が用意したホテルなど）で治療を受けた。（第6回 NUD）

項目	確認事項
・ ルール・規則 ・ 宿泊施設 ・ 安全管理 ・ 女子サッカー ・ すべてのチームの参加 ・ 若い世代への普及 ・ 審判員 ・ 医療 ・ 広報活動 ・ パートナースhip	・ 州会合で合意されたスポーツ競技の規則は周知され、機能していた。参加者からこれらに関する苦情は挙げられなかった。(第6回 NUD) ・ 新しい宿泊施設であるマゾルディ小学校の立地や環境が適切であった(ジュバの中心部にあるという立地、フェンスの状況、出入口が一つであったこと等)。学校との調整は MoYS が適切に行った。(第6回 NUD) ・ MoYS は警察に対し、閉会式での警察官の増員を要請した。警察は自主的に警察官を 40 人から 100 人に増員した。MoYS による NSS との調整もうまく機能していた。(第6回 NUD) ・ 男子サッカーの代わりに女子サッカーを実施したことで、女性のスポーツ参加が増加した。(第7回 NUD) ・ NUD 開催以降初めて全チームが NUD に参加した。各州・行政区が負担するはずの男子陸上競技選手とコーチの旅費を全チームが捻出した。(第7回 NUD) ・ これまでの NUD に比べ、若い世代の選手が参加した。若い世代に NUD のメッセージが伝わった。(第7回 NUD) ・ 審判が組織的に動いていた。トレーニングがうまくいった。(第8回 NUD) ・ 赤十字とモロボ病院は適正な価格で良いサービスを提供した。(第7回、第8回 NUDs) ・ SSTV、Eye Radio、Miraya FM でのトークショーは、平和と社会的結束のためのスポーツのメッセージを市民に広めた。(第7回 NUD) ・ 七つのパートナーが第6回大会、5つのパートナーが第7回大会、8つのパートナーが第8回大会を支援した。 ・ UNMISS は第8回大会のために陸上競技用具を支援した。(競技物品へのパートナーの支援は初めてであった)(第8回 NUD)

【課題】

・ 州会合 ・ 選手選考 ・ 失格 ・ 大会到着の遅れ ・ ジュバ市内の移動 ・ 競技の表彰 ・ 平和促進ワークショップ ・ 平和と文化の日 ・ 医療 ・ 広報活動 ・ パートナースhip	・ 州会合に参加したコーチや州行政官が NUD に参加しなかった。NUD に参加するコーチや行政官を州会合に派遣するよう SMOcYS に通知すべきである。(第7回 NUD) ・ SMOcYS の DG がインセンティブを要求し会合が中断し、再開までに長い議論になった。一方、コーチはインセンティブを要求しなかった。(第8回 NUD) ・ 選手の選考基準が守られていない州があった。一部の州では、書類(出生証明書や年齢確認書類等)を操作していた。疑わしい州の選考を監視することが不可欠である。(第6回、第7回 NUDs) ・ DG とコーチのコミュニケーション不足がプロセスを遅らせた。タスクフォースメンバーがコーチと直接やりとりする場合でも、DG との情報共有は不可欠である。(第6回 NUD) ・ 技術委員会のメンバーが、ジュバにきた選手のなかに不適格者がいることを発見し、失格とした。(第6回 NUD) ・ 推薦書の審査や選手の到着時に一部の選手が不適格であることが判明し、失格とした。タスクフォースは、すべてのケースをまとめ、州会合で失格の事例を共有し罰則について説明する必要がある。(第7回 NUD) ・ NUD 開会後に 二つのサッカーチームがジュバに到着した。これはサッカーの対戦表に変更を与える問題であった。(第6回 NUD) ・ イベントコンサルタントが調達した 4 台のバスでは足りず、本プロジェクトが追加で 2 台のバスを急遽調達した。前回大会はバス 8 台であった。バスの必要台数を事前に計算する必要がある。(第8回 NUD) ・ 各競技の表彰数のバランスを考える必要がある。(第8回 NUD) ・ 講義形式のワークショップが多く、多くの選手が集中力を失っていた。講師と選手の双方向的なワークショップ形式が望まれる。(第6回、第8回 NUDs) ・ プログラムから演劇が省略された。司会者はプログラムをきちんと把握する必要がある。(第8回 NUD) ・ 各競技場に救急車が待機していなかった。また、必要な薬も準備されていなかった。サービスの質が低い。(第6回 NUD)。 ・ コミュニティイベントの PR 効果を再検討し、ほかの活動への予算振り替えを検討する必要がある。(第6回 NUD) ・ UNDP が調達したポスターやバナーの納品が遅れた。(第6回 NUD)
--	---

項目	確認事項
・ 両親の反対 ・ ケータリング ・ イベントコンサルタント	・ パートナーが調達した品目の納入が遅れた。パートナーシップ・フォーラムや調達プロセスの時期を現在のスケジュールより早めるべきである。(NUD6、NUD7) ・ 学校を理由に子供の NUD 参加を拒否する親がいる。ルンベクでは、ある父親は娘が誘拐されると誤解し、この女性選手の NUD への参加を拒否した。 ・ 食事の質が悪く、量が少ない。(第 7 回 NUD) イベントコンサルタントが適切なサービスを提供しなかった。コンサルタントに確認すると JICA との契約に含まれていないという返答であった。(第 8 回 NUD) ・ 宿舎の飲料水が足りなかった。ケータリング会社の契約に宿泊施設内の水を含める必要がある。(第 8 回 NUD)

1-(14) タンザニア「レディース・ファースト」、ウガンダ「TICAD CUP」での経験共有

JICA はタンザニアとウガンダでも「スポーツと開発」の分野でイニシアチブを取っている。南スーダンでの NUD の取り組みと本プロジェクトから学んだ教訓は、ほかの東アフリカ地域において非常に重要なリソースとなりうる。同時に、本プロジェクトが他国の事例から学ぶことができるとの認識のもと、C/P のタンザニアとウガンダでのスポーツ活動の視察を調整し、関係機関との意見交換の機会を提供した。

a. レディース・ファーストの視察

タンザニアのダルエスサラームで 2023 年 1 月 19 日～22 日に開催された女子陸上競技会第 4 回「レディース・ファースト」を MoYS 次官と DG が視察し、第 7 回 NUD の主要テーマであるスポーツを通じた女性のエンパワーメントを隣国がどのように推進しているかを学んだ。訪問中、次官や DG はタンザニア国スポーツ評議会事務局長と今後のスポーツにおける二国間協力の強化について意見交換を行った。



開会式



タンザニア国スポーツ評議会事務局長との面談

2023 年 11 月には、24 日から 26 日にかけて開催された女子陸上競技会第 5 回「レディース・ファースト」を 4 名の女性タスクフォースメンバーが視察し、隣国がどのようにスポーツを通じて女子のエンパワーメントを推進しているかを学んだ。タスクフォースメンバーは、タンザニア国スポーツ評議会のスタッフや、同評議会で勤務する JICA 専門家と、タンザニアと南スーダンでそれぞれどのような成果や課題があったのかについて意見交換を行った。南スーダン側からは、NUD の歴史と実績、第 8 回 NUD の目的と内容について説明した。また、実施前の選考プロセスやルール理解、実施後のインパクト調査、JICA 以外のパートナーとの調整の重要性が説明された。タンザニア側からは、スポーツ評議会の機能と各競技連盟とのコミュニケーションチャンネルについて説明があった。



タンザニア国スポーツ評議会との意見交換



閉会式

b. ウガンダ関係当局との NUD の情報共有

JICA ウガンダ事務所、ウガンダサッカー連盟、SOLTILO UGANDA Ltd.、NGO テラ・ルネッサンスは、2022 年 8 月にウガンダのジンジャで TICAD CUP 2022 を開催した。JICA ウガンダ事務所の招待で、MoYS の次官、DG、タスクフォースのプロジェクトコーディネーターが代表してウガンダを訪問した。代表団は TICAD CUP 2022 に参加し、参加チームの一つである南スーダン難民とホストコミュニティの混成チーム（21 名）を激励した。代表団は、南スーダンにおける NUD の取り組みについて説明し、NUD に参加したことで国連文民保護区を離れ、市内に滞在することになった避難民の選手のエピソードや、東京オリンピックに出場したアブラハム選手のエピソードを紹介した。TICAD CUP 2022 終了後、代表団はウガンダの教育・スポーツ省及び首相府の代表者に対して南スーダンにおけるスポーツを通じた平和促進に関する知見を共有した。



TICAD CUP 視察



首相府との情報交換

1-(15) NUD マニュアルの改訂

NUD 開催に際し、MoYS が NUD を成功裏に実施するための NUD マニュアルが整備されている。この NUD マニュアルは、NUD 実施に関わる準備作業や NUD の運営ノウハウをまとめたもので、最初のマニュアルは第 3 回 NUD 後の 2018 年 9 月に作成された。以来、NUD の開催を重ねるごとにさまざまな知見・教訓が蓄積されてきた。NUD の実践を通じて、MoYS は平和を促進する NUD の役割を強く認識しており、MoYS は各州・行政区のスポーツ機関に、それぞれの地域で小規模な NUD と同様のスポーツ大会を開催するための参考資料として、このマニュアルを配布することとした。

本マニュアルは、NUD を開催するための手順や必要な作業を記したスポーツ大会運営のための指南書である。また、これまでの NUD の準備・実施を通じて得られた成功のヒント、失敗から学んだ改善点、活動上の工夫や留意点なども盛り込まれている。このマニュアルは、主に NUD 大会の

運営を指導するためのマニュアルであるが、これらのヒントは、州・行政区における小規模なスポーツ大会にも活用できると考えられる。

MoYS は、このマニュアルが MoYS だけでなく、州・行政区のスポーツ連盟にも利用されることを期待しているため、マニュアルの情報の追加と改訂を行った。MoYS は 2024 年にトリットで開催された研修参加者に改訂マニュアルの草案を配布した。その目的の一つは、選手の視点からマニュアルに加えるべき必要な情報を特定することであり、そのため MoYS は過去に選手として NUD に参加したことのある DG やコーチに追加事項についてコメントを求めた。もう一つの目的は、SMoCYS とスポーツ連盟がマニュアルを使用してスポーツ競技を実施することを奨励することで、実践された場合には、マニュアルを使用した際のフィードバックや改善点を確認することであった。

1-3-2 成果 2 に係る活動

2-(1) 体育とその他の学校内スポーツ活動及びスポーツクラブ／アカデミーの現状並びに関連教師とコーチの配置状況及び訓練機会の現状確認（ジュバ市）

a. ジュバ市における学校及びスポーツアカデミーに関する定性的調査の準備と実施

本プロジェクトは、2021 年に実施された初等及び中等学校における体育とスポーツに関する調査結果をさらに深掘りするため、追加の定性的調査を実施することを決定した。2021 年の調査では、①学校における体育及びスポーツの実施状況、②体育教師及びスポーツマスター⁸の現状、③体育及びスポーツ施設・機材の状態、④学校行事やクラブ活動の実施状況、⑤体育及びスポーツ関連活動への PTA の支援体制、⑥本プロジェクトに対する関係者の期待、など定量的データが収集された。これらの結果を踏まえ、JICA 専門家チームは、より詳細なデータを収集するために、新たにいくつかの学校及びスポーツアカデミーを対象とした追加の定性調査を計画した。調査計画はタスクフォースメンバーと合意したのち、JICA 専門家チームが学校及びスポーツアカデミー向けのインタビュー／ディスカッション／観察のためのガイドライン案を作成した。

準備段階として、いくつかの学校及びスポーツアカデミーを訪問観察し、タスクフォースメンバー及び JICA 専門家とで打ち合わせを行ったあと、2022 年 6 月及び 7 月に定性調査を実施した。初等学校 5 校と中等学校 5 校に対する調査を行うとともに、JICA 専門家は、2022 年 8 月に国家教師訓練機関（National Teachers Training Institute : NTTI）の副校長への聞き取りを行い、NTTI における体育事前訓練・研修の現状も把握した。さらに、7 つのサッカーアカデミー、1 つのバレーボールアカデミー及びハンドボール協会を対象とした調査も行った。本プロジェクトでは、その英文名が表しているように、特に若年層を対象とした平和促進を目的としている。そのため、より「プロ選手育成機関」としての性格を持ち、メンバーの年齢が 18 歳以上となるようなスポーツクラブは調査段階から対象から外した。また、同じ理由で PDM 変更時には成果 2 の記述からも「スポーツクラブ」を削除している（PDM 変更の詳細については本章内第 3 節参照）。

⁸ 特定の競技スポーツを行った経験があるスポーツ愛好家が、学校教員の代わりに体育の指導を行っているケースが存在し、その指導者はスポーツマスターと呼ばれている。

表 II-25：調査対象校・アカデミー選定基準

学校																	
選定基準	対象校全体として、以下の条件を満たすこと。 1) 公立校と私立校がほぼ同数であること。 2) 初等学校と中等学校が同数であること。 3) 体育の授業が実施されていること。																
対象校	<table border="0"> <tr> <td><u>初等学校</u></td><td><u>中等学校</u></td></tr> <tr> <td>・ Juba One Girls Primary School (公立)</td><td>・ Juba Girls Secondary School (公立)</td></tr> <tr> <td>・ Juba One Boys Primary School (公立)</td><td>・ Supiri Secondary School (公立)</td></tr> <tr> <td>・ Malakia Primary School (公立)</td><td>・ Chinese Friendship Secondary School (公立)</td></tr> <tr> <td>・ Ustratuna Primary School (私立)</td><td>・ Comboni Secondary School (私立)</td></tr> <tr> <td>・ JCC Primary School Buluk (私立)</td><td>・ Juba Diocesan Model Secondary School (私立)</td></tr> </table>	<u>初等学校</u>	<u>中等学校</u>	・ Juba One Girls Primary School (公立)	・ Juba Girls Secondary School (公立)	・ Juba One Boys Primary School (公立)	・ Supiri Secondary School (公立)	・ Malakia Primary School (公立)	・ Chinese Friendship Secondary School (公立)	・ Ustratuna Primary School (私立)	・ Comboni Secondary School (私立)	・ JCC Primary School Buluk (私立)	・ Juba Diocesan Model Secondary School (私立)				
<u>初等学校</u>	<u>中等学校</u>																
・ Juba One Girls Primary School (公立)	・ Juba Girls Secondary School (公立)																
・ Juba One Boys Primary School (公立)	・ Supiri Secondary School (公立)																
・ Malakia Primary School (公立)	・ Chinese Friendship Secondary School (公立)																
・ Ustratuna Primary School (私立)	・ Comboni Secondary School (私立)																
・ JCC Primary School Buluk (私立)	・ Juba Diocesan Model Secondary School (私立)																
スポーツアカデミー																	
選定基準	対象スポーツアカデミー全体として、以下の条件を満たすこと。 1) ジュバ内の各コミュニティの特徴を反映させるため、広範囲のコミュニティから選ぶこと。 2) 多様なスポーツ競技を対象とすること。 3) 可能な限り女性メンバーが所属するアカデミーであること。 4) コミュニティの若者を対象としたアカデミーであること。																
対象スポーツアカデミー	<table border="0"> <tr> <td><u>サッカー</u></td><td><u>バレーボール</u></td></tr> <tr> <td>・ Lologo Football Academy</td><td>・ Simba Volleyball Academy</td></tr> <tr> <td>・ Future Bright Stars Football Academy</td><td></td></tr> <tr> <td>・ Rock City Football Academy</td><td><u>ハンドボール</u></td></tr> <tr> <td>・ South Sudan Youth Football Academy</td><td>・ Handball Association</td></tr> <tr> <td>・ Al Mal Football Academy</td><td></td></tr> <tr> <td>・ Kator Football Academy</td><td></td></tr> <tr> <td>・ Young Legends Football Academy</td><td></td></tr> </table>	<u>サッカー</u>	<u>バレーボール</u>	・ Lologo Football Academy	・ Simba Volleyball Academy	・ Future Bright Stars Football Academy		・ Rock City Football Academy	<u>ハンドボール</u>	・ South Sudan Youth Football Academy	・ Handball Association	・ Al Mal Football Academy		・ Kator Football Academy		・ Young Legends Football Academy	
<u>サッカー</u>	<u>バレーボール</u>																
・ Lologo Football Academy	・ Simba Volleyball Academy																
・ Future Bright Stars Football Academy																	
・ Rock City Football Academy	<u>ハンドボール</u>																
・ South Sudan Youth Football Academy	・ Handball Association																
・ Al Mal Football Academy																	
・ Kator Football Academy																	
・ Young Legends Football Academy																	



体育教師への聞き取り



スポーツアカデミーメンバーへの聞き取り

b. 調査の結果

学校及びスポーツアカデミーが直面する課題に関する主な調査結果は以下のとおり。

- 学校の体育等の授業及びアカデミーでの練習の質を、体育教師及びアカデミーコーチを通じて向上させる必要がある。
- 学生及びアカデミーメンバーの数が多いにもかかわらず、体育教師及びアカデミーコーチの数が不足している。
- 大半の体育教師及びアカデミーコーチが十分な教授法やコーチング法についての訓練を受けていない。
- NTTI のカリキュラムに体育及びスポーツ関連トピックは含まれているものの、隣国からの非常に古い教科書・指導書が使用されており、その内容は南スーダンの状況に適していない。

ない。

- 「体育指導ガイドライン」が存在するにもかかわらず、教師の誰もその存在を知らず、現場で活用されていない。
- 公立学校では給与の遅配が一般的であり、教師の士気を低下させている。コーチは指導への意欲は高いものの報酬が支払われないため、生活費を得るためにほかの活動を優先せざるを得ない。
- ボール、ゴールポスト、ネット、ユニフォーム、靴、応急処置キットなど、より多くのスポーツ関連機材が必要である。
- 学校及びスポーツアカデミーの運動場の多くは整備が必要であり、また十分な広さを持つ場所を確保することが必要となっている。
- 学校間やクラス間のスポーツ競技会をもっと多く開催したいという要望が多い。
- 特に女子のスポーツ参加に関する保護者の意識を向上させる必要がある。
- 南スーダン内のスポーツ競技団体、民間企業、各省庁などの外部組織との連携を促進する必要がある。

2-(2) コミュニティ（草の根）レベルの活動の可能性分析

a. パイロット活動対象校及び対象スポーツアカデミーの選定

調査結果を十分に活用するため、本プロジェクトでは上記調査対象校 10 校をそのままパイロット活動対象校とすることを決定した。またこれには、初等・中等及び公立・私立という軸で構成される各象限にまんべんなく対象 10 校が配置されるため、ジュバ内の各種学校をカバーできるという点においても合理性があった。

パイロット活動の対象となるスポーツアカデミーについても、同質的なアカデミーを選ぶことを避け、異なる特徴を持つアカデミーを対象とし、アカデミーの理念や目的が本プロジェクトの目的と合致しているかについても考慮した。これらを勘案し、最終的に LFA と SVA をパイロット活動対象として選定した。上記 2 つのアカデミーを選定したより詳細な経緯は以下のとおり。

- 1) ジェンダーバランス：調査の結果、多くのサッカーアカデミーは男性メンバーが多数を占めていることが明らかになった。いくつかのアカデミーでは、一人も女性メンバーが所属していなかった。そのようななか、LFA では女性メンバーが調査当時全体の 3 分の 1 を占めていた。男性・女性双方に配慮したパイロット活動を実施していくため、同アカデミーをパイロット対象として選定した。
- 2) 女性に焦点を当てること：南スーダンにおいては、一般的にバレーボールは女性の間で人気が高い。実際、SVA ではほとんどのメンバーが女性である。女性が社会的に周縁化されているなか（2-(6)参照）、女性を積極的に支援していくことが重要だと判断し、同アカデミーをパイロット対象として選定した。
- 3) 目的と理念：LFA と SVA はコミュニティの治安の改善や女性のエンパワーメントを目的としていた。これらは、本プロジェクトの成果 2 で目指している草の根レベルの平和促進と合致しており、プロジェクト活動とアカデミー活動の相乗効果が見込めると判断したため、両ア

カデミーを選定した。

選定から漏れたスポーツアカデミーも上記のような特徴を持っていないという訳ではないが、時間や予算の関係から、すべてのアカデミーを対象とすることは難しく、広く親しまれているサッカーと比較的マイナーなバレーボールの組み合わせとして対象を二つに絞ることとし、そのうえで上記経緯を経て LFA と SVA が選定された。

b. パイロット活動の計画策定

ジュバで確認された課題に基づき、本プロジェクトはジュバの学校及びスポーツアカデミーで実施するパイロット活動の概要を検討した。この活動案は 2022 年 7 月の第 4 回 JCC 会議で承認された。第 4 回 JCC 会議後、プロジェクトチームは対象として設定した学校 10 校と 2 つのスポーツアカデミーを訪問し、パイロット活動案を説明し、校長、体育教師、スポーツアカデミーの管理者やコーチたちは、この活動案に同意した。

2022 年 9 月には、パイロット活動のキックオフ・ワークショップが開催された。タスクフォースメンバー、JICA 専門家、パイロット対象の学校とスポーツアカデミーの代表者が集まり、活動案とスケジュールについて、より具体的に議論した。このワークショップで合意された活動案は以下のとおり。

表 II-26：対象学校とスポーツアカデミーにおけるパイロット活動の当初全体計画案

パイロット活動の主要な視点
本プロジェクトは、パイロット活動を通じて促進するための三つの重要な視点/価値観を提案した。 1) 尊重し合う関係性と協力姿勢 2) 包摂性 3) 自尊心／自信
上記の三つの価値観を育む際に考慮すべき主な課題
【学校】 (1) 体育教師やスポーツマスターは、多くの生徒に対する体育やその他のスポーツ活動を、計画・実施するために必要なトレーニング経験が不足している。 (2) サッカー、バスケットボール、バレーボールなど特定のスポーツにおける身体的発達や技能開発を目指したものを除いて、体育教師やスポーツマスターは、以下のような学生の能力を体育やスポーツ活動を通じてどのように育成すべきかについて十分に把握していない。 1) 批判的かつ創造的な思考 2) コミュニケーション能力 3) 協力姿勢 4) 文化とアイデンティティ ※南スーダン「体育指導ガイドライン」より
【スポーツアカデミー】 (1) アカデミーのコーチや管理者は、外部からの支援が少ないなかで練習・試合・アカデミーの運営を計画・実施する必要がある。 (2) アカデミーは、以下のような多様な背景を持つ選手を受け入れる必要がある。 ・経験者グループ、中級者グループ、初心者グループ ・男性または女性 ・競技志向、健康促進、または娯楽目的で所属する選手 (3) 特に女子スポーツに対する親の認識が否定的である場合がある。 (4) 地域内で何もせずぶらぶらして非行に走る可能性がある若者が存在している。
学校におけるパイロット活動のイメージ (対象: 質的調査を実施した小学校 5 校と中学校 5 校)
【日常的な活動: 体育やその他のスポーツ活動】 (1) 対象校の体育教師/スポーツマスターの協力体制の促進 (他の関係者・機関による支援を受けながら)

・ 行動計画及び授業計画の共同作成 ・ 経験の共有（公開授業を含む）
(2) 三つの視点/価値観に焦点を当てた体育及びスポーツ活動の指導改善 ・ 生徒間の協力的な交流・コミュニケーションの促進 ・ 体操や身体運動に係る活動の改善
【イベント活動：学校プログラムとしてのスポーツ大会】
(3) 現在の学内スポーツ大会への新たな価値の付加（三つの視点/価値観に焦点を当てる） ・ 通常のスポーツ競技に加え、以下のような競技形式の導入 ➤ 男女混合競技 ➤ 学級混合競技 ➤ 学年混合競技 ・ 誰でも参加できる身体運動やゲームの実施（例：綱引き、麻袋競争、縄跳びなど） ・ 平和を絡めた詩の朗読や、ダンス、音楽などスポーツ以外の要素の導入
スポーツアカデミーにおけるパイロット活動のイメージ（パターン1） （対象：ロゴ・フットボール・アカデミー）
(1) マネージャーやコーチとほかの関係者（地域のスポーツ愛好者、成年サッカークラブ、サッカー連盟、ロゴ地域のNGOなど）との協力活動 ・ 協力的な行動計画、指導計画、地域の啓発及び関与促進計画の策定
(2) 実際の指導や練習の改善（特に以下の課題を考慮して三つの価値観に焦点を当てる） ・ 女子、貧困層、非行の可能性のある若者に関する課題への配慮 ・ 各選手のカテゴリに適したトレーニングメニュー（例：経験者グループ、中級者グループ、初心者グループ、男子または女子、競技志向、健康促進、または娯楽目的の選手） ・ 指導活動への選手自身の積極的な参加（例：高学年から低学年への指導、男子から女子への支援、チームアシスタントとしての役割）
(3) 保護者や地域内の他の団体への啓発活動と協働した活動の実施 ・ 保護者を巻き込んだミニゲームやミニイベントの実施 ・ 地域清掃活動などの地域参加型イベントの実施
スポーツアカデミーにおけるパイロット活動のイメージ（パターン2） （対象：シンバ・バレーボール・アカデミー）
(1) マネージャーやコーチと他の関係者（地域のスポーツ愛好者、女子バレーボールクラブ、バレーボール連盟など）との協力活動 ・ 協力的な行動計画、指導計画、地域啓発及び関与促進計画関与計画の策定
(2) 実際の指導や練習の改善（特に女子に関する課題を考慮して三つの価値観に焦点を当てる） ・ 各選手カテゴリに適したトレーニングメニュー（例：経験者グループ、中級者グループ、初心者グループ、競技志向、健康促進、または娯楽目的の選手） ・ 指導活動への選手自身の積極的な参加（例：高学年から低学年への指導）
(3) 保護者への啓発活動と協働した活動の実施 ・ 女子選手向けの新しいバレーボールアカデミー設立を検討している人々への啓発活動
活動計画
【学校】
(1) キックオフ・ワークショップ（2022年9月） (2) 行動計画及び授業計画作成ワークショップ（2022年11月） (3) レビューミーティング（2023年2月以降、定期的に実施） (4) 技術ワークショップ（2023年2月以降、定期的に実施） (5) 学校間での公開授業（年1回） (6) 新たなやり方を導入したスポーツ大会（計画及び準備段階を含む）（年1回） (7) 経験共有ワークショップ（プロジェクト終了時）
【スポーツアカデミー】
(1) キックオフ・ワークショップ（2022年9月） (2) 行動計画及び指導計画作成ワークショップ（2022年11月） (3) レビューミーティング（2023年2月以降、定期的に実施） (4) スポーツクラブ/競技連盟と連携した技術ワークショップ（各競技連盟の現行指導法に基づく）（2023年2月以降、定期的に実施） (5) 保護者等への啓発活動（年1回）

(6) 経験共有ワークショップ（プロジェクト終了時）

JICA プロジェクトの支援と貢献

- (1) 行動計画、授業計画、指導計画などの作成に関する技術的指導と助言を提供する。
 - (2) 支援可能な関係者を調整・手配する。
 - (3) 関連する会議やワークショップを開催する。
 - (4) 各種会議やワークショップへの参加者の移動手段を手配する。
 - (5) 一部のスポーツ機材を提供する。
-



キックオフ・ワークショップ

c. 活動計画の再検討

キックオフ・ワークショップ後、関連するいくつかの活動が実施されたが、活動を実施する前の準備や調整に時間を要したほか、後述するようにアカデミー主導で活動計画を立てる必要性・有効性も認められた。それぞれの要因を考慮し、動的に変動する状況を見極めながらその時々の一線を把握するなかで、JICA 専門家は上記のパイロット活動に関する活動計画を柔軟に再検討・再構築しながら、最終的には以下の四つの主要な活動に集約していった。

- ① 代表して1校または2校の小学校での授業計画作成とその実施支援
- ② 代表して1校または2校の中学校での学校イベント（スポーツ大会）の開催支援
- ③ ロロゴ・フットボール・アカデミーでの持続的な地域啓発イベントの開催
- ④ シンバ・バレーボール・アカデミーが活用できる選手及び地域啓発用ツールの作成

①と②については、ほかの対象校も各活動の各ステップに参加することで、対象校すべてが裨益するよう留意した。これらの提案は、JICA 専門家から C/P 及び対象校／アカデミーに対して行われ、2023 年 7 月にそれぞれ承認を得た。

2-(3) 学校関連活動

a. 平和促進につながる体育授業の改善

行動計画及び授業計画を対象校が協力し合って作るための準備ワークショップ

2022 年 11 月から 12 月にかけて、対象 10 校のスポーツ関連教師を対象に 2 日間のワークショップを実施した。このワークショップの目的は、対象校の教師間のコミュニケーションを促進し、相互支援を行うこと、また「尊重し合う関係性と協力姿勢」「包摂性」「自尊心と自信」などの三つの視点／価値観を考慮し、現在の体育授業及びスポーツ活動の内容を改善することであった。

参加者はそれぞれの学校における体育授業及びスポーツ活動について、以下のような現状と課題

を共有した。

- 体育授業及びスポーツ活動は、自分自身のスポーツ経験にのみ基づいて計画・実施されており、この授業科目に必要な教育的知識が不足している。
- 限られた教師数で多数の生徒に授業や活動を教えなければならない。
- そのため、教師は活動そのものを実施することに精一杯で、生徒の教育的価値を高めるための細やかな指導ができない。
- 週あたりの体育授業及びスポーツ活動の回数が限られている。
- 運動場やスポーツ用品が不足している。
- 体育授業やスポーツ活動の質を改善する方法を学ぶ機会がない。
- 心理社会的ケアを必要とする生徒に対する配慮や意識が不足している。

JICA 専門家は三つの価値観の概念を詳しく説明し、他国での運動やゲームの事例、ツールをウェブ動画やガイドブックを用いて紹介した。その後、アイスブレイクとして参加者同士で運動やゲームを行い、各学校がこれらの運動やゲームを取り入れるための授業計画を作成した。参加者は、①基本情報、②授業の目的と期待される成果、③活動内容、④必要な教材及び補助教材、⑤生徒に授業中に遵守させる姿勢・動き（教師自身も含む）、⑥身体的、心理的、社会的、認知的領域の視点に基づく授業目標、⑦実際の実施プロセス、を含む授業計画シートを作成した。

ほかの教師やタスクフォースメンバー、JICA 専門家と協力して、各学校が授業計画を完成させ、計画のプレゼンテーションを行った。その後、JICA 専門家はこれらの授業計画を学校で実際に実施する方法を説明した。これにより、参加者は体育授業をより効果的かつ効率的に行うための基本的なイメージを得ることができた⁹。また、州及び国レベルの教育省、タスクフォースメンバー、全国及び州のスポーツ連盟、PTA、JICA 専門家など、複数の関係者によるモニタリングの重要性についても参加者の同意が得られた。ワークショップの最後には、今後の活動スケジュールが確認された。

体育授業及びスポーツ活動観察後のコンサルテーション（対象校の一部）

「体育／指導者育成」分野の JICA 専門家が南スーダンに訪問する時期に合わせ、2023 年 4 月に対象 10 校のうち、体育授業及びスポーツ活動を実施している 4 校で各授業・活動の観察を行った。その後、同 JICA 専門家はそれらの質を向上させるためにそれらのビデオ記録を分析した。例えば、教師の授業展開、生徒への指導、認知的学習を促進するための活動、実際の身体活動に費やされた時間をチェックした。このような分析の視点を、以下の表に示す。

⁹ 一方で、学校ごとに授業計画の質にばらつきがあり、ワークショップだけでは各学校がそれを活用して体育の授業を実施するには不十分であった。そのため、後の段階で、特定の学校を対象としたより重点的なアプローチが取られ、詳細な授業計画の作成支援や模範授業を実施した。

表 II-27：質の高い体育授業を構成する要素（分析の視点）

質の高い体育授業を構成する要素	定義	体育事業の中で望ましい時間配分
授業展開	学業達成に直接関連しない活動実施に割り当てられた時間（例：別の場所への移動する時間、待機時間、チーム分けの時間、道具を準備する時間、水を飲むための休憩時間など）	授業時間の10%以下
生徒への指導	教師がクラス全体に説明、実演、指導を行う活動に割り当てられた時間（例：教師が生徒に対して説明、実演、質問する時間など。この時間では、生徒は教師の話や実演を聞いたり見たりする）	授業時間の20%以下
認知的学習	生徒の認知的活動を促進するために割り当てられた時間（例：グループ討議の時間、生徒が課題シート等に記入する時間など）	授業時間の10%以下
身体活動	実際の運動・活動に割り当てられた時間（例：ウォームアップ、練習、運動・ゲームなどの身体活動に生徒が取り組む時間）	授業時間の50-60%程度

この視点に立った分析結果は以下のとおり。

- 多くの体育授業では、準備や次の運動・活動への移行などの「授業展開」に多くの時間が割かれていた。これは、少人数の教師が多数の生徒を対象に体育授業を実施する必要があるためである。
- 運動・活動の前の実演、運動・活動の意義や目的の説明、教師による生徒への質問など、「生徒への指導」に費やされる時間は限られていた。
- 生徒間の交流や討論、運動・活動において生徒が特定の役割を与えられるような「認知的学習」に割かれる時間は非常に少なかった。

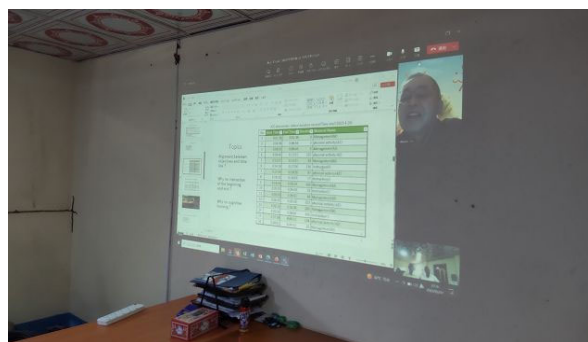
これらの分析結果に基づき、体育授業で改善可能なポイントについて、以下のように整理した。

- ① 生徒を適切な数のグループに分け、教師の代わりに生徒自身が授業実施に積極的に関与するよう促すこと。
- ② 授業の開始時と終了時に運動／活動の目的や成果を説明し、教育的指導を強化すること。
- ③ 生徒の怪我を防ぐため、ウォームアップとクールダウンの運動を実施すること。

上記ポイントは、2023年5月に四つの対象校の教師たちに共有された。



体育授業改善のためのコンサルテーション（1）



体育授業改善のためのコンサルテーション（2）

対象教師向け実技ワークショップ

2023 年 4 月、パイロット校の体育及びスポーツ教師を対象とした実技ワークショップが開催された。一部の学校（Juba One Boys や Juba Girls、Supiri）の教師は学校業務の関係で参加が叶わなかったが、7 校から 12 名の教師が参加した。この実技ワークショップでは、以下のポイントを念頭に、異なる学校の教師がチームを組み、縄跳びの競技を行い、各チームが何回跳べるかを競った。

- ① チーム内で役割を割り当てること（例：チームリーダー、縄跳びをするメンバー、記録係、応援係など）、そして各役割がチームのために機能するようにすること。
- ② チームのメンバーそれぞれの跳躍能力を考慮して、初回の跳躍回数より多い適切な目標回数をチーム目標として設定すること。
- ③ チームメンバーが互いにサポートを受けながら、初回の回数よりも多く跳ぶことができた際に、達成感とチームとしての一体感を感じられるようにすること。

ワークショップ終了後、JICA 専門家はこのワークショップのために作成された授業計画シートを共有し、このワークショップを実施する目的や授業の進行計画を説明した。

上記の体験を通じて、参加者は、各活動の意図を明確にすること、グループ内での交流を促進し、授業において参加者の積極的な関与を引き出す仕組みを考えることの重要性を理解することができた。これらの理解については、後に 2 校で実施されたモデル体育授業において明確に反映されており、特にチーム内での役割分担といった側面において大きな改善が見られた。



実技ワークショップ (1)



実技ワークショップ (2)

参考となる体育授業計画作成のためのワークショップ

本プロジェクトでは、体育授業を定期的に行っている初等学校 2 校（Ustratuna Primary School 及び Juba City Council Model Primary School）をモデル校として選定し、平和促進のメッセージを取り入れた体育授業を実施する準備を進めた。その準備を段階的に進めるため、2023 年 9 月に 4 日間のワークショップを開催し、教師が授業計画を作成し、実践する機会を提供した。

1 日目は、JICA 専門家が講義を行い、体育授業が身体的な健康だけでなく特定の価値観を促進す

る方法について理論と実践（例：質の高い体育教育（Quality Physical Education：QPE¹⁰）、社会的及び感情的学習（Social and Emotional Learning：SEL¹¹）、社会的スキル、協働学習（Cooperative Learning：CL¹²）、典型的な授業プロセス、授業計画前に確認すべき必要な情報、など）を説明した。

講義の後半では、授業計画作成に時間が割かれ、「健康増進のための運動（Fitness）」「走る要素を入れた運動（Athletics）」「ゲーム」を中心とした体育授業計画を作るため、参加者を三つのグループに分けた。各グループは、適切な時間配分や授業計画前に確認すべき情報を含む典型的な授業プロセスを考慮しながら、授業計画の草案を作成した。

2 日目は、それぞれの授業計画に基づき、各グループが教師となり、ほかのグループを生徒として、模擬授業を行った。模擬授業の後、参加者全員で授業を振り返り、レビューを行った。

3 日目は振り返りの結果に基づき、教師たちは授業計画の修正作業を行った。最終日には、修正された授業計画に基づいて、各グループは再び模擬授業を実施した。授業計画シートの構成は以下のとおり。この構成に基づき、教師が効果的な授業を計画・実施することで、生徒がより主体的に学ぶ環境を作り出すことを目指した。

表 II-28：授業計画シートの構成

一般情報	日付、学年/クラス、生徒数、科目名、授業時間、実施者
内容	● 授業の目的・成果: 授業全体を通じて達成すべき目標や、生徒が得るべき結果を記載する。 ● 想定する活動: 実施する活動の簡単な概要を記述する。 ● 教材と補助教材: 活動で必要となる物品やツールを記載する。 ● 約束事項: 生徒及び教師が守るべきルールや姿勢を具体的に示す。 ● 授業のプロセス: 以下のステージごとに、時間配分、具体的な活動内容、教師の行動を記載する。 ➢ 導入・準備: 授業の目的や今日の活動について説明し、注意点を共有する。 ➢ ウォームアップ: 基本的な運動や身体をほぐす活動を行い、生徒が授業に集中できる状態を作ると共にけがをふせぐ。 ➢ 第1活動（例：個人または小グループ活動を中心に基礎スキルを学ぶ時間） ➢ 第2活動（例：チームベースの運動や競争形式の活動で、協力やコミュニケーション能力を養う） ➢ 振り返りと終了: 授業全体の成果を共有し、生徒にフィードバックを行う。次回の授業への期待を促す。 ● 第1エクササイズの活動イメージ図: 場所・規模・形態・人数・動き等を図等で記す。 ● 第2エクササイズの活動イメージ図: 場所・規模・形態・人数・動き等を図等で記す。

¹⁰ Quality physical education (QPE) places emphasis on peer-led learning and rounded skill development which can enhance educational and employability outcomes. It is also about whole body health which includes physical and psycho-social well-being. QPE supports students to develop the physical, social and emotional skills which define healthy, resilient and socially responsible citizens. See UNESCO (2021) “How to influence the development of quality physical education policy: a policy advocacy toolkit for youth”.

¹¹ Social and emotional learning (SEL) is vision to promote the healthy development and success of students for them to grow to their fullest potential socially, emotionally, academically, and eventually professionally. The process of acquiring core competencies occurs through explicit instruction and through student-centered learning approaches that help engage students in the learning process and develop analytical, communication, and collaborative skills. See Mitchell, Stephen A.; Oslin, Judith L.; Griffin, Linda L.. “Teaching Sport Concepts and Skills: A Tactical Games Approach (English Edition)” . Human Kinetics. Kindle, 2021

¹² Cooperative learning (CL) is a process of learning that occurs whenever one's cognition (ideas, concepts, values) is changed by an experience. It can be contrasted with behavior learning that emphasizes behavioral change. See Dyson, B., Howley, D. and Shen, Y (2021) ‘Being a team, working together, and being kind’: Primary students’ perspectives of cooperative learning’s contribution to their social and emotional learning”. Physical Education and Sport Pedagogy

- 教師の自己評価シート：導入・準備、第1エクササイズ、第2エクササイズ、振り返りと終了の各プロセスを計画とおりに実践できたかと教師自身が自己評価する。

この一連の研修を通じて、対象教師たちは質の高い体育を実施するための授業計画の重要性とその作成方法を理解することができた。また、対象教師間だけでなく、対象教師と MoGEI 及び州 MoGEI のタスクフォースメンバーとの間でも友好的な関係が強化された。



体育授業計画作成の講義



模擬体育授業

第1回モデル体育授業の実施と観察

本プロジェクトは、モデル校となる2校を対象として、2023年9月のワークショップで一部作成された授業計画の準備及び最終化のために会議を設定し、両校の教師に授業実施の準備を依頼した。

LESSON PLAN		
School: JCC MODEL PRIMARY SCHOOL		
Name: JAMES & RICHARD		
Subject: PHYSICAL EDUCATION (PE)		
Date: 13 th March 2024		
DATE	CLASS	NUMBER OF PUPILS
13 th March 2024	P.6	Boys = 27 Girls = 33 Total = 60
SUBJECT	DURATION	IMPLEMENTERS
Physical Education (PE)	40 Minutes	1-JAMES MARINAT 2-ASOXGA RICHARD
LESSON OBJECTIVES AND EXPECTED OUTCOMES:		
1- To facilitate communication and friendly relationship among the pupils.		
2- To develop pupils' physical competence and knowledge of Movement.		
3- To improve peer-relationship		
4- To develop some physical abilities of pupils as much as possible.		
SUGGESTED ACTIVITIES (SUMMARY)		
Introduction and preparation (5 Minutes)		
* The teacher prepare the ground for the learners		
* The teacher introduce the activity including the aims and commitments.		

モデル授業用授業計画の例 (1)

Warm-up (5 Minutes)
* The teacher lead the pupils in some warm-up exercise to prepare their Muscles for the game/activity.
FIRST EXERCISE (12 Minutes)
* Frog across the pond.
SECOND EXERCISE (12 Minutes)
* Filling of containers with water.
ASSESSMENT AND CLOSING (6 Minutes)
* Teacher give feedback of the activity conducted.
* pupils gives their opinion about the activity.
TEACHING MATERIALS AND AIDS
1- Introduction and preparation
- Here there is no materials needed.
2- Warm-up:
- No material needed here.
3- First-exercise/activity.
- Cards (30 pieces)
4- Second-exercise/activity.
- Empty water bottles (30 pieces cut in half)
- Buckets of water (2 pieces)
- Water (20 liters)
COMMITMENT (for the pupils):
* Let them talk about team members and collaborate with each other.
* To communicate well and cheer others up in positive ways.

モデル授業用授業計画の例 (2)

2023 年 10 月及び 11 月に、Ustratuna Primary School 及び Juba City Council Model Primary School の教師が、それぞれ最初のモデル体育授業を実施した。Ustratuna Primary School では、2 名の教師が 4 年生 71 名（女子 37 名、男子 34 名）に授業を行い、Juba City Council Model Primary School では、2 名の教師が 6 年生 62 名（女子 41 名、男子 21 名）に授業を行った。両校とも、授業の冒頭で導入セッションを実施し、教師たちは体育を通じた平和促進（生徒間のコミュニケーションや授業中の協力・助け合いなど）とその重要性を強調した。また、授業の終了時には、この授業が平和を促進する目的で計画されたものであることを生徒たちに改めて伝えた。

モデル授業には、JICA 専門家、MoGEI の C/P とほかのパイロット校の教師もオブザーバーとして参加し、事前にプロジェクトチームが準備した授業を評価するための「観察者による授業評価シート」¹³の観点（表 II-29 参照）に基づき授業を観察した。また、選ばれた一部の生徒が「観察者による授業評価シート」と相互補完する形で開発された「生徒による授業評価シート」¹⁴に記入した。

Ustratuna Primary School での第 2 回モデル体育授業は同じ月に実施予定だったが、異常な高温が続き、すべての学校が突如一時閉鎖を余儀なくされたため、中止となった。第 2 回モデル授業の実施時期は、プロジェクト全体のスケジュールや学校側のスケジュール（試験期間や休暇）によって制約を受けたため、Ustratuna Primary School での第 2 回モデル授業は実施されなかった。



Ustratuna 小学校におけるモデル体育授業



JCC Model 小学校におけるモデル体育授業

第 1 回モデル体育授業に関する振り返り会議

2023 年 11 月、プロジェクトチームは Ustratuna Primary School と Juba City Council Model Primary School が実施した最初のモデル体育授業を振り返るための会議を開催した。会議の前半は Ustratuna 小学校の振り返りに充てられ、後半は Juba City Council Model Primary School の振り返りに充てられた。

両方の振り返りセッションで、JICA 専門家は、モデル授業を観察した教師及び生徒自身が回答した評価シートの結果を紹介した。次に、各体育授業のビデオ記録を提示し、次回に向けて改善が必要な点についてコメントを提示した。ディスカッションセッションでは、パイロット校の教師

¹³ 日野ら. (1996) 「体育授業観察チェックリストの有効性に関する検討 -特に子どもの形成的授業評価との相関分析を通して-」 スポーツ教育学研究 16 巻 2 号 (p.113-124) の内容を元に本プロジェクト用に変更を加えたもの。

¹⁴ 観察者と生徒の評価が一致していれば、その評価結果の信頼性が高くなるということ。

たちが二つの体育授業についての印象を共有するとともに、体育授業内の各活動を、教師と生徒間でより双方向的なものにするための提案を行った。最後に、JICA 専門家は次年度の活動計画を共有した。

両校とも、教師自身の自己評価は高く、生徒たちも授業を楽しんでいたことが明らかになった。一方で、ほかの対象校の教師や教育省関係者など教育的視点を持つ観察者によるより具体的な評価結果も共有された。以下は、「観察者による授業評価シート」の内容と、その評価に基づく主な結果及び所見である。

表 II-29：評価シート¹⁵の内容と主な評価結果

項目	観察・評価ポイント*
教師の関わり	1. 教師は、生徒を前向きに褒め、励ましていたか 2. 教師は、子どもたちと心から関わっていたか 3. 教師は、適切なアドバイスを積極的に行っていたか
学習環境	4. 期待される成果を生み出すような運動やゲーム（例：教材、活動場所の設定、グループ分け、学習課題）が準備されていたか 5. 教材や補助教材が効果的に活用されていたか 6. 学習が楽しくなるような運動やゲーム（例：教材、活動場所の設定、グループ分け、学習課題）が提供されていたか
動機づけされた学習	7. 子どもたちが学習に対してやる気を持っていたか 8. 子どもたちの笑顔、拍手、歓声などが見られたか 9. 子どもたちが自主的に学んでいたか
授業の流れ	10. 授業がスムーズに進行していたか 11. 移動や待機場面が少なかったか 12. 授業での約束事項が守られていたか
効果的な学習	13. 子どもたちが学んでいる内容や習得しようとしていることが明確だったか 14. 子どもたちが互いに教え合っていたか 15. 生徒が成長している様子が見られたか
総合評価	16. 今日の授業は良い体育の授業だったと思うか
主な結果	
1) 子どもたちが授業を楽しんでいたこと、2) 教師が教育的指導やメッセージを伝えるために十分な準備と意欲を持っていたこと、が明らかであった（教師の関わりや学習環境に関連する評価ポイントは高得点を得る傾向にあった）。 - 一方で、1) 授業をスムーズに進行させること、2) 全ての生徒が活動に積極的に参加すること、3) 子どもたちが授業を楽しむだけでなく、新しいスキルや達成感を得て、互いにより活発に交流すること、については改善の余地があることが分かった（動機づけされた学習の一部や、授業の流れ、効果的な学習に関連する項目は、やや低いスコアを得る傾向が見られた）。	
考察	
期待される教育的成果、特に体育を通じた平和促進を達成するためには、以下の点を改善する必要がある。	
1) 教師が体育授業をスムーズに進行できるようにする（例：授業前の教材やその他の準備、生徒の健康と安全に対する配慮（授業前及び授業中）、時間管理、グループ分けなど）。 2) できるだけ多くの生徒が活動に参加できるようにすること。 3) 体育授業中に生徒自身がスキルや実施方法を向上させ、より大きな達成感を得られるようにすること。 4) 生徒同士が交流し、協力する機会を増やすこと。	

¹⁵ 引用：日野克博・高橋健夫・伊與田賢・長谷川悦示・深見英一郎（1996）体育授業観察チェックリストの有効性に関する検討. スポーツ教育学研 1996. Vol. 16, No. 2, pp. 113 124

項目	観察・評価ポイント*
5) 体育授業の冒頭と終了時に議論をより重視し、各教師と生徒が体育授業の目的と授業中に期待される役割を理解できるようにすること。	

*観察者は、以下の項目について、「非常に優れている」から「非常に悪い」までの5段階で評価した。

第2回モデル体育授業の実施と観察

第1回モデル体育授業の振り返り結果を踏まえて、2校の小学校の教師に授業計画の修正と最終化を依頼した。2024年3月、Juba City Council Model Primary Schoolの教師は修正された授業計画に基づいて第2回モデル体育授業を実施した。Juba City Council Model Primary Schoolでは、2名の教師が6年生61名（女子35名、男子26名）に授業を行った。前回の経験を活かし、教師たちは、①一部の生徒の協力を得た教材の準備、②運動場所の適切な整備、③授業実施前及び実施中の生徒の体調確認、④時間内でのより効率的な授業進行、⑤各運動・活動に参加する生徒の人数の考慮、など、前回よりも工夫・改善された授業を実施した。それを元に、JICA専門家、MoGEIのC/Pとほかのパイロット校の教師が授業を観察し、「観察者による授業評価シート」による授業評価を行った。また、選ばれた一部の生徒が「生徒による授業評価シート」に記入した。なお、同じ月に予定されていたUstratuna Primary Schoolの第2回モデル体育授業は、当時の異常気象（気温の高い日が続いたこと）により突然すべての学校がしばらくの間休校することになったため延期となった。また、同校での第2回モデル体育授業の実施については、プロジェクト全体の活動スケジュールや学校側のスケジュール（例：試験期間や休暇）による制約のため、実施することができなかった。



Juba City Council Model Primary Schoolにおける
第2回モデル体育授業



体育授業観察者

第2回モデル体育授業に関する振り返り会議

2024年3月、本プロジェクトは、Juba City Council Model Primary Schoolで実施された体育授業（Ustratuna Primary Schoolの授業計画も含む）をレビューし、授業計画を再修正するとともに、修正後の授業計画に基づいて模擬授業を実施するための3日間のワークショップを開催した。

ワークショップ初日の前半は、Juba City Council Model Primary Schoolで実施された体育授業の振り返りに充てられた。振り返りセッションでは、JICA専門家が体育授業のビデオ記録結果を提示し、モデル授業を観察したほかの教師や生徒自身が回答した評価シートの結果を共有した。その後、①適切な授業環境の整備、②生徒のグループ分けと役割の割り当て、③すべての生徒を活動に巻き込むこと、など授業内のさまざまな場面をより良くする方法について詳細な議論を行った。これらの分析と議論を基に、Juba City Council Model Primary Schoolの授業計画の修正について話

し合った。

ワークショップ 2 日目には、Juba City Council Model Primary School の修正された授業計画に基づき、教師たちが模擬授業を実施した。模擬授業後、教師たちは授業を振り返り、さらなる改善点について議論した。また、Ustratuna Primary School の授業計画も分析・修正され、模擬授業の準備が行われた。

ワークショップ 3 日目には、Ustratuna Primary School の修正された授業計画に基づく模擬授業が実施された。その後、模擬授業の経験とワークショップ中の議論を基に、二つの授業計画が再度修正された。

Juba City Council Model Primary School では、教師自身の自己評価は引き続き高かった。また、時間管理の改善が見られた。さらに、生徒たちが授業を楽しみ、全力で運動・活動取り組む様子が確認された。以下に、第 1 回モデル授業の「観察者による授業評価シート」の結果と比較して、どの点が改善されたか、また改善されなかったかを要約する。

表 II-30 : Juba City Council Model Primary School の第 2 回モデル授業に対する評価

高い評価が継続した評価項目 ¹⁶	改善しなかった評価項目
3. 教師は適切なアドバイスを積極的に行っていたか 4. 期待される成果を生み出すような運動やゲーム（例：教材、活動場所の設定、グループ分け、学習課題）が準備されていたか 8. 子どもたちの笑顔、拍手、歓声などが見られたか	1. 教師は、生徒を前向きに褒め、励ましていたか 2. 教師は、子どもたちと心から関わっていたか 5. 教材や補助教材が効果的に活用されていたか 12. 授業での約束事が守られていたか
考察 第 1 回モデル体育授業の結果と比較すると、第 2 回モデル授業では「生徒が授業を楽しんでいる」「教師が授業の準備をしっかりと行っている」「教師が積極的である」という点が維持された。しかし、第 1 回モデル授業で課題となっていた授業時間（40 分）を守るために、授業が急ぎ足になった。そのため、必要な教育的メッセージ（特に平和に関する事項）を十分に伝えたり、教材を十分に活用したりすることができなかったように見受けられた（ 教師の関わりや学習環境 に関連する評価ポイントは、前回の評価より低くなった）。また、授業中の約束事項（コミットメント）を明確化し、それを促進する仕組みを考える必要が依然としてある。さらに、授業中に生徒が考えたり、スキルや成果を向上させる機会を確保する点や、生徒同士の交流を促進する点についても改善の余地が残されている（ 授業の流れや効果的な学習 に関連する評価ポイントは引き続き低いスコアを示していた）。	

体育の単元計画及び行動計画作成のためのワークショップ

これまでに実施した授業計画作成活動を踏まえ、本プロジェクトは、教師が体育の単元計画¹⁷を作成・実施する能力をさらに強化する必要性を認識した。これは、現在の体育教師の質の高い授業を行う能力の不足や、生徒数が多い状況を考慮すると、1 回の授業で全ての教育目標や効果（平和促進を含む）を達成することが困難であると判断されたためである。そこでプロジェクトチームは、対象教師が単元計画の重要性とその作成方法を学べるワークショップを 2024 年 9 月に開催した。このワークショップは、単元計画に関するもの以外に、特に本プロジェクト終了後に体育活動を継続するための行動計画について、教師が議論する機会を提供することも目的とした。

¹⁶ 表中の番号は表 II-29 の評価項目の番号に対応している。

¹⁷ 単元計画とは、特定のトピックやテーマの下で複数ならびにお互いに関連しあった授業計画をまとめたものを指す。

最初に、参加者はこれまでに実施してきたパイロット活動を振り返った。特に、パイロット校が学校における体育やスポーツの現状に基づいて授業計画などの教育ツールを共同で作成・実施してきたことを再確認した。次に、JICA 専門家が、授業計画をさらに発展させた形となる単元計画の重要性について講義を行った。その後、参加者は 1 年生と 6 年生を想定し、「伝統的な遊び (Traditional games)」(例：ペットボトルに水を入れるゲーム、鬼ごっこ、かくれんぼ)「ダンス (Dance)」「ゲーム (Game)」(例：サッカー、バレーボール、綱引き)「走る要素を入れた運動 (Athletics)」(例：ランニング、ジャンプ) の 4 分野で単元計画を作成した。単元計画は複数の授業で構成され、それぞれの授業での指導内容は、「知識と理解」「技能」「態度」という三つの分類法や、生徒の身体的・精神的発達レベルに基づいて異なる。また、一連の授業を段階的に行うことで、1 回の授業では達成できない教育効果を目指す内容となっている。今回はこれまでのワークショップで行っていた模擬授業は実施せず、各グループが作成した単元計画案のプレゼンテーションを基に、参加者が単元計画案に修正を加える形式でワークショップを終了した。以下に、ワークショップ中に作成された単元計画の例を示す。

Name of school: Juba one primary school Name of teacher: XX	Category: Traditional game Title: Lemon spoon picking	Number of session: 4 Target grade: P6	Number of pupils: 40 Grouping: 4 groups
3 Unit objectives (1) Knowledge and understanding ▪ Think critically ▪ Understand instruction of the game (2) Skills ▪ To control lemon ▪ Speed in moving (3) Attitude ▪ Appreciate the game ▪ Appreciate the teamwork		Teaching materials: Lemons, spoons, buckets, water	Commitment for pupils: ▪ Cheering ▪ Participate Commitment for teachers: ▪ Instruct ▪ Assess ▪ Evaluate
Process of the unit plan & suggested activities(process and activities and time allocation)			
Lesson 1 (60 min)	Lesson 2 (75 min)	Lesson 3 (75 min)	Lesson 4 (75 min)
Instruction and explanation (5 min)	Explanation (5 min)	Explanation (5 min)	Explanation (5 min)
Demonstration (5 min)	Warm up (5 min)	Warm up (5 min)	Warm up (5 min)
Deciding roles (5 min)	Game setting (5 min)	Game setting (5 min)	Game setting (5 min)
Explain rules (5 min)		Discussion (5 min)	Discussion (5 min)
Game 1 (30 min)	Game 2 (40 min)	Game 3 (40 min)	Game 4 (40 min)
Cooling down (2 min)	Cooling down (5 min)	Cooling down (5 min)	Cooling down (5 min)
Review (8min)	Review (10 min)	Review (10 min)	Review (10 min)

図 II-1：作成された単元計画例

このワークショップを通じて、参加者は単元計画の構造についてより明確なイメージを持つことができた。単元の前半では、生徒が授業において運動・活動の技術やルールを理解することに重点を置き、教師は適切な授業の管理や調整を試行する。単元の後半では、生徒と教師がより効果的かつ効率的に教育目標を達成できるようにする。重要な要素として、安全な授業を確保するための準備、ウォームアップやクールダウン、グラウンド整備の時間、授業中に守るべき約束事項を生徒と教師が設定し、意図を共有する時間などが含まれる。

一方で、次のような課題も見られた。①多くの単元計画が生徒数 40 人以下の状況を想定して作成されており、現状とかけ離れていた。全ての生徒をできるだけ包摂的に授業に参加させる方法についての配慮がまだ十分ではなかった。②ガイドラインやハンドブック、指導書等、具体的な運動や活動を考え・実施する際の参考となる教材が圧倒的に不足している。そのため、多くの教師の体育授業に関する知識や経験が非常に限られているなか、複数セッションにわたる単元計画を作成する際、特に「ダンス」や「走る要素を入れた運動」において、主要な運動・活動を具体的にどのように実施するかの実践的なイメージが欠けている場合があった。

このワークショップのあと、対象の教師たちは単元計画に基づいて各セッションの授業計画の詳細を準備し、それを基に授業を実施することが期待される。多様で質の高い単元計画を作成することができれば、それらを組み合わせて年間の授業計画を作成するのが容易になる。さらに、各対象校が、年間計画、単元計画、授業計画、そして、生徒の身体的・精神的発達レベルを考慮した様々な運動・活動の具体例を蓄積できれば、学校の体育やスポーツの質が向上し、それを土台にした「平和促進」の要素も強化できる可能性が高まる。

また、参加者はワークショップの最後に、①学校内（校長、ほかの管理者、または他の教師を対象）、②PTA 及び学校運営委員会（School Management Committee : SMC）、③ほかの近隣校を対象にした行動計画も作成した。各内容は以下のとおり。

- 【学校内】 体育やスポーツが時間割に含まれているものの、ほかの教科と比べて実際には中止されることが多い。また、授業数が少ないため、教師は一度に多数の生徒を教えなければならない。このため、多くの対象校教師が、体育やスポーツの授業実施を確保し、その数を増やすことを学校に提案する行動計画を作成した。
- 【PTA 及び SMC】 体育やスポーツの財政的支援において、学校そのものよりも PTA や SMC の役割が重要であると多くの参加者が認識していた。このため、PTA や SMC に対して体育やスポーツを支援してもらうための啓発活動を行う行動計画を作成した。
- 【ほかの近隣校】 授業観察、学校対抗のスポーツ競技会、グラウンドやスポーツ機材の貸し借りといったアイデアが挙げられた。これらのアイデアを実現するためには、特に州政府による支援と調整が必要である。

上記のほか、2023 年 10 月に中央教育省のリーダーシップの下で「学校スポーツ協会」が設立されており、この組織との連携も提案された。

b. 平和促進のための学校のスポーツ大会開催支援

対象中学校での新しい形式を取り入れたスポーツ競技大会実施支援

2024 年 3 月、プロジェクトチームは対象中学校の教師たちと会議を開き、平和に関連する価値観や意識を促進するために既存の学校イベントに新しくどのようなプログラムや内容を追加できるかを議論した。その結果、①学校の合唱団を招き、平和に関する歌を披露してもらう、②生徒に平和についての詩を作成してもらう、③サッカーやバレーボールの試合中、学生の司会者がフェアプレーについてコメントするよう指導する、④試合に参加しない生徒（観客）がチームや選手を応援するためのツールを作成する、というアイデアが提案された。

また、どの対象校がこれらのアイデアを実現することが可能かという点についても議論がなされた。Juba Diocesan Model Secondary School が毎年学校行事としてスポーツイベントを開催していることを理由に、同校における試行が現実的との判断がなされ、計画が進められた。

これらの提案に基づき、対象校の一つである Juba Diocesan Model Secondary School は、平和に関連する価値観や意識を促進するための新しい形式でのハウス¹⁸対抗スポーツ競技大会を開催した。この競技大会で新たに試みたのは、①各ハウスチーム応援用の旗の作成及びそれを使った応援、②平和やスポーツに関連した詩や歌の披露、であった。これらのアイテム・パフォーマンスの制作や競技中の活用・実施を通じて、生徒たちがスポーツの価値やチームワークの重要性、そしてスポーツが平和に貢献する意義を認識することが期待された。

2024 年 4 月に、代表として選ばれた生徒と体育教師 2 名との会議を経て、各ハウスのメンバーが応援用の旗を作成し、一部の生徒はテーマに基づいて詩や歌を作った。これらの制作には 6 日間かかり、競技大会実施中¹⁹の昼休みや放課後の 2 時間を費やして完成させた。これらのアイテムを使った応援やパフォーマンスは、競技大会全 12 試合の最後の 2 試合で行われた。ハウス用の旗を使わずに応援していた場合と比較して、これらを使用した応援では、生徒たちがチームを鼓舞するためにより熱意を持って応援していたことが明らかであった。

このハウス対抗スポーツ競技大会では、生徒たちが作った手作りの応援旗を使用した。しかしその後、手作りの応援旗は壊れやすく、水や湿気にも弱いため、今回のデザインを基にした、業者に作成を依頼した印刷版の応援旗の需要が高まった。生徒と教師が、「ほかのチームを尊重しながら自分たちのチームを応援する」方法について話し合ったあと、各旗のスローガンも各ハウスのシンボルに合わせて更新された。デザインを再度確認し最終化したうえで、業者に旗の製作を依頼した。旗が完成したあと、Juba Diocesan Model Secondary School は、2024 年 6 月に陸上競技会を開催し、その際にこの旗が選手たちを応援するために使用された。

陸上競技会では、開会式、100m、200m、400m、800m、1,000m、3,000m 走や投てき競技が行われた。生徒と教師は飲料水を用意し、陸上連盟と連携して審判を務めるなど、イベントの運営と管理を行ったが、各ハウスの応援にこの旗も十分に活用された。この大会後、本プロジェクトは、これらのスポーツ競技大会の意義、参加した教師や生徒の印象、彼らが作成したハウス用旗に関する感想、そしてスポーツと平和促進の関係についてインタビューを行なった。

¹⁸ この学校では全生徒を四つの「ハウス」と呼ばれるグループに分け、4 学年が混合した形で、課外活動やイベントを実施している。四つのハウスは、南スーダンで馴染みのある自然環境・地域をイメージし、「Imatong (山のイメージ)」「Fulla (滝のイメージ)」「Nile (川のイメージ)」「Rajaf (山のイメージ)」と名付けられている。

¹⁹ 今回の競技会は、生徒チーム対教師チームの 1 試合が含まれた開会式を含めて 13 日間行われた。毎日放課後の 2 時間を使って、サッカーとバレーボールの試合が 1 試合ずつ組まれ、それぞれの競技は、男子チームの試合と女性チームの試合に分かれて行われた。



ハウス用旗作成の様子 (1)



ハウス用旗作成の様子 (2)



ハウス用応援旗



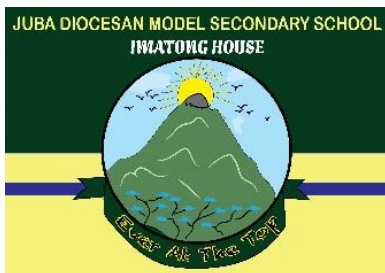
スポーツと平和に関する詩の朗読



スポーツと平和に関する歌の発表



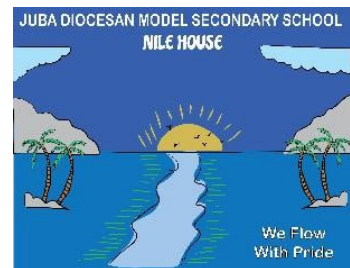
サッカーの試合中の応援の様子



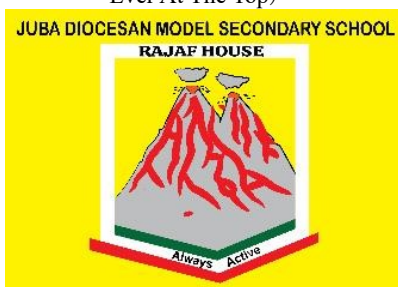
Imatong ハウスの旗 (スローガン : Ever At The Top)



Fulla ハウスの旗 (スローガン : Unity Is Our Strength)



Nile ハウスの旗 (スローガン We Flow With Pride)



Rajaf ハウスの旗 (スローガン : Always Active)



陸上競技大会のセレモニーの様子



陸上競技大会の応援の様子

Juba Diocesan Model Secondary School のスポーツイベントにおける新たな取り組みの効果測定

既述のとおり、本プロジェクトは、Juba Diocesan Model Secondary School のスポーツ競技大会を支援した。このイベントには、応援用の旗の作成・使用や、平和やスポーツに関連する詩や歌の披露といった新たな取り組みが含まれていた。これらの新たな取り組みの効果を測定するため、プロジェクトチームは2名の体育教師へのインタビューと一部の生徒へのアンケート調査を実施した。この目的のために、本プロジェクトはインタビューガイドラインとアンケートを準備した。

2名の教師へのインタビューでは、生徒がハウスチームを応援する際の関与度や態度が、従来のスポーツイベントと比べて変化したことを認識していた。また、応援用の旗や試合前後の詩や歌の披露が、生徒たちに「スポーツが平和促進に果たす意義」「チームワークの重要性」「その他の価値」について考えさせる効果があったと理解していた。教師たちは、次回も同様の方法を取り入れることを希望しており、さらにスポーツや平和、団結やチームワークを学生に感じさせるコメディやダンスパフォーマンスなど、新しい方法も試したいと述べた。

アンケートには、45名の生徒（女子25名、男子20名）が回答した。すべての生徒が、新たな取り組みのもとで「非常に積極的に」（76%）、「かなり積極的に」（9%）、「積極的に」（15%）イベントに参加できたと答えた。また、「普段は話さないほかの生徒と話す機会があったか」という質問に対して、43名（96%）の生徒が「はい」と回答した。この点を別の観点からも確認するために設定した、「新たな取り組みが生徒間の交流や対話をどれだけ促進したか」という質問では、「非常に促進した」（78%）、「かなり促進した」（20%）という回答が多かった。これらの結果は、新たな取り組みが、競技大会への生徒の積極的な参加を促し、関連ツールの制作や応援等を通じて生徒同士の交流を増やしたことを示している。

学校におけるスポーツイベントでの新たな取り組みが、生徒に平和に関連するメッセージを伝える効果があったかを確認するため、生徒に対して、各自が作成した旗、イベント中に披露された詩や歌、サッカー試合中の司会・解説者のコメント等から受け取ったメッセージについて尋ねた。頻出する単語を大きく表示するワードクラウド画像²⁰によると、受け取った主なメッセージは「結束」「平和」「励まし」であった。この結果は、スポーツに関連した活動を通じて、平和に関するメッセージが生徒にうまく伝わったことを示している。また、全生徒が「同じ取り組みを今後のスポーツイベントにも継続してほしい」と答えており、このようなイベントが生徒の積極的な参加・関与のもとで継続されれば、学校内の社会的結束につながる「団結感」の構築を促進できる可能性がある。

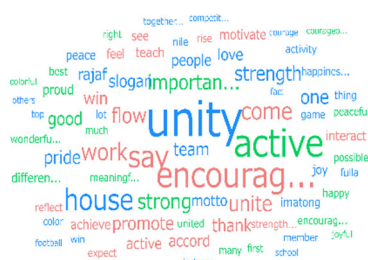
上記のような正の効果が見られた一方で、このような活動を他校でも試行するにはいくつかの条件を満たす必要があると思われる。具体的には、Juba Diocesan Model Secondary School における新たな取り組みを含んだ競技大会の経験から、同様のイベントを実施するためには学校が以下の条件の一部またはすべてを満たす必要があると考える。

- 体育・スポーツ教師が在籍し、活動の意義・目的を十分理解し、活動に積極的であること。

²⁰ ワードクラウド画像は、テキストデータを視覚的に表現したもので、単語は頻度や重要度に応じて異なるサイズで表示される。使用頻度の高い単語ほど大きなフォントで表示されるため、テキスト内の重要なテーマを強調する効果的なツール。

体育・スポーツ教師が文化的／芸術的活動に興味を持つ生徒と円滑にコミュニケーションを取れること。また、観客として応援する生徒もイベントの積極的な参加者として関与する意識を持てるようになること

- この能力・状況は、都市部と農村部、私立学校と公立学校によって異なる可能性がある。
- Juba Diocesan Model Secondary School では、最低限必要なアイテムや機材を学校の予算から調達できた。



応援旗に対する生徒の意識
(ワードクラウド画像より)



詩の披露に対する生徒の意識
(ワードクラウド画像より)

c. 学校におけるスポーツを通じた平和促進の課題

学校は地域社会に深く根付いた組織である。そのため、本プロジェクトでは、体育や学校スポーツイベントを草の根レベルでの平和促進の手段として活用・改善することを試みてきた。総括すると、本プロジェクトは以下の一連の調査及び準備活動、授業計画の作成、単元計画の作成、そしてスポーツイベントでの新しい取り組みの導入、などを 2022 年 7 月から 2024 年 9 月まで実施してきた。

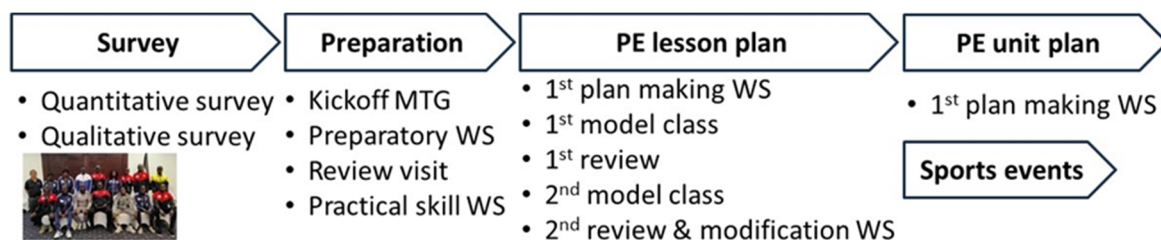


図 II-2：本プロジェクトにおける学校を対象にしたパイロット活動の動き

これらの活動に基づく本プロジェクトの成果は、以下の表にまとめた。この表が示すように、本プロジェクトでは、学校でのスポーツを通じた平和促進におけるいくつかの重要な点に関連した活動を実施することができた。一方で、特に体育において、学校現場では多くの課題が依然として残っている。例えば、平和に関連する価値観を伝える手段として体育を検討・活用する前に、まず体育そのものを実施するための確固たる基盤を構築する必要がある。本来学校は、草の根レベルで平和を促進するための有効な場となり得る。しかし、学校の体育やその他スポーツ活動を平和の媒体として十分に活用できるか否かは、既述のとおり、教師の質の向上（教員養成課程の質の向上、現職中の能力強化研修の確保、など）や、学校における教育環境の整備（体育やスポーツに関する授業時間の十分な確保、教師と生徒の数のバランスの是正、運動場や関連資機材の整備、教員の意欲をそぐ給与遅配の改善など）といった、本プロジェクトが直接改善を支援することができない要素・状態が前提として整っているかどうか大きく影響を受ける。そのような各種前提条件が整っていなければ、学校における体育やスポーツ活動に、平和促進の要素を組み入れ、活用することも難しいか、効果が出てくるまでに非常に長い時間がかかると考えられる。本プロジェクトは、教育そのものの環境が十分に整っていないなかで、なんとか平和促進の要素を既存の体育やスポーツ活動に組み込み、効果を発揮させることができないかと試行錯誤してきた。しかし、その目的・意義を達成するには、まだ多くの時間がかかるとともに、学校教育そのものの質を向上させるための支援が必要である。

表 II-31：平和促進のための学校内スポーツに関する、プロジェクトの主な成果と課題

主な成果
• 質の高い体育に関する対象教師の知識と経験の向上 • 対象校と教育省との協力関係の構築 • 質の高い体育を促進するためのいくつかのツールの導入（例：教師の自己評価を含む授業計画、単元計画、様々な運動・活動例、生徒用授業評価シート、観察者用授業評価シート） • スポーツイベントに平和の要素を導入する効果の検証
継続的な課題
• 学校における体育及びスポーツ実施に関する継続的な環境改善の必要性（例：カリキュラムにおける体育の位置付けの向上、より具体的かつ実践的な体育指導ガイドライン、適切な体育教師と生徒数の確保、十分な体育知識を備えた教師のための事前研修及び現職研修システム、設備や運動場の改善、PTA との協力）

2-(4) 地方におけるニーズ確認

a. トリットにおけるニーズ確認調査

2-(7)で後述するように、東エクアトリア州のトリットがジュバ市外のパイロット地として選定された。州でのパイロット活動の主な対象はスポーツアカデミーであったものの、本プロジェクト

と JICA 南スーダン事務所はこれを地方部における学校の情報を収集する貴重な機会と判断し、MoGEI のタスクフォースメンバーは、トリットで学校体育やスポーツ活動の実施状況について確認することに加え、今後（本プロジェクト活動以外で）地方部においてジュバと類似した活動の実施可能性を検討することを目的に、2024 年 6 月にニーズ調査を実施した。トリットの初等学校 6 校、中等学校 5 校及び教員養成所に訪問し、情報収集を行った。以下の表で、ニーズ調査のインタビュー及び活動観察から得られた所見を示す。

表 II-32：トリットのニーズ調査から得られた主な所見

対象	主な所見
初等学校における体育	・トリットの初等学校の 80%が運動場を有しており、校内で体育活動を実施できる環境が整っている。 ・しかし、初等学校の 49%が、体育の授業に対する正式な準備や計画策定を行っていない。 ・初等学校のうち 17%のみが教科書やカリキュラムに基づいて授業計画を準備していると回答しているが、これらの計画の質や効果に関する詳細な情報は提供されなかった。
中等学校における課外スポーツ活動	・中等学校の 75%が課外スポーツ活動を提供しており、サッカー、バスケットボール、バレーボールなどの人気のあるチームスポーツが含まれている。 ・しかし、これらのスポーツプログラムの実施内容には差があり、80%の学校がスポーツ設備や施設の不足を報告している。 ・課外スポーツ活動への生徒の参加率は比較的低く、中等学校生徒の平均 35%しか積極的に参加していない。これは学校における設備不足が主な原因となっている。
教員養成所における体育やスポーツに関する訓練・内容	・体育の授業は週 2 回、各 60 分間実施されており、教師研修生にとって必修である。 ・活動内容には、チームスポーツ、フィットネストレーニング、ジムの利用が含まれる。 ・指導者は教科書やカリキュラムに基づいて授業を準備し、専任の体育指導者が配置されているが、能力開発が必要である。したがって、主な課題としては、訓練教材、参考書、設備の不足及び体育教師の能力開発の欠如が挙げられる。 ・体育及びスポーツは、チームワーク、協力、問題解決、社会的結束、そしてポジティブな思考を通じて、多様な学生コミュニティ間の団結と平和的共存を促進するために重要とされている。教師研修生の成長にとっても非常に重要と考えられている。 ・一方、この教育機関では、数学と体育が主要教授科目として提供されているが、体育はカリキュラムには組み入れられたり、組み入れなかったりする状況で安定していない。 ・団結を促進するのに効果的なスポーツとして、サッカー、バレーボール、ネットボール、陸上競技、ハンドボールが挙げられる。 ・一般的に、体育及びスポーツの実施における主な課題には、施設・設備の不足、カリキュラム時間の不足、指導者の訓練・専門知識の不足、予算の制約、生徒の参加率の低さが含まれる。 ・そのため、体育の実施を改善するための主な提案として、教材やスポーツ用具の提供、施設の改善、指導者の能力開発、専用予算の割り当て、活動の多様化、健康・フィットネス教育への重点化が望まれる。

b. トリットにおける追加のニーズ調査

2024 年 8 月に実施されたトリットでの追加詳細調査

2024 年 6 月に実施されたトリットでの調査では、タスクフォースメンバーが限られた期間内で学校関係者にインタビューを行ったのみであった。そのため、さらなる詳細な分析が必要とされ、

MoGEI のタスクフォースメンバーは追加の詳細調査を実施した。この詳細調査の主な目的は、地方部の学校で実際にどのような体育やスポーツが行われているかを視察し分析することであった。今回の調査では、①教師が適切な計画（例：具体的な授業計画）や意図を持って学校で体育やスポーツを実施しているかどうか、②実際に行われている体育やスポーツ活動の現状（例：内容、実施環境、教師や生徒の動きや態度など）、③地域の教員養成所で実際に行われている体育やスポーツに関する授業内容、を主に確認した。

大雨の影響で1校は観察できなかったものの、調査チームは6校の対象校と教員養成所を訪問し、ビデオ記録を用いて現場での体育及びスポーツ関連活動の実施状況を確認した。訪問の前後には、追加情報を収集するために現地の教師と議論を行い、学校における体育及びスポーツに関する補足情報を収集した。以下に、基本情報と主な所見を示す。

表 II-33：トリットの追加詳細調査から得られた主な所見

対象校	主な所見
① Airport View 初等学校（コミュニティ運営系） ② Airport View 中等学校（コミュニティ運営系） ③ Torit West 初等学校（公立） ④ Torit East 初等学校（公立） ⑤ AIC 初等学校（教会系） ⑥ Torit Day 中等学校（公立）	- 学校の体育プログラムは、身体的な健康や技能の向上だけでなく、チームワーク、協力、生徒間のコミュニケーション、問題解決能力などの精神的な成長にも焦点を当てている。ペアワークや協力作業を取り入れた活動例もあり、教師と生徒のモチベーションは全般的に高い。 - ほとんどの学校で体育の授業は時間割に定期的に組み込まれており（週 1～2 回）、実施されている。しかし、体育のカリキュラムが確立されていないため、ほかの科目に変更されたり、授業自体が中止されることも多い。 - 多くの学校では、授業計画や月間計画、年間計画がない。また、カリキュラムや教科書、その他の参考資料も存在せず、大半は教師の過去の経験や意識に基づき、場当たり的に実施されている。体育やスポーツに関わる教師の多くは、適切なトレーニングを受けた経験がない。 - Torit West 初等学校では、2019 年から授業計画のテンプレートを活用している教師がおり、月間計画も存在する。この教師は、Stromme Foundation という外部組織による体育関連のトレーニングを受けており、コミュニケーション、創造的思考、チームスピリットなど、認知的・社会的感情スキルを重視している。 - 多くの場合、2～3 名の教師（※これらの教師はほかの科目も教えている）が100～200 人の生徒を対象に体育授業を行っている。そのため、すべての生徒が授業に参加し、教師から詳細な指導やフィードバックを受けることができない（実際に授業に関与できている生徒は 50～100 人程度）。ただし、中等学校では、生徒主導型の体育プログラムが実施され、教師に過度に依存しない例も見られる。 - ほとんどの学校では、ボール、ゴールネット、コーンなどの体育・スポーツ関連の設備が不足しているか、非常に古いものしかない。ただし、他校やスポーツ組織から設備を借りている例もある。 - 運動場は一般的に広いが、雨の影響を受けやすい。多くの運動場は整備が行き届いておらず、石やゴミが散乱していることが多い。日常的に整備を行う人がいないのが原因である。 - 一部の学校では、自校専用の運動場を持たない。 - ほかの教科に比べて、体育は一般的に優先度が低いとされている。体育やスポーツ関連の授業に対するモニタリング、評価、説明責任への意識が学校になく、その結果として体育やスポーツの質の向上や課題解決に繋がらない状況が見られる。

対象校	主な所見
	・ スポーツイベント（主にサッカーや陸上競技）は、毎学期開催されている。しかし、そのほとんどは体育・スポーツ教師や生徒中心ではなく、学校管理者によって計画され、決定されている。
Teacher's Training Centre	・ ジュバ大学やウガンダのその他の教育機関によって開発された体育教師向けのトレーニングプログラム及びカリキュラムが存在する。一部の関連教科書や参考資料が活用されている。 ・ ウガンダのキャンボゴ大学で数学及び体育の学位を取得した指導者がいる。体育及びスポーツの教師研修のために、この指導者によって授業計画や作業計画が準備されている。

上記の所見に基づき、本プロジェクトは以下の点を明確にすることができた。

- ・ 地方部の学校においても、体育及びスポーツを実施するうえで、ジュバと同じような課題が存在することが確認された。具体的には、①授業計画、月間計画、年間計画など、体育やスポーツ授業の体系的な実施計画がない、②学校で質の高い体育及びスポーツ関連活動を実施するための教師の知識や経験が不足している、③体育やスポーツ活動に関するカリキュラム、教科書、マニュアルが参考資料として存在しない、④不適切な教師と生徒の比率、⑤設備や運動場が不十分、⑥ほかの教科と比較して体育及びスポーツの重要性に対する学校の認識が低い、という点が挙げられる。このため、学校で質の高い体育やスポーツを実施するための基盤がない現状では、「平和促進」に焦点を当てた体育及びスポーツ活動を実施するのは依然として困難である。この課題を解決するためには、まず上記の問題を解決し、学校が適切に体育授業やスポーツ活動を組織する能力を獲得することが第一歩となる。
- ・ 体育やスポーツ関連活動を実施するのに有効なカリキュラムや教科書が存在しないなか、ある教師が自主的に授業計画や月間スケジュールを作成し、より体系的な体育やスポーツを実施しようとした事例は注目に値する。しかし、体育の実施は不安定であり、授業計画が十分に活用されていない状況も見受けられた。
- ・ ジュバの学校活動で特に重視されてきたポイント（例：カリキュラムや参考資料の必要性、体育やスポーツ実施における効果的なモニタリングと評価の重要性）は、地方部でも同様に必要とされていることが確認された。これは、ジュバで発見された課題が地方部でも共通していることを示している。

2-(5) スポーツアカデミーに関する活動

a. スポーツ用品の調達

多くのスポーツは身一つで楽しめるものではなく、何らかの道具・用品を必要とする。そのため、必要なスポーツ用品をそろえることはスポーツアカデミーを運営するうえで重要な前提条件の一つとなる。しかし、パイロット対象アカデミーである LFA と SVA はそのような前提条件を満たせない状況であった。例えば、JICA 専門家チームが現況調査のため両アカデミーを視察した際には、SVA ではたった一つのボールを 7 人で共有しており、バレーボールネットは裂け、それを掛けるポールは木製の不揃いな棒を地面に堀った穴に差し込んで固定しただけのものだった。LFA においても、所有している多くのサッカーボールは空気が抜けて表面の皮が剥けており、ゴール

ネットはボールよりも大きな穴が開き、裸足で練習している選手も多く見られた。



穴に埋め込めた木製ボール



ボール一つで練習

このような状況を改善するため、JICA 専門家チームは 2022 年 12 月に SVA、2023 年 1 月に LFA をそれぞれ訪問し、アカデミーの活動に必要なスポーツ用品に関する聞き取りを行った。その情報に基づき、本プロジェクトでは下表に示す物品を調達し、2023 年 1 月から 2 月にかけて対象アカデミーに頒布した。

日々の活動に資する物品に加え、パイロット活動に必要と判断し調達した物品も下表に示している。各パイロット活動については、本節内の項目 c.及び d.にて詳述する。

表 II-34 : ロロゴ・フットボール・アカデミーに供与した物品リスト

物品	数量		
	通常の活動用 (2023 年 2 月供与)	保護者向けイベント用 (2023 年 6 月供与)	コミュニティイベント用 (2023 年 12 月供与)
サッカーボール	30 個	-	-
選手用ユニフォーム	180 着	84 着	44 着
イベントサポーター用ユニフォーム	-	-	60 着
練習用ビブス (男子用)	3 セット	-	-
胸部ベスト (女子用)	45 着	-	-
クーラーボックス	3 個	-	-
給水用	3 個	-	-
ゴールネット (大)	1 個	-	-
ゴールネット (小)	1 個	-	-
ジャージ	5 着	-	-
トロフィーカップ	-	-	1 個
笛	-	3 個	-
ストップウォッチ	-	3 個	-
審判用カード	-	1 セット	-

表 II-35 : シンバ・バレーボール・アカデミーに供与した物品リスト

物品	数量	
	通常の活動用 (2023 年 1 月供与)	保護者向けイベント用 (2024 年 4 月供与)
バレーボール	20 個	7 個
バレーボールネット	3 セット	3 セット
バレーボールアンテナ	3 セット	-
バレーボールボール	-	1 セット
練習着	-	75 着
審判員台	-	1 台
クーラーボックス	-	2 個
膝サポーター	-	75 セット



LFAへの引き渡し



SVAへの引き渡し（2023年）



SVAへの引き渡し（2024年）

アカデミーのコーチからは、スポーツ用品の提供を受けたことでより多くの選手を受け入れることができるようになったとのコメントがあった。選手名簿等客観的なデータや資料へのアクセスが限られていたため、実際にどれだけ人数が増えたのか比較・判断することは難しいが、両アカデミーを訪問するたび、アカデミー参加者が増えてきたとの声が聞かれ、そしてその要因としてスポーツ用品が充実したことがたびたび言及された。スポーツ用品の提供だけでメンバー数の増加を説明することは適切ではないだろうが、コーチが「スポーツ用品の充実」と「メンバー数の増加」との間に関係性を見出していることは彼らの言葉から明確であると思われる。そのような当事者の意見は、スポーツ用品の提供がアカデミー活動の活発化に一定程度の効果を発現したということを裏付ける証拠として重要であり、その後、プロジェクト活動も継続したことから、スポーツ用品の提供が単に「モノをあげる」だけに留まらなかったと考えられる。

b. 指導計画作成ワークショップの開催

2-(2)で示した当初の計画に基づき、2023年3月14日から15日にかけて2日間のワークショップを開催した。LFAとSVAのマネージャーとコーチを主な対象としたほか、アカデミー活動の重要な関係者となるスポーツ連盟／協会からも参加者を招待し、C/P・JICA関係者も参加した。

ワークショップの主な目的は2-(2)で示した三つのバリュー「尊重し合う関係性と協力姿勢」「包摂性」「自尊心と自信」を日々の練習に取り込むための指導計画を作成することであり、そのために1日目の前半では各アカデミーの現況や既に実施している三つのバリューにつながる取り組みを紹介・議論した。その議論の流れを後半のプログラムである指導計画作成のセッションにつなげ、

三つの視点／価値観を意識したうえでどのようにアカデミーメンバーを指導することができるかという観点で指導計画を作成した。2 日目はその指導計画案を発表し、参加者間で意見交換した。

指導計画作成ワークショップではあったが、関係者が一堂に会し、今後の活動方針を議論する貴重な機会であったため、保護者やコミュニティ内でどのようにスポーツアカデミーに関する意識を向上させることができるのかという点を議論する場も設けた。その議論は言い換えると、(保護者やコミュニティに伝達すべき) スポーツアカデミーが内包する正の効果はどのようなものがあるかについて考える機会でもあった。そこで各アカデミーは、それぞれが直面するさまざまな課題、例えば、スポーツに関する誤解、伝統(性別)に基づく役割分業、部族主義、不安定な治安情勢を共有したほか、そのような課題についてどのように対処しているのか紹介した。例えば、保護者がスポーツについて誤解(「ケガが多い」、「スポーツは男のものだ」等)を持っている場合は、コーチが家庭訪問をして直接保護者に説明をしたり、夕方以降に女子メンバーが夜道を歩くことが心配という声があれば、練習後女子メンバーを家まで送っていく(一緒に歩いていく)というような取り組みが紹介された。

このような議論は、各アカデミーがそれぞれのコンテキストに合致する形で平和促進に寄与する活動(相互扶助、安全管理、対等な人間関係の構築、等)を既に実施していることを明らかにした。この経験によって、単純に2-(2)で示したような当初の計画に沿ってパイロット活動を進めるのではなく、アカデミーとの対話を通して(＝アカデミー参加型で)パイロット活動を計画・実施していく方向に舵を切ることになった。



指導計画作成ワークショップの様子(左)とその参加者(右)

c. ロゴ・フットボール・アカデミーとの活動

保護者向けイベント「Parent's Day」の開催

上記方針に基づき、「平和促進効果を内包するアカデミーの発展」という観点でパイロット活動を計画していくため、指導計画作成ワークショップ後もアカデミーとの協議を重ねた。そのなかで、LFA からは保護者向けのイベントを実施したいとの要望があがった。その理由として、LFA が周辺地域の若者をメンバーとして迎え、アカデミーとして存続・発展していくためには、子供のアカデミー参加可否に関わる最終決定権を有する保護者の理解が必要不可欠であり、イベントを通して保護者にアカデミーについてよりよく知ってもらう機会を創出するということが挙げられた。LFA からのこの説明は論理的であるとともに、未成年を対象とする団体として活動を続けるう

で、保護者からの理解は活動運営上も必要なことであると考え、保護者向けイベント「Parent's Day」開催に向けて同アカデミーを支援することとなった。

そこから、プロジェクトチームは複数回にわたり LFA と打ち合せ、イベントの目的、プログラム、必要な資金・資材等について確認した。イベントの目的は「保護者が、LFA の活動とコミュニティの平和促進への貢献に関しての理解と意識を向上させること」とし、保護者がただサッカーの試合を観戦するだけでなく、保護者が実際にサッカーを体験したり、アカデミーメンバーと交流したりするプログラムを用意した。このような目的やプログラム等は、プロジェクトチームが主導・先導して設定したものではなく、アカデミーが発案したものを JICA 専門家も交えて関係者が協議しながら共同で最終化した。他方で、LFA が過度に本プロジェクト（資金）に依存することを避けるため、本プロジェクトからは最低限の物品（例：椅子、テント、飲料水）の現物支給しかないという方針を強く示し、パイロット活動の持続性も考慮したイベントとなるような働きかけは本プロジェクト主導で行った。

このような準備期間を経て、「Parent's Day」は 2023 年 6 月 24 日（土）に開催された。就労している保護者も参加できるよう週末の開催としたが、週末にも仕事のある保護者もあり、イベント開始時は片手で数えられるほどの保護者しか来なかった。しかし、イベントが続くにつれ仕事を終えた保護者が会場に訪れ、最終的には少なくとも 50 人の保護者の参加が記録された。

事前の計画とおり、アカデミーメンバーによるサッカー試合のあとは、「自身の子供に対する意識向上」「アカデミー活動（サッカー）の経験」「協働体験」を目的とした保護者参加型のゲームが実施された。その後、保護者代表、JICA 南スーダン事務所長、MoYS 局長のスピーチでイベントは締めくくられた。



保護者参加型ゲーム（「子供を知ろう」）



保護者参加型ゲーム（ペナルティキック）

イベント実施後、その効果や LFA が地域住民にどのように捉えられているのか把握するため、関係者にインタビューを行った。2023 年 7 月 8 日には当時のロロゴ青少年育成協会（Lologo Youth Development Association）の会長に対しインタビューを実施した。およそ 1 時間半のインタビューを通して、ロロゴ地域が軍関係者の居住区として発展したこと、それにより過去の紛争では多くの住民が暴力の当事者であったこと、紛争後は地域内の結束を高めるためスポーツを活用したことが明らかになった。また、インタビューのなかで回答者はスポーツが持つ求心力についてたびたび触れ、スポーツは言語や文化の違いを超えて人々を魅了し、結束させる力があると力説しており、その流れのなかで LFA の取り組みの重要性についても説いていた。

イベントに参加した保護者にもインタビューを実施しており、主に「家庭環境」「LFA やスポーツ

一般に関する意識』『Parent's Day』に関する印象・感想』の3点について聞き取りを行った。質問は JICA 専門家が案を作成したのち、C/P 及び LFA のコーチともその内容を確認し、各質問が適切かどうか確かめたのちに最終化した。インタビューの実施に際しては、C/P の巻き込みと能力強化を図るため、JICA 専門家が同行したものの、すべてのインタビューは C/P によって行われた。合計で 15 名（女性 12 名、男性 3 名）に聞き取りを行い、そこで得られた以下のような回答は、LFA が持つ正の効果を裏付ける経験的証拠を提示するものとなった。

- アカデミーに参加することで、身体的に良い影響（例：十分な食欲、質の良い睡眠、等）が表れている。
- アカデミーに参加することで、精神的に良い影響（例：保護者の言うことに注意を向ける、早寝早起き、決まりに従う、等）が生まれている。
- コーチが積極的にメンバーに助言を与えたり、家庭訪問をしたりすることで交流が生まれ、メンバーやその保護者と友好的な関係を築いている。
- 地域の多くの若者がアカデミーに参加している。それによって、彼（女）らが非行に走る機会が減っている。
- 「Wrong Boys」と呼ばれる非行グループとつるんでいる女の子がいたが、アカデミーに参加するようになってから、そのグループとのつながりが切れた。
- アカデミーメンバーの一人が、地域内で「Nigger」と呼ばれるギャンググループに所属している友達を誘い、アカデミーに参加させたところ、その友達はギャンググループを去ることができた。
- LFA は地域内のさまざまな場所に住んでいる若者を集め、結束感を高めることに寄与している。
- アカデミーメンバーは兄弟（姉妹）愛（brotherhood/sisterhood）を育んでいる。ともに助け合い、成長している。

こうした回答は LFA が有する社会的インパクトを明示している。多くの保護者が、コミュニティの結束力向上やギャングを間接的に縮小させることによる治安の改善など、LFA が地域の平和促進に大きく貢献していると認識していることがうかがえた。次のパイロット活動は、こうした地域の平和促進効果について広く啓発することを目的として計画された。

コミュニティイベントの開催

「Parent's Day」は、上記のコメントに見られるような、LFA が持つポジティブな側面を保護者に向けて発信する機会となった。この経験を踏まえて次のパイロット活動に向けて LFA と協議を進めると、別のイベントが発案された。前回に続いてイベント開催となるため、その妥当性についてプロジェクトチーム側が慎重な姿勢を示すと、LFA 側からは次のような説明があった。

「『Parent's Day』によって、保護者を含めたコミュニティ側のアカデミーに関する意識向上は一定程度図ることができたので、次のステップとして考えられるのはコミュニティの『参加』であり、コミュニティ主導のイベントを開催したい。」

つまり、前回のイベントは保護者に「向けた」イベントであり、対象となる保護者はいわば客体であったのに対して、次のイベントは保護者を含めたコミュニティメンバーと「ともに」運営し、

彼（女）らがより主体的にアカデミーと関わるような形にすることが発案された。換言すれば、次のイベントではコミュニティ内の一体感（sense of togetherness）を高めることを目的とすることが提案され、プロジェクトチームもその提案を検討し、LFA とも議論を重ねたうえで2回目のイベントを実施することを決めた。

コミュニティの巻き込みが中心テーマとなったことで、LFA からの助言もあり、プロジェクトチームはコミュニティリーダーの元を訪ね、本プロジェクトの概要及び計画しているイベントについて説明する場を設けた。2023 年 11 月 22 日に地域の自治組織（Area Youth Office）の幹部らと会合を持ち、その場を以ってイベント開催について許可を得ることができたほか、イベント運営にコミュニティリーダーも含めることが提案され、それについても合意することができた。

それから間もなく、同年 11 月 26 日には有志の保護者とコミュニティリーダーとイベントの準備会合を開き、各関係者の役割と責任について協議・合意した。



コミュニティリーダーたちとの会合



イベント準備会合

イベント当日となる同年 12 月 3 日は、朝からコミュニティの若者、アカデミーメンバー、コミュニティリーダー、有志の保護者がロゴ運動場に集まり、会場設営に勤しんだ。設営に時間を要し、イベント開始が予定より遅れたものの、いざ開催となり会場が盛り上がってきた矢先、厚い雲が運動場を覆い、豪雨に襲われた。当初はよくある通り雨だと考え、イベント継続を想定していたが、雨は一向に止まず、プロジェクトチームと LFA の判断により、イベントは延期されることとなった。1 月は NUD 等別の活動が活発になることもあり、2024 年 2 月まで延期されることとなった。荒天により延期されたものの、会場設営は地域住民が一体となって取り組むなど、イベントの目的を達成する可能性を示すものとなった。



コミュニティの若者とリーダーたちによる会場設営



豪雨によるイベント延期

NUD 期間中にも LFA と調整を進め、NUD 終了後、2024 年 2 月 18 日にイベントを開催した。しかし、延期後のイベントも主に二つの理由で円滑な開催が阻まれた。一つ目は、イベント前日夜

に発生した地域内のギャングの抗争に起因する警備活動の活発化で、イベント当日朝から地域内には多くの警察官が出動しており、逮捕者も多く出るなど、地域内は混乱していた。二つ目は Area Youth Office 内の情報伝達ミスによるものだった。

前者は予期せぬ事象であり、本プロジェクトが介入できる余地がないものであったが、後者については、前述のとおり Area Youth Office の幹部には事情を説明し、イベント開催について承認を得ていたものの、その情報が担当者まで伝わっていないことに起因していた。さらに、その担当者は、彼に情報が伝わっていないことに不満を持つと同時に、LFA の活動に関する決定権は Area Youth Office が有していると誤解しており、イベントの中止を求め来賓である MoYS 局長に詰め寄るなどイベント運営に大きな支障をきたした。プロジェクトチームは、今後の LFA 及びコミュニティリーダーとの関係を悪化させないことを考慮のうえ、こうした状況においてもプロジェクト主導で中止・延期の判断を下すことはせず、LFA と協議し、LFA の判断に基づきイベントを継続した。しかし残念ながら、上記二つの要因が重なり、イベントは予定していたプログラムを大きく改変して実施することとなり、参加していた JICA 専門家も治安上設定されている門限の時間が迫ってきたこともあり、イベント終了まで現場に残ることができず、イベントの詳細を把握することができないままとなった。

問題の一因に政治組織 (Area Youth Office) が関係していることもあり、外部の人間 (JICA 専門家) が問題の解明や解決に介入することは慎重になるべきとの意見が C/P・LFA 双方から挙がったため、本件のフォローについては MoYS タスクフォースに一任することとなった。その後、2024 年 8 月までの長い調整・協議期間を経て、LFA の活動については、地域関係者が委員となり新たに設立する「アカデミー委員会」が最終決定権を持ち、LFA が政治的な組織とは独立して活動するということが確認・合意されたことで本問題については解決が図られた。しかしながら、問題解決までに多くの時間を要したことで、ほかの活動との兼ね合いから新たな活動を計画・実施することが困難となり、このイベントが LFA と行う最後のパイロット活動となった。



会場設営に勤しむコミュニティメンバー

望んだ形でパイロット活動を終了することはできなかったものの、LFA とともにパイロット活動を計画・実施するなかで、同アカデミーが地域にもたらす平和促進の影響や LFA が本プロジェクトの介入に頼らず自ら考え、その計画を実行に移す能力があることが明らかになり、本プロジェクトの運営上重要な示唆を与えることとなった。つまり、保護者らの回答からアカデミーが有する平和促進に作用する力が認められたことと、アカデミーのコーチたちが自ら明確な目的意識を持って直面する課題を分析し、その対処を計画・実施できる能力があるということが判明したことは、本プロジェクトの草の根活動において参加型手法を取り入れることに関し、妥当性と有効

性を与える形となった。加えて、こうした知見は、2-(6)で後述する Everyday Peace 概念の検討・活用を支える根拠ともなった。

d. シンバ・バレーボール・アカデミーとの活動

啓発ツール作成

指導計画作成ワークショップ 2 日目の議論を通して、SVA が地域の子供たちがバレーボールを学ぶ場所であるとともに、種々の社会関係資本（メンバー間の友達関係、コーチとの信頼関係、アカデミーとのつながり・帰属意識、等）を醸成する社会的空間としても機能していることが分かった。しかし、同アカデミーは自身のそのようなポジティブな側面や目的をアカデミーメンバーやその保護者に伝えるための手段を有しておらず、言語化された形で整理する必要があった。そのため、SVA の目的や目標を伝達するための啓発ツール作成がパイロット活動として提案された。

啓発ツールの内容としてどのような情報を入れ込むか議論するための基礎情報を収集するため、プロジェクトチームは SVA（マネージャー、コーチ、（元）アカデミーメンバー）との協議を重ねた。その結果、以下のような内容が確認された。

- SVA は 2021 年にジュバにおける最初のバレーボールアカデミーとして設立されたが、新型コロナウイルスの影響を受け活動が制限された。2022 年から実際の活動が始まった。
 - 現コーチの「次世代のバレーボール選手を育成したい」という意志が設立の動機となっている。
- 設立後、女子メンバーが増えていくにつれ、「地域内の女子のエンパワーメント」も目的化していった。
- SVA 関係者は、同アカデミーの活動を通して、以下のようなことが狙えると考えている。
 - 身体能力の向上
 - 出自や民族の異なる人との友人関係の構築
 - スポーツに時間を費やすことによる非行防止効果
 - ジェンダー平等意識の醸成（例：女子メンバーが男子メンバーや男性コーチに気兼ねなく話せるようになる、等）
 - 社会規範の学習
 - バレーボール選手として成功するための機会創出

上記のような確認を進めることと並行して、どのような媒体が SVA のニーズに適しているかについても議論を進めた。これについては、通常の練習とイベントの双方に活用できることと、南スーダンにおいて一般的な広報ツールであることが判断材料となり、バナーが選ばれた。

収集した情報を統合する形で、SVA 関係者と協議を重ね、バナー及びそこに入れ込むロゴのデザイン案を作成し、それを基に 2m×3m と巻き込み式バナーに適応するよう微修正を加えデザインを最終化した。各タイプのバナーを印刷後、2024 年 1 月に SVA へ納品した。



図 II-3 : SVA のロゴを含んだバナー

保護者向けイベント「Parent's Day」の開催

LFA と同様に、SVA も保護者の理解と支援はアカデミーメンバーの活発な練習参加に必要不可欠との認識を有しており、ここでも保護者向けイベントの高い需要と必要性が示され、プロジェクトチームは LFA との経験を生かす形で支援することとした。

SVA の活動や目的を保護者に示し、保護者が同アカデミーについての理解を向上させ、SVA ・保護者間の協力的な関係を作るための下地を整えることをイベントの目的として設定した。続く議論では、具体的にどのようなプログラムを含めるか SVA 関係者と協議を重ね、下記のようなプログラムを実施することとなった。

- メンバーによるバレーボールのデモンストレーション／参加者によるバレーボール体験
- 短縮版のバレーボール試合
- 保護者会設立構想の紹介

イベントについて計画を進めるにあたり、イベント関係者（ステークホルダー）については特に注意を払った。SVA から保護者向けイベントについてのニーズが示された時期は、プロジェクトチームが LFA とともに延期後のコミュニティイベントの開催準備を進めている時期と重なっており、何かの参考になればと、プロジェクトチームはコミュニティイベント当日に SVA のコーチを招いていた。そこで同コーチは既述の Area Youth Office 担当者とのいざこざを目撃しており、関係者間の調整がイベントの円滑な開催に非常に重要な意味を持つことを、実感を持って学んでいた。そうした教訓もあり、プロジェクトチーム・SVA 双方は関係者間の調整に一層の注意を払いながら進めることとした。特に、SVA は兵舎エリア内で活動していることから、観客や音を伴うイベント開催には軍関係者からの反対を受ける可能性もあり、慎重な調整が求められた。そのため、SVA のコーチはイベントの骨子が概ねできた段階ですぐに兵舎の責任者にコンタクトを取り、イベントの主旨・プログラムについて説明を行い、軍側からの正式な承認を得るよう働きかけた。丁寧な調整プロセスを踏んだことで、軍側からはスムーズに承認を取り付けることができた。その流れのなかで軍責任者をイベントに招き、それを受け同責任者がイベントでスピーチをすることにもなり、兵舎というセンシティブで特殊な環境にも関わらず、好意的な雰囲気の中でイベ

ントを開催することができた。こうして、必要なステークホルダーを丁寧に巻き込むことで地域一体となってイベントが開催できたことは、本イベントにおける特筆すべき成果の一つである。

参加型手法により SVA 主導でイベントの準備が進められ、保護者向けイベント「Parent's Day」は 2024 年 4 月 13 日に開催された。およそ 50 人の保護者と 10 人の来賓が参加し、特に入場制限もしていなかったため、そのほかの地域住民もイベントを楽しんだ。日々の活動を見てもらうことを目的としたバレーボール練習のデモンストレーションやその成果としてのバレーボールの練習試合に保護者が触れる機会を作ることができた。イベント中には、来賓からスポーツをすることの意義に関するスピーチが届けられたほか、SVA からはこのイベントを機に保護者会を設立し、アカデミーと保護者間の協力関係を強化したいという構想が述べられた。



開会式



観客



練習のデモンストレーション



保護者代表によるスピーチ

イベント及び SVA に関するフィードバックを得るため、イベントに参加した保護者を対象として聞き取りを行った。インタビュー実施に際しては SVA のコーチが保護者との調整を仲介し、プロジェクトチームが起案・最終化した質問項目を基に MoYS タスクフォースが聞き取りを実施した。下表では、インタビュー結果と「Parent's Day」の開催を受けて SVA が今後どのように保護者との関係を築いていきたいのかという方策について述べたことを記している。

表 II-36 : 「Parent's Day」開催後に実施した保護者を対象としたインタビュー結果

トピック	回答結果
インタビュー回答者の家庭環境	- 多くの保護者は軍関係者であり、夫が兵士であることが多い。過去の紛争等で夫が戦闘により亡くなり、その結果母子家庭になるケースが多い。ほかには、ボダボダや家政婦（夫）、警察官、レストランのコックとして働いている保護者もいた。 - 多くの回答者は、兵舎内は軍関係者が多く滞在しているので比較的安全との認識を有していた。地域内にはギャンググループも存在するが、何か問題が起きた際も軍が迅速に駆けつけるので、治安は保たれている。
スポーツ及び SVA に関する印象・考え方	スポーツ経験のある保護者は、友達が得られることや自信が付くということを理由として挙げ、自身の子供がスポーツをすることに好意的であった。女性のスポーツ参加について偏見を持たない保護者もいるなか、スポーツが妊娠を妨

トピック	回答結果
	げるといふ考えや、ケガのリスクがあるといふことを理由に女性がスポーツをすることをよく思わない保護者もいた ・ スポーツ経験のない保護者のなかでも、アカデミーの活動に参加させたいという者もいた。 ・ インタビューしたすべての保護者は、必要な家事をすべて終えてからアカデミーの練習に参加するべきだとの考えを示した。 ・ アカデミーに参加することで社会規範的な言動（例：時間を守ること、他者を敬うこと、非行を避けること、家族を助けること、等）を身につけることができると評価していた。また、何名かはアカデミー活動に参加することは児童婚を防ぐ効果があるという考えを持っていた。 ・ ある保護者は、「学校とアカデミーに違いはない。（お金がなくて）子供を学校に行かせてあげることはいできないけど、アカデミーには行かせている」と答えた。回答があった際の文脈を考慮すると、「社会化」という側面においては学校とアカデミーを並列に捉えていることがうかがえた。 ・ （「回答者の家に行くため）コーチと通りを歩いていると、多くの子供たちが「コーチ！」と声を掛けていた。このように、SVA のコーチが地域に受け入れられていることを示すような場面が多くあった。
「Parent's Day」に関するコメント	・ 子供たちがどのようにスポーツを楽しんでいるのか見る機会がなかったので、イベントでそうした姿を見ることができたのは嬉しかった。 ・ 子供たちが伝統的なダンスを披露してくれたのは見ていて楽しかった。 ・ 子供たちがスポーツを楽しみ、そのなかで友人関係を築いていることを目の当たりにすることができて嬉しかった。 ・ イベントプログラムに演劇があると良かった。女性はスポーツをするべきでないという考えがまだ根強いが、演劇を通してスポーツの意義を伝えることができるのではないかな。 ・ 保護者がより参加できるプログラムがあればよかった。保護者同士は知らないことが多い。こうした場で交流できる機会があれば良いと思う。
SVA コーチと MoYS タスクフォースによる振り返り	・ 保護者会のように、保護者が SVA の運営や活動についてより深く関われるような仕組みを作りたい。 ・ 保護者が気軽に練習を見学できるように、椅子などを用意したい。



保護者へのインタビューの様子

インタビュー結果を概観すると、「Parent's Day」が好意的に受け取られたことが分かる。また、インタビューからは、保護者が女性のスポーツ参加についてどのような印象を持っているかについても示唆を得ることができた。例えば、「スポーツが妊娠を妨げる」「必要な家事をすべて終えてからアカデミーの練習に参加するべき」との回答からは、社会・文化的な慣習が障害となり、女

性のスポーツ参画が妨げられているという状況がうかがえる。他方で、「アカデミーに参加することで社会規範的な言動（例：時間を守ること、他者を敬うこと、非行を避けること、家族を助けること、等）を身につけることができる」という回答や、「学校とアカデミーに違いはない。（お金がなくて）子供を学校に行かせてあげることはいできないけど、アカデミーには行かせている」などの回答からは、スポーツ（アカデミー）が持つ正の効果を認識していることも推察できる。このように、インタビューでは、スポーツが持つ社会的な価値を認めつつも、自身の娘にはスポーツに参加して欲しくないというジレンマが少なからず存在しているという状況を把握することができた。このような現状把握が以下に説明するパイロット活動につながっていった。

保護者会の設立支援

上記インタビュー結果を受け、SVA は保護者が抱くスポーツに関する種々の誤解（スポーツが妊娠を妨げる、等）について、アカデミー関係者が保護者らとより親密な関係性を築き、相互理解を深めることで解消することができるのではないかと考えた。また、保護者からも、アカデミーとの協力関係が強化されることで、SVA が内包する社会的なインパクトを高めることができるとの声が聞かれた。こうした意見を踏まえ、SVA と保護者代表が共同で保護者会設立について意欲を示した。その意思表示を受け、プロジェクトチームも「Parent's Day」で生まれた流れと勢いを活用し、「平和促進効果を内包するアカデミー」の基盤を強化する目的で保護者会の設立を支援することとした。

保護者会設立に向けて意思統一が成されたあと、2024 年 8 月の毎週末に打ち合わせの場を設け、保護者会の目的、理念、運営体制等について議論を深めた。その内容を基に JICA 専門家が会則案を作成した。

会則案をアカデミーメンバーの保護者に説明し、正式な承認を得て発足させるため、2024 年 9 月 7 日に保護者を対象とした説明会を開催した。22 名（女性 13 名、男性 9 名）が参加し、その参加者に対し保護者代表が会則の要点—アカデミーメンバーの明るい未来を築くためにアカデミーと保護者が協力すること—を説明したのち、質疑応答を経て会則が正式に承認された。

また、説明会では、スポーツに関する誤解を解くための一つの働きかけとして、「女性とスポーツ」分野における配慮事項について C/P が自身の経験も交えて説明するセッションを設けた。そこでは、スポーツをすることの利点、女性がスポーツをするうえでの身体的・精神的配慮事項や生理に関する知識について共有した。



アカデミー及び保護者代表との打ち合わせ



保護者に対する説明会

ジェンダー配慮に関するワークショップの開催

女子メンバーが大半を占める SVA では、「女性とスポーツ」に係る課題に対処することはアカデミー存続に関わる重要事項であり、前述の説明会で保護者向けに配慮事項を説明したことに加え、実際に女子メンバーから意見を聞くことも必要不可欠だと考え、アカデミーメンバー向けのワークショップを追加で企画した。

ワークショップでは、保護者に対して行ったようなジェンダー配慮事項についての一般的な説明をするほか、アカデミーメンバーから、彼女らが日常的に経験している問題などを共有し、コーチがそれらの問題についてどのように対処できるかともに議論する時間を設けることが提案された。

会則の説明会と並行する形で関係者と打ち合わせを重ね、メンバー向けのワークショップは 2024 年 10 月 12 日に実施された。およそ 50 名のアカデミーメンバーが参加した。まずはコーチから改めて SVA の理念やモットーについての説明があり、続けてケガの防止についての説明がなされた。その後、MoYS タスクフォースがジェンダー配慮事項について説明したところで予定していた時間を大幅に超えていたため、メンバーからの聞き取りやそれに基づく議論は翌週に延期された。

同年 10 月 19 日にワークショップの後半となるメンバーからの聞き取りを行った。女性コーチが自身の経験を語ることから始まり、それをきっかけにアカデミーメンバーが抱える問題についてメンバーから経験共有してもらい、アカデミーができることについて議論を進めた。最後に、互いに尊敬しあい、信頼を深め、責任を持った行動をしていくことがメンバーとコーチ間の良好な関係の構築に重要であるという認識を共有し、ワークショップは締めくくられた。



ジェンダー配慮ワークショップ

LFA のケースと同様に、SVA とパイロット活動を進めるなかで、同アカデミーが（特に女性にとって）多くの社会的価値を有し、そういった価値を高めるために必要な行動を取る能力があることが明らかになった。繰り返しになるが、こうした経験は参加型手法を採り入れ、スポーツアカデミーをパイロット活動の計画段階から中心に据えることに妥当性を与えたほか、プロジェクト

が Everyday Peace 概念（後述）を検討・活用する際に経験的裏付けを与えるものとなった。

e. スポーツアカデミー対象パイロット活動振り返りワークショップの開催

LFA・SVA とともに実施した上記一連の活動を振り返るため、本プロジェクトは 2025 年 2 月 11 日にワークショップを開催し、両アカデミーのコーチ及びアドミニストレーター、MoYS タスクフォース、JICA 専門家が参加した。

ワークショップは、まず JICA 専門家が 2022 年から実施してきた活動を写真とともに振り返るセッションから始まった。次のセッションでは、これらのパイロット活動を通して得られた知見と経験を基に、どのように本プロジェクトが Everyday Peace 概念（2-(6)参照）を整理したのか説明した。午前の最後のセッションでは、まずこれまでのパイロット活動と Everyday Peace 概念との関連性を示し、次にそのような活動をフォロー・継続していくためのアクションプラン作成の流れについて説明を行った。

午後のセッションは、すべてアクションプラン作成のための議論とアクションプランの発表に費やされた。本プロジェクト終了後も、各アカデミーは自身で作成したアクションプランを基に必要な活動を行い、またそれを評価し、改善しながら継続していくことが求められている。

2-(6) Everyday Peace 概念の活用・検討：ジュバにおけるパイロット活動からの教訓統合による概念整理

a. 「Everyday Peace」とは何か

2-(5)で述べたとおり、本プロジェクトではパイロット活動を進めるうえで参加型手法を採用入れた。各活動については上述したとおりだが、パイロット活動として実施されたすべての活動において、JICA 専門家が主導的・支配的な立場を取り、方向性を決めたものは一つとしてない。各活動においては、LFA・SVA の両アカデミーが、それぞれが置かれているコンテキストや直面する課題を把握し、それに対しどのような活動がなぜ必要で、それをどのような形で実施すべきかということを中心に検討していった。そのプロセスにおけるプロジェクトチーム（C/P・JICA 専門家）の役割は、多様な視座を提供しながら議論を進め、両アカデミーのアイデアを深めることであった。

このような参加型手法は、アカデミーが日々の活動を進めるなかでどのように課題を認識し、またそれに対処するのかについての知見を蓄積することを可能にした。そしてそのような知見は、スポーツアカデミーを単なる「若者がスポーツを楽しむ場所」ではなく、「Everyday Peace」—2-(7)で述べるトリット研修における中心的な概念的枠組み—が形成される社会的空間として捉え直し、当初「平和促進効果を内包するアカデミー」という観点で出発した「スポーツアカデミー」と「平和促進」との関係を、パイロット活動を通して蓄積した経験的証拠を携えて、再検討する機会を創出した。

「Everyday Peace」は Roger Mac Ginty によって提唱された概念で、「あるグループ内外において、

争いや気まずい状況に陥ることを避けるために個人またはグループによって実践される慣習」²¹（JICA 専門家訳）と定義されている。この概念の意義は、日常生活を営む平々凡々な一般市民に争いを防ぐ「力」を見出している点にある。Mac Ginty は、人々は（意識的か無意識かに関わらず）争いを避ける言動（Everyday Peace）を日常生活のなかで実践しており、その実践を通して紛争の原因となる「力学や論理、物語が成長することを中断（disrupt）させている」²²（JICA 専門家訳）と述べており、紛争中であれば進行中の暴力を減速させ、紛争前であれば暴力が加速していくことを止める作用があると主張している。つまり、「Everyday Peace」は人々による日常的な平和実践（具体的な言動）であると同時に、国家や特定のグループが紛争に進む勢いを弱らせる作用を有する、一般市民が持つ「力」であると理解できる。

b. 南スーダンにおける紛争の原因である「力学や論理、物語」としての民族とジェンダー

パイロット活動を進めるにあたり密に LFA・SVA 両アカデミーと関りを持ったことで、両アカデミーがどのように Everyday Peace を促進させているのか、言い換えれば、両アカデミーが紛争影響国である南スーダンにおいてどのように紛争の「力学や論理、物語」が膨れ上がることを妨げている（「disrupt」している）のか、その一端を垣間見ることができた。

しかしその説明を進める前に、まずは南スーダンにおける紛争の「力学や論理、物語」がどういったものなのか把握しなければならない。南スーダンの紛争を単純化して述べることは避けるべきだが、少なくとも民族とジェンダーが含まれることをここでは簡単に触れる。

第1章でも述べたとおり、南スーダンは、独立後 2013 年と 2016 年に 2 度の大きな騒擾を経験した。いずれも政治的な権力闘争に端を発しているとする見方が主流ではあるが、その争いに伴う暴力は（少なくとも）民族とジェンダーによって特徴づけることができる。例えばいくつかの先行研究では、政治闘争が民族的な縁故主義と結びつき、それが民族に基づく暴力につながったという主張が展開されている²³。2014 年に発生したベンティウとマペルにおける虐殺事件は、そのような民族に基づく暴力の極端な事例として理解することができるだろう。

民族に加え、ジェンダーも南スーダンにおける暴力を特徴づける要因として無視できない。二度の騒擾のなかで、女性はいしばしば略奪と性暴力の対象となった。例えば、女性が「(男性の) 軍事的・政治的な貢献に対する対価として所有され、破壊されるような『モノ』」²⁴（JICA 専門家訳）として扱われたということ指摘する研究や、紛争に関係する暴力の被害者の 90% が女性であったとする報告がある²⁵。

こうしたことを踏まえると、「民族」及び「ジェンダー」が南スーダンにおける紛争や暴力を理解するうえで重要な視点となることが分かる。それはつまり、「民族」や「ジェンダー」に基づく対

²¹ Mac Ginty, Roger. 2014. "Everyday peace: Bottom-up and local agency in conflict-affected societies." *Security Dialogue*, 45 (6): 548-564.

²² Mac Ginty, Roger. 2021. *Everyday Peace: How so-called ordinary people can disrupt violence conflict*. New York, US: Oxford University Press.

²³ de Waal, Alex. 2015. *The Real Politics of the Horn of Africa: Money, War and the Business of Power*. Cambridge: Polity Press; Young, John. 2019. *South Sudan's Civil War: Violence, Insurgency, and Failed Peacemaking*. London: Zed Books.

²⁴ de Waal, Alex. 2016. "A Political Marketplace Analysis of South Sudan's Peace." Occasional Paper on March 24. World Peace Foundation.

²⁵ Insecurity Insight. 2020. "Sexual Violence in South Sudan." January 2022. Geneva: Insecurity Insight. bit.ly/SexualViolenceSudan

立構造や意識が南スーダンにおける紛争の「力学や論理、物語」(の一部)であり、Mac Ginty の Everyday Peace 論を借りれば、そうした対立構造・意識を日常生活のなかで解消していくことが、紛争の発展を阻止し、暴力の減速を助けること(=Everyday Peace を促進すること)につながると言うことができる。

c. Everyday Peace を育む社会的空間としてのスポーツアカデミー

パイロット活動を進めるなかで LFA・SVA 両アカデミーとの対話を継続して分かったのは、両アカデミーが日々の活動を通して「民族」や「ジェンダー」という境界線を破ろうと試みている姿だった。

両アカデミーのコーチはアカデミーメンバーが民族によって分断されることを嫌い、たびたびアカデミーメンバーに対して、民族の違いに関係なく同じアカデミーの仲間としてお互いに接するように口にしていた。そうしたこともあり、SVA のコーチは同アカデミーメンバーについて、「今は練習後も仲良く座っておしゃべりしている。積極的に交流して、仲間同士で家や学校のことを気兼ねなく話し合って、それが彼女たちのストレス発散につながっている」と説明し、異なる民族のメンバーが集まる SVA 内では民族の境界線が破られていることを強調していた。また、それはアカデミー内に限ったことではない。同アカデミーの女性コーチは、「彼女たち(アカデミーメンバー)が家に帰ったり、アカデミーの外の領域で過ごす時もアカデミーで築いたような良い関係を持ち出すよう伝えている」と言い、アカデミー外でも民族を意識せず周囲の人々と接するよう説いていることを教えてくれた。また、「民族の差異を超えた友人関係」を広げることは、LFA でも推奨され、2-(5)で紹介したように、それは時にギャンググループを縮小化することにも貢献している。

チームスポーツ(サッカー、バレーボール)を指導するうえで、チーム内の良好な人間関係の構築は不可欠であり、そこでは民族による対立意識は大きな支障となり得る。それにも増して、民族に基づく暴力を経験してきたコーチ陣は、民族の違いによって友人関係が阻まれることを嫌い、そうした考えをアカデミーメンバーに伝えてきた。つまり、両アカデミーは民族に基づく「力学や論理、物語」の否定につながる意識啓発を日常的に実施してきたのである。

前項で簡単に触れたとおり、南スーダンの紛争において女性は周縁化されてきた。そしてそれは紛争コンテキスト下だけでなく、日常生活についても言うことができる。性別役割分業が根強く、女性は家に残り家事をすることが求められるし、婚資に関する伝統的慣習は婚期の女性が「キズモノ」とならぬよう保護する動機を保護者に与える。こうした文化的規範は、女性を私的領域に閉じ込めるとともに、男性優位の社会構造を助長している。

こうした状況にありながらも、両アカデミーは所属する女性メンバーに対し、そうした男性優位の力構造に積極的に挑戦するよう求めている。例えば、SVA の男性コーチは、練習後に女性メンバーに練習についてフィードバックを求めることを心がけている。そのコーチ曰く、取り組みを始めた当初は遠慮してなかなか話し出してくれなかったが、継続していくことで気軽に話してくれるようになったとのことだった。また、そうした男性コーチの態度について、元アカデミーメンバーの女性は、「女性は公共の場所で話すことは許されていない。でもこのアカデミーでなら、男性の前でも話すことができる。これは学校でもできないこと」と説明し、それに同調するよう

に他の元メンバーからも「家では、兄弟の隣に座ることも許されない。でもアカデミーではコーチが後押ししてくれるし、（男性）コーチに自由に話しかけることができる」との発言があった。これらの当事者からの生の声は、アカデミーが女性の周縁化につながるジェンダー規範に対抗している実情を映し出している。

ここまで非常に簡潔ではあるが、「民族」や「ジェンダー」による差異が南スーダンにおける紛争の原因となる「力学や論理、物語」の一部を構成していると説明したうえで、パイロット活動とともに進めることで得られた経験を基に、スポーツアカデミーがそれらの差異を曖昧化させようと努めている姿を示した。ここで重要なのは、それらの努力が必ずしも紛争防止を目的として行われている訳ではない点である。サッカーやバレーボールチームとしてチームワークを醸成したいから、よりよい練習のために改善していきたいから、というのが一義的な動機で、それはつまり「アカデミーを発展させたいから」という点に集約する。そのためには「民族」や「ジェンダー」などチーム内の不和をあおりかねない「力学や論理、物語」は不要で、排除すべきと判断されていた。両アカデミーでは、南スーダンを分断してきた「民族」・「ジェンダー」という拘束から逃れられる聖域が確保され、「紛争解決」「平和構築」などという言葉で着飾らない、地に足のついた日々の平和実践（＝Everyday Peace）が根付いていた。

d. 概念の実用化：Safe Space と Peaceful Community

スポーツアカデミーが、Everyday Peace が実践される社会的空間となる（そしてそれにより草の根から平和構築を実践する）可能性を秘めているという気づきは、その後の現地業務にもつながる重要な示唆を与えることは明らかであったが、Everyday Peace の概念やそれがどう平和構築につながるのか—Everyday Peace と紛争の「力学や論理、物語」との関係性—は抽象度が高く、それをそのまま現地活動に適用することは難しかった。そのため、より具体性を持たせ、明確な活動像が描けるようになるまでプロジェクト独自で概念を落とし込む—つまり、実用化（operationalise）する—必要があった。ここまでに得られた知見を基に JICA 専門家と C/P が議論を重ね、スポーツアカデミーにおける Everyday Peace 概念を Safe Space と Peaceful Community の構築という 2 要素に分類した。下図（紛争研究学会（Conflict Research Society）の発表で使用したものの抜粋²⁶）は、その 2 要素について説明したものである。

²⁶ 2-(6) c. 参照

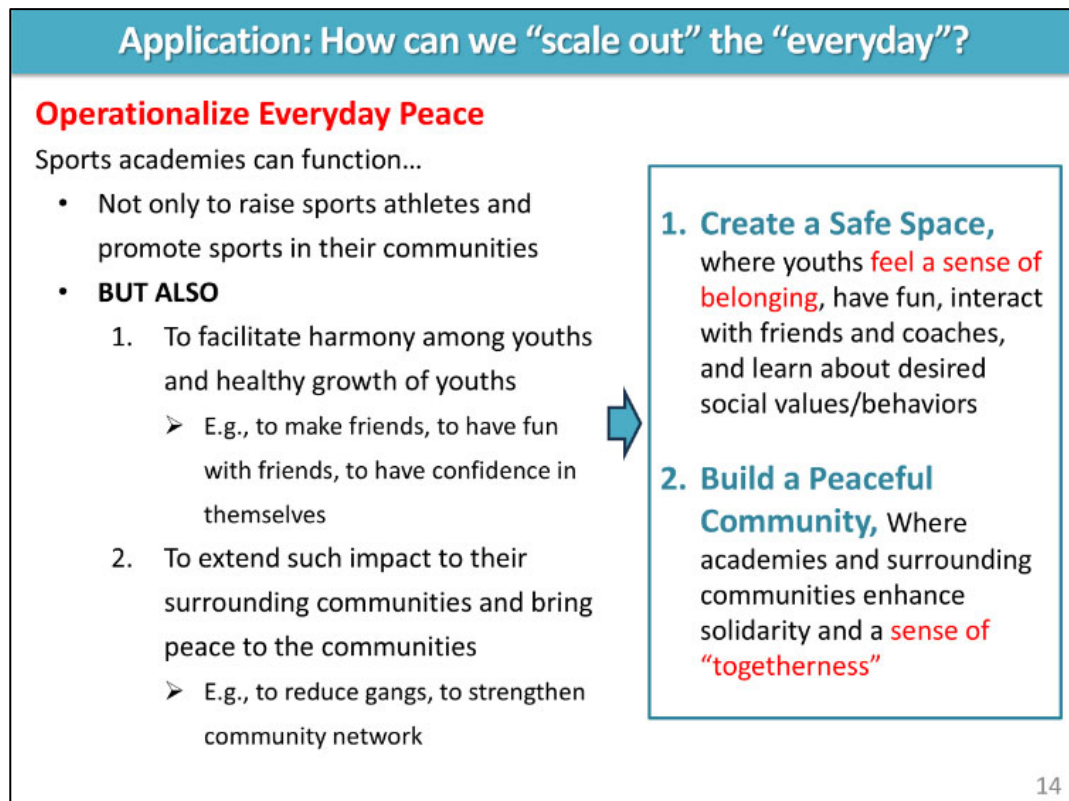


図 II-4 : Everyday Peace の 2 要素

要素① : Safe Space

前述のとおり、スポーツアカデミーは「民族」や「ジェンダー」の差異から自由になれる聖域として機能する可能性を有している。そこでは、安心安全な環境で差異に囚われることなく友人と交流することができ、信頼できる大人とも良好な対人関係を築き、帰属意識が醸成される。プロジェクトチームは、このような場所を「Safe Space」と定義し、スポーツアカデミーにおける Everyday Peace を構成する一つの要素とした。

こうして「Everyday Peace の促進」を「Safe Space の構築」と再定義することで、必要な活動の想定が可能となり、図 II-5²⁷はそのような活動例をいくつか示したものである。

要素② : Peaceful Community

アカデミーの影響はアカデミーの領域に留まらない。アカデミー内で醸成された「民族」・「ジェンダー」に依らない人間関係は積極的にアカデミーの外でも実践するよう推奨されていたし、実際、LFA のケースでは、それがギャングメンバーを減少させることに寄与し、地域の治安向上に貢献している。このことから、スポーツアカデミーは地域内の連帯を強め、一体感を強化し、より平和的なコミュニティ（Peaceful Community）を形成する機能を有していると言える。

²⁷ 2-(6) e.参照

Safe Space と同様に、「Peaceful Community の構築」を「Everyday Peace の促進」を構成する要素の一つとして整理すると、自ずと必要な活動が見えてくる。図 II-6²⁸ではその活動例を示している。

Application: How can we “scale out” the “everyday”?

“Create a Safe Space”

||

“Build a firm foundation” for sports academies

- **Sports equipment**
 - What: a **playground and necessary sports equipment** are available
 - How: Procurement, maintenance, and management of sports equipment
- **Coaching skills**
 - What: Coaches have enough **skills and knowledge to teach** community youths
 - How: Coach training
- **Friendly environment for interaction and learning**
 - What: (1) Coaches are willing to **know more about their members**;
(2) Coaches care much about **members’ safety and their healthy development**;
(3) Members can **talk to coaches without difficulty**
 - How: (1) Facilitation of communication between coaches and members;
(2) Clarify the visions and objectives of the academy

15

図 II-5 : Safe Space 構築のための活動例

Application: How can we “scale out” the “everyday”?

“Build a Peaceful Community”

||

“Develop” sports academies

- **Awareness/Motivation**
 - What: Coaches and administration **understand the social significance** of sports academies (=facilitating “everyday peace”) and **are motivated** to further develop their academies
 - How: Awareness-raising workshop
- **Well-management of the academy**
 - What: Coaches and administration can **identify necessary factors** for the further development or the stable operation of the academy (e.g., girls’ participation) and **plan/implement the measures** (e.g., house visits).
 - How: Action-plan-making workshop and its follow-up; fundraising workshop
- **Outreach**
 - What: Coaches and members **present what they learn** through academy activities
 - How: Community event, Banners/posters

16

図 II-6 : Peaceful Community 構築のための活動例

²⁸ 脚注 20 参照

このプロセスを通して、抽象的な概念をより分かりやすい要素に分解し、具体的な活動にまで落とし込むことができた。また、この枠組みを活用することで、ここまで説明してきたパイロット活動を、Everyday Peace 概念との関係性のなかで下表のように整理できる。

表 II-37：ジュバにおけるパイロット活動と Everyday Peace 概念との関係性

Everyday Peace の 構成要素	パイロット活動	
	ロロゴ・フットボール・アカデミー	シンバ・バレーボール・アカデミー
Safe Space	- スポーツ用品の提供 - 指導計画作成ワークショップ	- スポーツ用品の提供 - 指導計画作成ワークショップ - 啓発ツール作成 - ジェンダー配慮ワークショップ
Peaceful Community	- 保護者向けイベント「Parents' Day」 - コミュニティイベント	- 保護者向けイベント「Parents' Day」 - 保護者会設立支援

このように、プロジェクト期間を通して、Everyday Peace 概念は（再）検討され、活用されてきた。2-(7)で詳述するトリットにおける地方研修は、これまでの知見・経験を集大成する形で実施された。

e. 第 61 回紛争研究学会大会での発表

Everyday Peace 概念に関する本プロジェクトの一連の取り組みは、学術・実践の両面で重要な意義を有していると判断し、その成果を広く公表する機会を模索していたところ、要旨が紛争研究分野で 60 年以上の歴史を持つ紛争研究学会（Conflict Research Society）の査読を通過し、同学会の第 61 回大会で発表する機会を得ることができた。大会はエディンバラ大学で開催され、JICA 専門家が発表を行った。

発表では、Everyday Peace が実践される社会的空間としてのスポーツアカデミーについて、これまで述べてきたような知見を共有し、その知見・経験を今後どのように地方展開時に活用していくのかという計画についても発表した。同発表には Everyday Peace 概念の提唱者である Roger Mac Ginty 教授も参加し、発表の質の高さを評価するとともに、Everyday Peace 概念を実際の開発実践現場に適用する試みを歓迎した。それに続けて、この試みは彼が知る限り初めてのものというコメントもあり、本プロジェクトの取り組みの新規性・先駆性を表している。

2-(7) トリット研修

a. 研修の目的

成果 2 に係る活動 2-7 として、地方展開が想定されていたが、本プロジェクト開始当初は新型コロナ禍もあり、プロジェクト活動の地方展開に向けた展望は開けていなかった。しかし、パンデミックが徐々に下火になってきたことや、前述のとおりパイロット活動の経験を基に概念整理ができたこと、それにより地方における活動像も具体化したことが後押しとなり、地方展開に向けた気運が高まっていった。関係者との調整を進め、2024 年 4 月に開かれた第 7 回 JCC にて、地方展開に向けた活動を実施することが正式に承認された。またそこでは、首都であるジュバからの距離的な近さや比較的治安が安定していることなどの理由で、パイロット対象州として東エクアトリア州が選ばれ、その州都であるトリットで活動を実施することが決まった。また、時間的・予算的制約から、地方部におけるパイロット活動の実施は 1 州のみで行うこととなった。

トリットにおける活動の主な目的は、ジュバで得られた経験・知見を活用して、トリットで活動するスポーツアカデミーを通して Everyday Peace を促進するというものであった。その目的を達成するためには、一度の活動でさまざまな側面をカバーする必要があることから、講義、討議、実習を組み合わせた研修形式の活動を実施することとした。

表 II-38：トリット研修の構成

形式	トピック	目標	関連する Everyday Peace の要素
講義	Everyday Peace 概念の紹介	Everyday Peace 概念についての理解力を向上させる	Everyday Peace 概念全般
	ジェンダー配慮	女性特有の配慮事項について理解を深め、配慮事項を踏まえた関係を構築するための意識的土壌をつくる。	Safe Space
討議	Safe Space と Peaceful Community の意味	各要素に関する理解力を向上させる。	Everyday Peace 概念全般
	日々の活動と平和構築	草の根平和構築におけるスポーツアカデミーの意義について理解する。	Peaceful Community
	活動計画作成	アカデミー運営能力を向上させる。	Peaceful Community
実習	技術研修	指導力を向上させる。	Safe Space

b. 研修プログラムの概要

上表のような研修構成案を基に、下表に示す三つの段階を経て研修プログラムが実施された。各段階については、それぞれ次項で詳述する。

表 II-39：研修プログラムの各段階

段階	活動	実施時期	目的
1	ニーズアセスメント調査	2024 年 6 月	トリットにおけるスポーツアカデミーの基礎情報を収集し、ジュバで得られた経験及び Everyday Peace 概念に基づく活動の適用可能性を確認すること。
2	研修の実施	2024 年 9 月～10 月	スポーツアカデミーを通じて、Everyday Peace を促進すること。
3	研修後のモニタリング	2025 年 1 月	研修効果を測定すること。研修で作成した活動計画の進捗状況を確認すること。

c. ニーズアセスメント調査、研修、モニタリングの詳細

ニーズアセスメント調査

トリットでの研修に備え、MoYS のタスクフォースメンバーは、トリットにおけるスポーツ振興の現状と課題を把握するため、ニーズ調査を実施した。MoYS のメンバー6 人が6 日間にわたりトリットを訪問し、SMoCYS の DG 代理、行政官、登録担当者、コーチと話し合いを行った。SMoCYS との話し合いに続き、タスクフォースメンバーはアカデミーの活動(サッカーアカデミー11 団体、バレーボールアカデミー1 団体、陸上競技アカデミー1 団体) の視察・聞き取りを実施し、また、サッカー、バレーボール、陸上競技の競技連盟と協議を行った。聞き取り調査では、SMoCYS から、協会やアカデミーとの関係、外部からの支援、アカデミー登録制度について確認を行った。また、競技連盟に対しては、現在の活動状況、連盟に登録されているアカデミーの数、SMoCYS や

アカデミーとの関係、全国レベルのスポーツ連盟との連携について質問がなされた。アカデミーに対しては、アカデミーの概要、モットー、活動内容、アカデミーの活動のインパクト、トレーニング内容に関するニーズ、アカデミーの活動を普及させるうえでの課題などを確認した。

観察・ヒアリングの主なポイントは以下のとおりである。

表 II-40：視察や聞き取りからの主な気づき

対象	気づき
SMoCYS	・ 州スポーツ競技連盟とアカデミーは良好な関係を築いている。SMoCYS は、連盟と共同で州内のカウンティー対抗トーナメントを積極的に実施している。 ・ SMoCYS は、連盟及び／またはアカデミーの職員を関連する研修に推薦する機能を有している。これらのプロセスにおいて、連盟は SMoCYS と各アカデミーをつなぐ調整役として機能している。 ・ 各アカデミーは 10,000SSP で SMoCYS に登録を申請することができる。登録証明書は 4 年間有効である。登録されたアカデミーは支援を受けることができ、優先的に用具の支援などを受けることができる。
州スポーツ競技連盟	・ SMoCYS に登録した連盟は以下のとおり：トリットサッカー連盟、東エクアトリア陸上連盟、トリットバレーボール連盟、女子サッカー委員会、トリットバスケットボール連盟 ・ 連盟は、登録された二つのアカデミーに対し、モラルサポート、役員トレーニング、トレーニングのためのコーチのサポートを行っている。 ・ 連盟は SMoCYS の監督下にある。連盟は、毎月パートナー・フォーラムの会合に参加し、進捗状況の報告を行う。
アカデミー	・ サッカーのアカデミーは 11 団体あり、SMoCYS に登録されているアカデミーは二つだけである。バレーボールと陸上競技にはそれぞれ一つのアカデミーがある。どちらも SMoCYS に登録されていない。 ・ アカデミーのなかには、登録のための資金が不足している団体や、登録のための書類を作成している段階にある団体もある。アカデミーはなるべく早く SMoCYS に登録することを熱望している。 ・ アカデミーの管理者、コーチはすべて無給である。 ・ アカデミーの多くは、スポーツを通じて、若者のギャング化を防ぎ、他人と協調して生きることを伝える目的に設立された。 ・ ジュバでアカデミーの運営を学んだコーチや関係者がトリットでアカデミーを作ろうとしたため、最近設立された団体が多い。トリットでは、大人がサッカーをすることはよくあったが、子供たちのためのアカデミーという概念は最近できたもので、以前は子供たちが加入するアカデミーはなかった。 ・ ギャングが刑務所での服役を終えて出所したあと、アカデミーは彼らをアカデミーに誘っている。治安機関が元ギャングをアカデミーに推薦していることが特徴的である。ジュバと比較すると、トリットは規模が小さく、ギャングの数も少ないため、治安機関や一般家庭の人々がギャングを追跡することができる。 ・ 女子は家事に専念し、スポーツはしないものというジェンダー規範がジュバより根強い。そのため、女子のスポーツ参加は少ない。早期結婚、早期妊娠が多く、スポーツ振興の課題となっている。

トリット滞在の最終日には、視察・インタビューの対象となった 60 名の参加者を対象にワークショップを開催した。ワークショップでは、MoYS が上記の課題を共有し、参加者と現状、課題、トレーニングの必要性について話し合った。これらの情報をもとに、MoYS は研修の対象者や内容を検討した。



ニーズアセスメント調査時の視察、聞き取り調査、ワークショップの様子

研修

2024年6月のニーズアセスメント調査の結果に基づき、MoYSは東エクアトリア州SMoCYS、地方スポーツ協会／連盟、13のスポーツアカデミーを対象とした研修を計画した。具体的には、各スポーツの研修参加者数、研修日程、研修講師の選出、研修内容などが協議され、合意された。研修講師との話し合いの結果、バレーボールと陸上競技は5日間、サッカーは7日間の研修を実施することが決まった。さらに、SMoCYSの要請により、カポエタ地域からスポーツ関係者が研修に参加し、SMoCYSが旅費と宿泊費を負担することになった。

プロジェクトチームは、特に研修の初日と5日目に実施する、Everyday Peace 概念紹介と同概念に関する討義、アクションプラン作成、女子メンバーのための対応に係る発表資料を準備した。

【研修日程】

- サッカー 2024年9月30日～10月6日（7日間）
- バレーボールと陸上競技 2024年9月30日～10月4日（5日間）

【研修場所】

- 講義・ワークショップ: Trust Guest House in Torit town, Eastern Equatoria State
- 実習: Memorial field, Freedom Square in Torit town, Eastern Equatoria State

【研修参加者人数】

下表は、各組織の研修参加者数を示している。合計83名が研修に参加した。

カポエタからの追加の参加者（14名）、マグウィからの追加の参加者（1名）、SMoCYSからの追加参加者（9名）の費用は、SMoCYSが費用を捻出した。なお、研修機会が限られている遠方のスポーツ関係者に研修への参加を促すため、州政府がスポーツ研修の費用を負担したことは特筆すべきである。

表 II-41：トリット研修の参加者人数

団体名	スポーツ管理	コーチ	審判	合計
Ministry of Culture, Youth and Sports	-	3	1	4
Torit Football Local Association	1	-	-	1
Local Volleyball Association	1	-	-	1
Eastern Equatoria Athletic Federation	2	-	-	2
Gumboot Football Academy	1	2	-	3
Longute Football Academy	1	2	1	4
Imehejek Football Academy	-	4	-	4
Illangi Football Academy	-	-	1	1
Fr. Saturlino Ohure Football Academy	-	1	1	2
Eastern Equatoria United Football Academy	-	4	1	5
Torit United Football Academy	-	1	-	1
Hiyala Football Academy	1	3	1	5
Hope Football Academy	-	1	1	2
Eastern Equatoria Stars	1	-	-	1
Young stars Football Academy	-	-	-	0
Torit Supper Stars Football Academy	-	1	2	3
White Dove Football Academy	1	2	-	3
Dumak Football Academy	-	1	-	1
Illuhum Football Academy	-	-	-	0
Torit Highland Volleyball Academy	7			7
Torit Athletic Academy	9			9
Greater Kapoeta	14			14
Magwi	1			1
SMoCYS Sponsored	9			9
合計				83

Greater Kapoeta 及び Magwi からの参加者の宿泊費については、SMoCYS が支弁した。
Magwi とその他追加の参加者の昼食については、SMoCYS が支弁した。

【ファシリテーター・技術実習講師】

表 II-42：トリット研修のファシリテーター・技術実習講師

No.	分類	氏名	所属機関
1		Edward Settimo Yugu	MoYS
2	ファシリテーター	Lemor William Joseph	MoYS
3	※全体の運営、及び初日・5日目	Aisha Tombe Farajallah	MoYS
4	の Everyday Peace、アクションプ	Mary Iyang Ernesto	MoYS
5	ラン作成、ジェンダー等を担当	Tereza Paulino Mogga	MoYS
6		Stanslaus Lowala Obede	MoYS
7		William Okot De Toby	南スーダンサッカー協会
8	サッカー（講義・実技）	Charles Modi Vitaliano	南スーダンサッカー協会
9		Samson Kalisto Gumesi	南スーダンサッカー協会
10	陸上（講義・実技）	John Bosco	南スーダン陸上連盟
11		Joseph Ramadan	南スーダン陸上連盟
12	バレーボール（講義・実技）	Hanney John Bosco	南スーダンバレーボール連盟

No.	分類	氏名	所属機関
13		David Kelaba Thomas	南スーダンバレーボール連盟
14	事例紹介	Taban Adelino	Lologo Football Academy
15		Awad Khalifa	Simba Volleyball Academy

【研修プログラム】

下表はトリットでの研修プログラムである。初日は、ファシリテーターがジュバのスポーツアカデミーにおける **Everyday Peace** の概念と成功事例を説明し、参加者の日常的なスポーツ活動と平和の関係への関心を高めた。また、南スーダンにおける女子のスポーツ参加の課題と、女子のスポーツ参加の促進についても説明した。

2日目から4日目にかけて、サッカー、バレーボール、陸上競技の各スポーツ協会・連盟による技術研修が行われた。主な目的は、スポーツマネージメント、コーチングや審判のスキルを向上させ、コーチ研修を通して各アカデミーの選手たちに質の高いトレーニングを提供することであった。現地の事情に合った研修内容となるように、プロジェクトチームは各競技団体・連盟に対し、トリットにおけるニーズアセスメント調査の結果に基づいた研修内容の設計を依頼した。また、技術研修のなかで、アカデミー活動を通じて青少年の「**Safe Space**」の確保や「**Peaceful Community**」の醸成につながる内容を取り入れるよう研修講師に要請した。

5日目には、スポーツの練習や試合などの日常的な活動を、青少年の「**Safe Space**」の確保や「**Peaceful Community**」の醸成を通じて、平和推進につなげるための具体的な活動計画について、参加者が話し合うためのアクションプランの作成の演習を行った。6日目と7日目には、サッカーのマネージャー、コーチ、審判に対する追加の技術研修が行われた。

表 II-43 : トリット研修のスケジュール表

Time	30-Sep Mon	1-Oct Tue	2-Oct Wed	3-Oct Thu	4-Oct Fri	5-Oct Sat	6-Oct Sun
08:30 am - 09:00 am	Registration	Registration	Registration	Registration	Registration	Registration	Registration
09:00 am - 10:00 am	Opening Remarks and self-introduction Introduction of YES for Peace project and the concept of "Everyday Peace"	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Introduction of the NUD manual	Technical Training (Lecture): Football	Technical Training (Lecture): Football
10:00 am - 10:20 am	Tea Break	Tea Break	Tea Break	Tea Break	Tea Break	Tea Break	Tea Break
10:20 am - 11:20 am	Case 1: Lolongo Football Academy Case 2: Simba Volleyball Academy Considerations for girl members	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Action plan making workshop 1: List up everyday activities	Technical Training (Lecture): Football	Technical Training (Lecture): Football
11:20 am - 12:20 pm	Group discussion on "safe space" and "peaceful community"	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Technical Training (Lecture): Football, Athletics, and Volleyball	Action plan making workshop 2: Connect everyday activities to safe space/peaceful community	Technical Training (Lecture): Football	Technical Training (Lecture): Football
12:20 pm - 13:30 pm	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break	Lunch Break
13:30 pm - 14:30 pm	Presentation and discussion of the result of the group discussion	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Action plan making workshop 3: Develop a plan to reinforce everyday activities to grow peace	Field Practices: Football	Field Practices: Football
14:30 pm - 15:30 pm	Resource Mobilisation, PR, and Communication	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Presentation of the action plans	Field Practices: Football	Field Practices: Football
15:30 pm - 17:00 pm	Logistical Arrangements of the training	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Field Practices: Football, Athletics, and Volleyball	Review of the training and way forward Closing remarks by State MoCYS	Field Practices: Football	Field Practices: Football

【1日目：「Safe Space」と「Peaceful Community」の定義に関するグループディスカッション】

研修初日、MoYSのファシリテーターがEveryday Peace概念を説明した。そして、参加者にトリットのスポーツアカデミーにおける「Safe Space」と「Peaceful Community」の定義について話し合ってもらった。下表は、ディスカッションの結果である。トリットのスポーツ指導者・マネージャーも、スポーツ活動が青少年の安全な空間づくりや、選手・指導者・地域住民の平和的なコミュニケーションの促進に役立っていると感じていることが分かった。

表 II-44 : トリット研修における Safe Space と Peaceful Community についてのディスカッション結果

質問 ([S] Safe space, [P] Peaceful community)	回答例
[S] 「良い」選手とは？	責任感がある、他人を尊重する、コーチの言うことを聞く、時間を守る
[S] 「安全な」アカデミーで練習するとはどういうことか？	グラウンドの石を取り除く、選手、コーチ、地域の信頼感がある
[S] 「安全な」アカデミーには、どのような人間関係や感情があるか？	仲間意識、アカデミーへの所属意識、お互いを尊重し合う心、選手間の協力、団結、平和な環境を作っていく意識
[S] 「安全な」環境とはどのようなものか？	安全で整備された練習場があること、よいマネージャーがいること

質問 ([S] Safe space, [P] Peaceful community)	回答例
[P] 保護者・コミュニティ・アカデミーの理想の関係はどのようなものか？	コーチが保護者とよくコミュニケーションをとる。(選手が練習を休んだら家を訪問し、様子を聞く。)
[P] アカデミーはどのようにして地域のギャングの若者の問題を解決できるか？	青少年をスポーツ活動で忙しきさせ、窃盗や喧嘩をする時間を与えない。
[P] アカデミーはコミュニティに何ができるか？	平和と団結、非行少年の減少
[P] 保護者はアカデミーに何を期待しているか？	子供の能力を伸ばし、態度を改め、間違っただ行動をさせないようにする。

【5 日目：日常的な活動と「Safe Space」や「Peaceful Community」との関連性に関するグループディスカッション】

研修 5 日目、MoYS はまず 1 日目の Everyday Peace 概念に関する議論について振り返り、各アカデミーに「Safe Space」と「Peaceful Community」を作るために、トリットのスポーツアカデミーができることを話し合ってもらった。下表はその結果である。

表 II-45 : 「Safe Space」と「Peaceful Community」のために、トリットのアカデミーがこれからできる活動についてのディスカッションの結果

Safe space		
マネジメント、物品の調達	選手との信頼関係の構築	選手への指示
- 練習場所の管理 - 清潔に保つ - 草刈り - 小石を取り除く - 物品の管理 - スポーツ用品の購入 - 備品リストの作成と管理 - 物品の適切な使用・保管 - 応急処置 - 救急箱の購入 - ケガの応急処置の理解	- 差別的な言葉を使わない - 選手を公平に扱う - コーチは、選手の健康状態や、食事をとったか確認し、状況に応じて練習メニューを調整する - コーチは選手とフレンドリーに接する - コーチと選手が恋愛関係にならないようにする - 選手同士の思いやりを大事にする - ベストプレイヤーの表彰	- 時間管理 - 選手もコーチも早めに練習に来る - コーチは事前に練習の計画を立て、練習中の時間管理を行う - 選手がコーチの話を聞く - アカデミーのルール、競技のルールを守る - 礼儀正しくする - コーチ、選手、選手間など、互いを尊重する - 悪口を言わない - コーチや他の選手が練習を欠席した選手を訪問する - コーチは選手がわかるように説明する - 共通語(アラビア語)を使用する - 練習を適切に運営するため、年齢別に選手を編成する
Peaceful community		
イベントの実施	保護者・コミュニティとのコミュニケーション	地域の若者への働きかけ
- 選手向けイベント - フレンドリーマッチを開催する - 保護者向けイベント - ペアレンツデーを開催する - 選手・コーチを通じて保	- 日々のコミュニケーション - 選手の体調不良時にコーチがお見舞いに行く - コーチが選手の帰宅につきそう - コーチが保護者や地域にアカデミーを紹介する	- ラジオや新聞でアカデミーの広告を出す - 地域の若者との親善試合の開催 - 地域の若者を練習に招待し、練習を見学し、勧誘する - 選手に友達をアカデミーの練習

Peaceful community		
イベントの実施	保護者・コミュニティとのコミュニケーション	地域の若者への働きかけ
護者を招待する ・地域活動 ➤ コーチや選手が農作業などの地域活動に協力する ・保護者会・協議会 ➤ 保護者にアカデミーの運営・財務・資源動員などを手伝ってもらう	・ラジオ ➤ ラジオ番組のMCやスタッフと良好な関係を築き、スポーツ番組でアカデミーのことを取材してもらう ・学校訪問 ➤ コーチが学校を訪問し、児童・生徒をアカデミーに勧誘する ➤ 学校と良好な関係を築き、協力を仰ぐ（校庭の利用） ・コミュニティリーダーとのコミュニケーション ➤ 表敬訪問や話し合いを行い、アカデミーの説明を行う	に誘ってもらう

【1日目・5日目：女子スポーツ選手への配慮】

ここまででたびたび言及しているとおり、スポーツをしたくてもなかなかできない女の子がいる。ジュバの多くの家庭では、女の子は家事をすることが求められ、スポーツをする時間は限られている。親やコミュニティのなかには、文化的な信念に基づいて、スポーツは女子のためのものではないと考えている人もいる。女の子を結婚の見返りとして婚資を得るためのものとする親も多く、娘を「守り」、怪我をさせないようにしたいと考えている親もいる。

講義では、ファシリテーターが女子のスポーツ参加を阻む障壁と、女子がスポーツをすることの利点を説明したほか、スポーツアカデミーへの女子の参加を促す方法を提案した。例えば、女子の親が娘をスポーツアカデミーに行かせない理由の一つに、親がアカデミーのことをよく知らないことが挙げられた。その場合、アカデミーのコーチやマネージャーは、女兒の両親にスポーツアカデミーの目的、活動内容、女兒にとってのスポーツの利点について説明することができることや、両親と女兒をアカデミーに招待し、練習の様子を見てもらうことで、両親は次第に娘にとってアカデミーが良い影響を与えることを理解するようになるということを紹介した。

娘をアカデミーに行かせないもう一つの理由は、アカデミーから移動する娘たちの安全を心配することである。この問題を解決する一つの方法として、女子選手がアカデミーから帰宅する際にコーチが付き添うことや、選手同士で一緒に移動して安全を確保するよう頼むという方法を紹介した。

また、ファシリテーターからは、月経に関する基本的な知識、月経に関連して女子アスリートがどのような問題を抱えているか、女子選手がスポーツの練習を続けるためにコーチやマネージャーがどのようにサポートすればよいか、などの説明があった。

Difficulties of girls' participation in academies (cont.)

Concerns of girls' parents

- Household chores by daughters (fetching water, cleaning, cooking, laundry, taking care of her brother/sister, etc.)
- Financial matters
- Security situation of surrounding the academy
- Security situation of way from their homes to the academy
- Belief that sports are for boys
- Belief that sports are not good for pregnancy
- Neighbors' criticism about girls' participation of sports



Methods to ease concerns about girls' participation in sports

What can coaches do? (cont.)

- Listen concerns of girls and their parents about participating in the academies
- Explain the benefits of playing sports to girls and their parents
- Explain how you are taking care of the girl members in your academies
- Ask them to reconsider the division of household chores within the family members

Special topic: Menstruation (cont.)

What is menstruation? (cont.)

The average period : bleed for 3 ~7 days

How to use a disposable pad:

- Change it at least every 6 hours
- After use it, wrap and dispose it in latrine bins.

How to use a re-usable pad or cloth:

- Change it at least every 6 hours
- After use it, bring it back in plastic bag, wash with water and soap, and dry it completely.





<https://www.periodeducation.org/lessonplans>
<https://www.unicef.org/esa/stories/period-lesson-plan-guide-menstruation-teachers>

プレゼンテーション資料の抜粋



研修のファシリテーター



プロジェクトコーディネーターの Mr. William Lemor によるプロジェクトと「Everyday Peace」の説明



「Everyday Peace」に関するグループディスカッション（ジュバのアカデミーのマネージャー／コーチが議論を支援）



技術研修（サッカー・コーチング）



技術研修（陸上）



技術研修（バレーボール）

【トリット研修に対するフィードバックの結果】

トリットでの研修の最終日（陸上競技とバレーボールは 2024 年 10 月 4 日、サッカーは 10 月 6 日）、研修参加者にアンケートを記入してもらった。アンケートは、参加者の研修に対する満足度や達成度を測定するために作成された。定量的な結果は以下のとおりである（n=93）。

最初の項目は、研修に関する全体的なフィードバックを得るための四つの質問で構成されている。下表は、各質問に対する回答の内訳を示している。

表 II-46：トリット研修のアンケート結果（全体評価）

0-1. 全体として、研修にどの程度満足していますか？(1つにチェック)

	とても満足している	満足している	どちらともいえない	満足していない	全く満足していない	未回答／空欄
回答数	51	22	0	1	0	19
全回答数に占める割合 (%)	55%	24%	0%	1%	0%	20%
有効回答数に占める割合 (%)	69%	30%	0%	1%	0%	

0-2. 次の機会があれば、友人や同僚にこの研修の受講を勧めますか？

	はい	いいえ	どちらともいえない	未回答／空欄
回答数	78	0	0	15
全回答数に占める割合 (%)	84%	0%	0%	16%
有効回答数に占める割合 (%)	100%	0%	0%	

0-3. 研修は今後の活動に役立つものでしたか？(1つにチェック)

	はい	いいえ	どちらともいえない	未回答／空欄
回答数	78	0	0	15
全回答数に占める割合 (%)	84%	0%	0%	16%
有効回答数に占める割合 (%)	100%	0%	0%	

0-4. 前問で「はい」と答えた方は、研修のどの内容が最も役に立ちましたか？

	最も有用	2番目に有用	3番目に有用
研修1日目	34	3	2
研修2日目	10	12	5
研修3日目	5	9	7
研修4日目	0	6	7
研修5日目	6	11	9
研修6日目	4	3	16
研修7日目	0	1	0
未回答／空欄	34	48	47

全体的な満足度に関する質問 0-1 に対し、参加者のほぼ全員が「非常に満足」（69%）または「満足」（30%）と回答した。また、その満足度を裏付けるように、参加者全員が「この研修を友人や同僚に勧めたい」（質問 0-2）と回答した。質問 0-3 で研修が今後の活動の指針として役立ったかどうかを尋ねたところ、参加者全員が「はい」と回答した。本プロジェクトの研修の主な目的は、1 日目と 5 日目に参加者の「Everyday Peace」に対する意識を高めることであった。それを踏まえて質問 0-4 の回答を見ると、空欄の回答が多かったにもかかわらず、最も役に立った日として 1 日目が最も多く選ばれており、研修の（少なくとも部分的な）成功を表している。

これらの肯定的な回答は、参加者の高い満足度を示しており、研修が「Everyday Peace」についての認識を高め、参加者の今後の活動計画に資するという目的を達成したことを裏付ける証拠となっている。

全体的な評価に関する質問のあと、1 日目と 5 日目についてのより詳細なフィードバックを求めた。1 日目に関するアンケートの結果は以下のとおり。

表 II-47：トリット研修のアンケート結果（Everyday Peace）

1-1. 「Everyday Peace」のコンセプトはどの程度理解できましたか？(1つにチェック)						
	とてもよく理解できた	よく理解できた	どちらともいえない	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	未回答／空欄
回答数	50	26	0	0	0	17
全回答数に占める割合 (%)	54%	28%	0%	0%	0%	18%
有効回答数に占める割合 (%)	66%	34%	0%	0%	0%	

1-2. 日常的な活動が「Safe Space」や「Peaceful Community」の形成につながるということについて、あなたはどの程度賛成／反対ですか？(1つにチェック)						
	強く同意する	同意する	どちらともいえない	同意しない	強く反対する	未回答／空欄
回答数	51	21	1	0	0	20
全回答数に占める割合 (%)	55%	23%	1%	0%	0%	22%
有効回答数に占める割合 (%)	70%	29%	1%	0%	0%	

1-3. グループディスカッションは、「Safe space」と「Peaceful community」の意味を理解するのに役立ちましたか？				
	はい	いいえ	どちらともいえない	未回答／空欄
回答数	77	0	0	16
全回答数に占める割合 (%)	83%	0%	0%	17%
有効回答数に占める割合 (%)	100%	0%	0%	

研修 1 日目に関するアンケートの前半は、Everyday Peace に関する質問で構成されている。質問 1-1 への回答から、参加者の大半がこの概念を理解していることがわかる。

本プロジェクトでは、Everyday Peace という抽象的な概念を、「Safe Space」と「Peaceful Community」という二つの要素に分けることで、実際に活用できるようにしている。質問 1-2 では、このような考え方が参加者の感覚に合うかどうかを尋ねた。回答結果は、日常的な活動と Safe Space／Peaceful Community との関連性にも同意できたことを示唆し、概念とその構成要素が彼らの文脈から外れていないことを表す結果となった。

講義形式で概念を説明するトレーニングは、参加者の理解を制限する可能性があるとして、本プロジェクトでは、参加者とファシリテーターが双方向的に概念の持つ意味を紐解くことができるよう、グループディスカッションのセッションを設けた。質問 1-3 では、このような方法が参加者の概念理解に役立ったかどうかを尋ねたところ、参加者全員が「はい」と答えた。

以上から、Everyday Peace についてのセッションは、この概念についての認識を高めるために、現地の状況を踏まえて適切に設計され、実施できたことがわかる。

本プロジェクトでは、スポーツを通じた平和推進の実践を進めるため、女子のスポーツ参加を主な検討事項の一つとしている。そこで、1 日目のプログラムに関するアンケートの後半は、女子のスポーツ参加に関する質問で構成されている。

表 II-48：トリット研修のアンケート結果（女子の参加）

1-4. 女子のスポーツ参加の難しさをどの程度理解しましたか？(1つにチェック)						
	とてもよく理解できた	よく理解できた	どちらともいえない	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	未回答／空欄
回答数	43	33	0	0	0	17
全回答数に占める割合 (%)	46%	35%	0%	0%	0%	18%
有効回答数に占める割合 (%)	57%	43%	0%	0%	0%	

1-5. 「女子メンバーのための対応」の発表は、女子のスポーツ参加をどのように促すかを考えるきっかけになりましたか？				
	はい	いいえ	どちらともいえない	未回答／空欄
回答数	76	0	0	17
全回答数に占める割合 (%)	82%	0%	0%	18%
有効回答数に占める割合 (%)	100%	0%	0%	

1-6. 「女子メンバーのため対応」の発表は、生理中の女子メンバーをサポートする方法を考えるきっかけになりましたか？				
	はい	いいえ	どちらともいえない	未回答／空欄
回答数	76	1	0	16
全回答数に占める割合 (%)	82%	1%	0%	17%
有効回答数に占める割合 (%)	99%	1%	0%	

質問 1-4 の回答から、研修が女子のスポーツ参加に関わる問題の一部を伝えることに成功したことが分かる。研修では、それらの問題認識を踏まえ、女子をサポートするための方法が紹介された。質問 1-5 と 1-6 では、参加者がどの程度、女子のスポーツ参加や生理期間中のスポーツ実施の支援に取り組む気になったかを尋ねた。質問の性質上、参加者が支援のために実際に行動を起こす意欲の程度を測定することはできなかったが、両質問とも「はい」の割合が高いことから、女子への配慮に関するセッションが、このテーマについての意識向上に役立ったことが分かる。

3 日間の技術研修のあと、参加者は Everyday Peace 概念に基づいた行動計画を立てることになった。アクションプラン作成のプロセスについての感想は以下のとおりである。

表 II-49：トリット研修のアンケート結果（アクションプラン作成）

5-2. グループディスカッションの結果、スポーツアカデミーの日常活動が「Safe Space」や「Peaceful Community」の醸成につながることに、どの程度賛成ですか／反対ですか？(1つにチェック)						
	強く同意する	同意する	どちらともいえない	同意しない	強く反対する	未回答／空欄
回答数	54	22	0	0	0	17
全回答数に占める割合 (%)	58%	24%	0%	0%	0%	18%
有効回答数に占める割合 (%)	71%	29%	0%	0%	0%	

5-3. グループディスカッションは、アクションプランを立てるのに役立ちましたか？(1つにチェック)				
	はい	いいえ	どちらともいえない	未回答／空欄
回答数	76	0	0	17
全回答数に占める割合 (%)	82%	0%	0%	18%
有効回答数に占める割合 (%)	100%	0%	0%	

5-4. アクションプランの作成は、今後の活動の実施にどの程度役立つと思いますか？(1つにチェック)						
	強く同意する	同意する	どちらともいえない	同意しない	強く反対する	未回答／空欄
回答数	47	28	0	0	0	18
全回答数に占める割合 (%)	51%	30%	0%	0%	0%	19%
有効回答数に占める割合 (%)	63%	37%	0%	0%	0%	

5-5. あなたはアクションプランの実施にどの程度自信がありますか？(1つにチェック)						
	とても自信がある	自信がある	どちらともいえない	自信がない	全く自信がない	未回答／空欄
回答数	42	30	0	2	0	19
全回答数に占める割合 (%)	45%	32%	0%	2%	0%	20%
有効回答数に占める割合 (%)	57%	41%	0%	3%	0%	

5-7. アクションプラン実施後も、Everyday Peaceを推進するために同様の活動を続けたいと思いますか。(1つにチェック)				
	はい	いいえ	どちらともいえない	未回答／空欄
回答数	75	0	0	18
全回答数に占める割合 (%)	81%	0%	0%	19%
有効回答数に占める割合 (%)	100%	0%	0%	

アクションプラン作成は、各スポーツアカデミーが日常的に取り組める活動を考え、その活動が「Safe Space」や「Peaceful Community」にどのようにつながるかを考えることから始まった。質問 5-2 の回答は、参加者全員がそのつながりを理解できたことを示している。

質問 5-3 は、質問 1-3 と同様に、グループディスカッションの効果を把握しようとしたものである。すべての参加者が、グループディスカッションは役に立ったと考えているようである。

質問 5-4 は、アクションプラン作成の有用性の認識を測定することを目的とした。回答は、「そう思う」(37%)、「強くそう思う」(63%) が占めており、研修員にとってアクションプラン作成が今後の活動実施に役立ったことが分かる。

質問 5-5 及び 5-6 では、研修後の参加者の行動について尋ねた。参加者の大半は、アクションプランの実行に「自信がある」(41%)、「とても自信がある」(57%) と回答しているが、「自信がない」と回答した参加者が数名いることに留意する必要がある。プロジェクトチームは、2025 年 1 月のモニタリング訪問で、これらの参加者を慎重にモニターする必要性を確認した。しかしながら、参加者全員が **Everyday Peace** を推進するための活動を継続する意思を示したことは、草の根レベルでの平和促進の可能性を示唆するもので、大きな意義がある。

【講師／参加者からのコメント】

質問票では、自由記述欄も設け、定性的な情報収集にも努めたほか、(講師を含む)参加者が研修中に発したコメントも本研修を評価するうえで重要なデータとなる。ここでは、それらのコメントをいくつか紹介する。

南スーダンサッカー協会の指導者の一人は、「サッカーを教えることで、他者とのコミュニケーションやルールを守ることを学び、それが平和につながると信じています。サッカー指導の技術研修では、こうした点を伝えたいと思いました。サッカーでは、NUD がフェアプレー賞を表彰しているように、技術と同じくらいフェアプレーを大切にしています。試合の最初と最後に対戦相手と握手をする、レフェリーの指示に従うなど、ルールやマナーを守ることが大切です。政治的に対立する他民族や他地域の人たちとも、同じルールに基づいて堂々とサッカーをすることができます。」と語った。このコメントからは、C/P メンバー以外の研修講師とも「スポーツを通じた平和促進」という理念を共有して研修が実施できたことが分かる。

参加者の一人は、「カポエタなど、異なる地域の人々と交流することができてよかったです。また、子どもたちをどのように指導すればいいのか、知識を得ることができました。」とコメントした。ほかの参加者は、「月経とは何か、月経とどう付き合うべきかを学べてよかった。学校では生理について学ぶ機会がなかったから。」と述べた。ここからは、研修が単に一方的に情報を提供したということではなく、コーチ間の関係構築(社会関係資本の強化)にも貢献したことが分かる。加えて、その「情報提供」部分に着目しても、現地の事情に適した内容となっていたことがこれらのコメントから推察できる。

モニタリング

研修の効果を測るとともに、アクションプランの進捗を確認するため、MoYS タスクフォースは

2024 年 1 月に再度トリットを訪問した。このモニタリング活動では、下表に示す目的を達成するため、対象アカデミーの練習の視察及びアカデミーごとにコンサルテーションを実施した。

すべての対象アカデミーを限られた期間でカバーするため、モニタリングチームはいくつかのグループに分かれ、トリット到着後の週末 2 日間をかけて、対象アカデミーの練習を観察し、下表に示すトピックの現状を確認した。

その後、モニタリングチームはグループに分かれて合計 6 日間かけてすべてのアカデミーを訪問し、コーチらと研修後の変化やアクションプランの進捗状況などを確認した（各トピックは下表参照）。

表 II-50: モニタリングの目的と活動

モニタリングの目的		
・ 研修後に見られた変化や改善点を確認すること。 ・ アクションプランの進捗を確認すること。 ・ アクションプラン実施上の課題を確認すること。 ・ 必要に応じて、アカデミーと共同でアクションプランを修正すること。 ・ Everyday Peace につながる活動が実施されているか確認すること。		
実施日	活動	トピック
1 月 18-19 日	現地視察	・ アカデミーメンバーの技術 ・ 技術研修で学んだことをコーチが活用しているか。 ・ コーチ・メンバー間の関係性 ・ メンバー同士の関係性 ・ コーチとアドミニストレーターの関係性 ・ アカデミーと周辺コミュニティとの関係性 ・ アドミニストレーターや審判員との面談 ・ 練習場の状態／スポーツ用品の管理 ・ 女子への配慮がなされているか。
1 月 20-25 日	コンサルテーション	・ 研修の効果 ・ アクションプランの進捗状況 ・ アクションプラン実施上の課題 ・ その他課題（アクションプランに関連しないものも含む） ・ Everyday Peace と女性のスポーツ参画に関する事項 ・ アクションプランに組み込むことができるような Everyday Peace と女性のスポーツ参画に関する取り組み ・ アクションプラン上で変更・より優先されるべき活動 ・ アクションプランの改訂 ・ モニタリング方法に関する聞き取り（例：WhatsApp や電話による 6 カ月後のモニタリングで良いか、等） ・ アカデミーから MoYS への提案 ・ 今後に向けた取り組み



SMoCYS への表敬訪問



アカデミーの練習風景

現場視察とコンサルテーションを通じて、下表に示すような、Safe Space と Peaceful Community に関連する好ましい変化を確認することができた。

表 II-51 : Everyday Peace の観点から見る研修後の変化

Safe Space	Peaceful Community
・ コーチが、研修で学んだ技術を練習に取り入れていた。 ・ 年齢や性別に応じて適切な指導を行うため、コーチがメンバーを年齢・性別によっていくつかのグループに分け、指導していた。 ・ コーチとメンバーは楽しそうに練習に参加していた。 ・ 娘がアカデミーの練習に参加することを保護者が認めるようになった。 ・ いくつかのアカデミーでは、アカデミーに関係する問題を解決するための委員会を設置していた。 ・ 多くのアカデミーがメンバー登録用紙や保護者向けの同意書を作成していた。 ・ 男子メンバーの前でも臆することなく女子メンバーは話すことができていた。 ・ アカデミーが協力して活動していた。 ➢ 女子メンバーが少ないアカデミーが、より多くの女子が所属しているアカデミーへメンバーを出稽古させていた。	・ 保護者とコーチが協力し、練習の安全性を高める努力をしていた。（例：スポーツ用品の購入、飲料水の用意） ・ コミュニティのチーフを訪れ、スポーツ（アカデミー）の重要性について伝えた。 ・ アカデミーが協力して活動していた。 ➢ コーチやメンバーが違うアカデミーの練習に参加していた。 ➢ 敵対していたコミュニティにある二つのアカデミー間で、練習を通じた交流が生まれた。 ➢ 上記のような練習を通じた交流によって、ことなる民族的背景を持ったメンバー同士が交流する機会が生まれた。

多くの社会的な変化について、変化の要因を特定し、因果関係を立証することが難しいように、研修と上表に示した変化との間に純粋な因果関係を認めることは難しい。しかしながら、モニタリング活動の結果から、少なくとも一定程度の相関関係を認めることはできるかもしれない。例えば、モニタリングチームを率いた MoYS の局長である William 氏は、トリット内の様々なコミュニティからコーチを集め、交流する機会を研修が生み出したことで、アカデミー間の協力が促進されたと説明している。彼は続けて、研修以前はコーチ同士が交流する機会は限られていたが、そのなかで本プロジェクトの研修が実施されたことでネットワークが広がり、その社会的なつながりが敵対するコミュニティ同士の和解までつながったという、以下のような事例を紹介した。

イメヘジェック・フットボール・アカデミー (Imehejek Football Academy) とヒヤラ・フットボール・アカデミー (Hiyala Football Academy) は、長らく敵対する二つのコミュニティのなかで活動していた。その二つのコミュニティに住む人々は、攻撃されることを恐れ、お互いに距離を置いていた。そのようななか、研修によって二つのコミュニティのコーチが交流する機会が生まれた。

研修中、コーチは連絡先を交換した。研修後、お互いに連絡を取り合い、それぞれのコミュニティのチーフにスポーツの重要性を訴えるなどの取り組みを行った。チーフの支援もあり、二つのアカデミー「交換練習」を始めた。ある時はイメヘジェックのメンバーがヒヤラの練習に参加し、ある時はヒヤラのメンバーがイメヘジェックの練習に参加した。そのような取り組みを経て、以前とは異なり、今では徒歩で二つのコミュニティを往来することを躊躇することがなくなった。

「交換練習」に参加するメンバーは朝自身のコミュニティを出発し、以前までは敵対していたコミュニティに半日かけて移動し、少し休んだあと練習に参加し、夜は練習仲間と食事を共にし、自身のコミュニティに帰ることなく夜を過ごす。もうお互いを恐れることはなくなった。

繰り返しになるが、研修がこのような変化を生み出した単一の要因と結論づけるのは拙速ではある。二つのアカデミーのコーチの人格・性格や協力的なチーフの存在に加え、そのほか多くの要因が複雑に絡み合った結果このような変化が生じたと考える方が現実的であろう。しかしながら、二つのコミュニティが敵対するなか、研修がなければそのコミュニティから参加した二人のコーチが出会う機会は非常に限られていただろうし、スポーツが平和促進に貢献できるという意識を持つこともできなかったかもしれない。研修の効果について単純な（もしくは、誤った）結論を導かないよう慎重に検証する必要があるが、研修が一つの契機になったという意味で、研修が上記一連の行動変容を促した要因の一つであったと言えるのではないだろうか。

ここまでモニタリング活動を通して明らかになったポジティブな側面について触れてきたが、アクションプラン作成においては、いくつか課題点も見つかった。

アカデミーとの個別のコンサルテーションでは、アクションプランの進捗状況について確認したが、ほとんどすべてのアカデミーにおいて、アクションプランは履行されていないか、ほとんど何も進展が見られなかった。その原因として、アカデミーは資金不足、専門家の不在、物的資源（スポーツ用品等）の不足、研修を受けたコーチの離任（仕事の都合でトリットを離れるコーチがいた）、運動場の混雑などを挙げた。

ここから、少なくとも二つのことが言える。一つは、アカデミーが日常的な活動をするうえでも経済的な困難が山積していることだ。例えば、アカデミーが資源動員の活動を計画したとしても、国全体が長く続く経済危機下にあるなか、そもそも人々が何かをアカデミーに提供できる余力がない。このように、いくらアカデミーが前段で触れている課題を意識してアクションプランを作成したとしても、これらの課題はアカデミーに重くのしかかり、アクションプランの成功／失敗に少なからず影響している。

もう一つは、上述する課題があるなか、それらを十分考慮する形でアクションプラン作成のワークが実施できていなかったという点だ。いくつかのアカデミーは現実的で、外部に頼らず自らの能力で遂行できるアクションプラン（例：メンバーへ適切なアドバイスをする、練習場を掃除する、等）を作成した一方、多くのアカデミーは上記課題を考慮すると最初から実行が難しいような計画を立てていた。例えば、資金や物品の不足にあえぐなか、そのどちらも必要とするイベントの開催は実現可能性が非常に低いにも関わらず、九つのアカデミーが親善試合やカウンティー交流戦を計画していた。当然の結果として、これらの計画は実行に移されることなく計画のまま進展が見られなかった。

これら二点の気づきを踏まえ、今後に向けてどのような取り組みが考えられるだろうか。一つ目の気づきは、南スーダン全体を覆う経済危機がアカデミーの取り組みを阻害していることだった。この気づきからは、一定程度の介入の必要性が明らかになる。Everyday Peace 概念は、人々の日常に焦点を当て、何気ない日々の営みに宿る「力」に価値を見出す枠組みであったが、その「力」を最大化させる、もしくはその「力」が育つ諸条件を満たすためには、スポーツ用品の提供など、外部からの一定程度の介入が必要なのではないかと考えられる。そしてそこに国内・海外支援団体と協働する重要性を見出すことができる。他方で、本報告書内「1-3-3 成果3に係る活動」でも触れるとおり、外部から支援を募ることは簡単な道のりではない。それでもなお、「支援」という結果が伴うかどうかの議論は別にして、潜在的に支援者となりうる個人・団体にアプローチし、日常的な平和促進におけるスポーツアカデミーの重要性についての意識向上を図る働きかけを継続的に実施し、支援者と協働する姿勢は、深刻な経済危機のなかでも活動を続けるために必要不可欠なものであると言える。

二つ目の気づきは、現実的なアクションプランを作成することの難しさである。この気づきは、アクションプラン作成方法の再検討が必要であることを示してくれる。例えば、より地に足の着いたアクションプラン作成を促すため、以下のような方法を採用することが考えられる。

- 1) ほかのアカデミーの練習を観察する。
- 2) その練習のなかで、Safe Space/Peaceful Community につながる取り組みを見つける。
- 3) それらの取り組みを促進・強化するための活動を計画する。

このような方法であれば、実際の日常の取り組みをベースに活動を計画するため、思考が「日常」の枠から出てしまうことを防ぐことができる可能性が高い。もちろんこれは一例にすぎず、より多くの手段が考えられる。一度きりの研修実施だったこともあり、本プロジェクトのなかでそれらを検討し、実行することはできなかった。しかし今後、アクションプラン作成方法を再検討できる機会があるようであれば、当たり前すぎて意識されない「日常」をどのように研修参加者の意識下に浮上させ、明確な意図を持ってその「日常」に働きかけることができるかという点を考慮する必要がある。

南スーダン国全体に共通する課題や方法論的な課題があることで、多くのアクションプランは進展がなかったが、それをもとに研修が失敗したと主張することには問題がある。表Ⅱ-51 で示したように、Everyday Peace につながるような日常的变化は生じていた。それが研修で生み出された変化だとすれば、研修は十分にその役目を果たしたと言える。今後重要なのは、そのような日常のなかで生み出される努力をアクションプランに落とし込んで、対外的にも分かるよう「見える化」し、そしてそれを実行することで平和の担い手としてのアカデミーの価値や存在感を高めていくための取り組みであると考えられる。

d. トリット研修の意義

方法論的意義

トリットで行われた一連の研修プログラムには、少なくとも二つの方法論的意義が含まれている。第一の意義は、成果横断的な、成果間の有機的な連動が見られたことである。成果1に係る活動

は、主に NUD 開催に関わるものであった。NUD 開催のための一連の活動を通して、MoYS の C/P は SMOcYS 行政官や各種スポーツ協会／連盟の地方支部関係者との関係を深めることができた。地方部で活動を行う際には、ジュバから遠隔での調整が必要となるが、この人的ネットワークを活用することで、研修前の円滑な事前調整が可能となった。加えて、特に各スポーツ協会／連盟からコーチを招聘し実施した技術研修部分は、各団体との良好な関係がなければ、実施そのものが難しかったと思われる。いわゆる社会関係資本と呼ばれるようなこのようなネットワークは成果 1 に係る一連の活動で培われたものであり、それが有機的に成果 2 の地方展開に係る活動と結びついたことでトリット研修の実現につながった。一見すると成果 1 は全国レベル、成果 2 は草の根レベルと領域を異にしているとも思えるが、トリット研修はそれらが有機的に連動することで相乗効果を生み出すことを示しており、その点で意義深い。

第二の意義は、南スーダンにおける JICA プロジェクト活動の地方展開に向けた可能性を示したことである。治安上の理由で、南スーダンで実施されている JICA プロジェクトの活動範囲（実際に専門家が訪問できる範囲）はジュバ市内の一部に限られている。このような制限は安全管理上必要なものではあるが、（本プロジェクトに限らず）プロジェクト活動のポジティブな効果を普及していくうえで障害となり得る。そのため、JICA 専門家が直接訪問できない地方部での活動展開に際しては、理論・方法論両面で枠組みを整理する必要がある。Everyday Peace 概念とそれに基づいて開発されたトリット研修は、その一つの事例を提供している。Everyday Peace 概念は一般市民の日々の実践に伴う作用に焦点を当てるもので、そうした概念に立脚すると、地に足のついた、外部の専門家が不在でも実行可能な活動を計画するための研修を構想することができる。トリット研修は、このように理論・方法論両面で枠組みを整理し、またそれを実際に実行することで、地方部での平和促進活動が JICA 安全管理スキーム内でも実施可能だということを示した点で、非常に意義深いものとなっている。

理論的意義

Everyday Peace 概念に基づくトリット研修は、南スーダンにおける平和促進に対し、代替的なアプローチを提示した点で、理論的にも重要な示唆を与えている。トップダウン型で自由主義的な平和（liberal peace）を追い求める平和構築は、現地のコンテクストを考慮せず、西洋的なイデオロギーを押し付けるものとして長らく批判されてきた。その批判に応える形で、ボトムアップ型で参加型手法を重視する見方が学者・実務者の間で広まってきた。しかし、「ボトムアップ」「参加型」と言っても、その中身を精査すると、「現地の人々の巻き込み」程度の意味に捉えられ、運用されているケースも多くみられる²⁹。このようなケースでは、現地の人々は未だに受動的な客体として国際援助の受益者に留まっている。Everyday Peace 概念は、国際援助におけるこのような構造を逆転させるものである。同概念は、現地の人々を、日々の実践を通して平和をコミュニティにもたらす強力な活動主体と捉えることで、客体からの転換を図っている。この理論的立場を取る

²⁹ 自由主義的な平和に対する批判やボトムアップ型平和構築については、例えば次のような先行研究が挙げられる：de Coning, Cedric. 2013. “Understanding peacebuilding as essentially local.” *Stability*, 2(1): 1-6; de Coning, Cedric, Rui Saravia, and Ako Muto. 2023. “Introduction. Exploring alternative approach to peacebuilding.” In Cedric de Coning, Rui Saravia, and Ako Muto (eds.) *Adaptive Peacebuilding: A New Approach to Sustaining Peace in the 21st Century*. 1-23; Autesserre, Séverine. 2017. “International Peacebuilding and Local Success: Assumptions and Effectiveness.” *International Studies Review*, 19: 114-132; Richmond, Oliver and Audra Mitchell. 2012. *Hybrid Forms of Peace: From Everyday Agency to Post-Liberalism*. UK: Palgrave and MacMillan.

ことで、本プロジェクトではスポーツアカデミーの日々の活動を意義深いものとして再評価し、プロジェクトの強い介入に頼らない、現地の人々のイニシアチブを側面支援するという方向性を見出すことができた。言うなれば本プロジェクトでは、「平和構築」という物語のなかでしばしば脇役として登場する一般市民を、物語をけん引する主要人物として捉え直しており、それによって既存の力関係を逆転させたことに理論的意義を見出すことができる。そしてそのような理論的立場を取ることは、民主主義や市場経済の一方的な導入を伴うような、たびたび批判される自由主義的な平和観念から脱却し、現地社会の土壌で根付き、人々の手によって生まれ、日常のなかで花開く「等身大の平和」への道を示す可能性を秘めている。

2-(8) YES for Peace ガイドライン・ハンドブック

本プロジェクトでは、成果2の活動を取りまとめた YES for Peace ガイドライン・ハンドブックを作成した。このガイドライン・ハンドブックはスポーツアカデミーや学校における、平和促進に資する草の根レベルの活動の実施ノウハウをとりまとめたものであり、①スポーツを通じた平和促進にかかる活動の背景や意義、草の根活動の概要が説明されているガイドラインと、②アカデミーでの Everyday Peace 実践のノウハウを記載したハンドブック、③学校での体育授業の内容向上や学校のスポーツイベントでの平和促進要素を盛り込むためのノウハウを記載したハンドブックの3つの文書で構成されている。

使用対象者としては、省庁関係者のみならず、スポーツアカデミーや学校関係者、スポーツ協会・連盟などを想定しており、スポーツ活動や体育の実施を通じて平和促進を計画・実施する際に参照できる資料である。特に両ハンドブックについては、これまでプロジェクト活動により整理されたスポーツを通じた平和促進の考え方、活動の実施手順、実施時に重要となるポイントを詳細に記載している。より多くの実務者に活用されるよう、図や絵、フォーマットなどを多く活用し、現場で活用しやすいように工夫した。

このガイドライン・ハンドブックは中央省庁の MoYS・MoGEI のみならず、各州の SMOcYS や MoGEI、スポーツ連盟・協会、プロジェクト対象の学校・アカデミー、YES for Peace プラットフォームの関係者などに配布された。

1-3-3 成果3に係る活動

3-(1) 開発パートナーとの連携

プロジェクトチームは、欧米大使館、国連機関、外資系ビジネスと面談し、本プロジェクトの紹介を行うとともに、スポーツと開発・平和促進分野への先方の関心及び連携の可能性につき、聞き取りを実施した。プロジェクト期間中に面談した団体・企業、面談は実現しなかったものの働きかけを行った企業・団体を以下の表に示す。

表 II-52：プロジェクト紹介を行った団体・企業リスト

大使館・バイ援助機関	国際機関・NGO	企業
英国大使館、カナダ大使館、GIZ、ノルウェー大使館、スイス開発庁、USAID	UNESCO、UNHCR、UNFPA、UNICEF、UNMISS、ルオル・デン基金	CGA Technologies、Universal Printers、Equity 銀行、Zain、Dal Petroleum、MTN

表 II-53 : 働きかけを行った団体・企業リスト

ジュバに拠点がある企業	国際企業	国際市民団体
Bollore Logistics, DHL, Equatoria Coca Cola Bottling, GCS Construction, Just Donald Smart Company, KCB Bank, M-Gurush, Pacific Petroleum, RCS, Sudd Petroleum	Apple	Sreetfootballworld

SDC については、過去に NUD の支援実績があり、NUD に継続して関心を示してきたため、プロジェクトチームは個別にアプローチした。スイス政府のスポーツ分野への関心は、オギ元スイス連邦大統領が国連スポーツと開発・平和特別顧問を 8 年間務めるなどの事例があり、スポーツと開発・平和への関わりを大切にしていることに由来するとのことである（2021 年 11 月、スイス大使館から聴き取り）。他方、SDC は、ファンドは確保できても、物品・サービスの調達を自ら行うことは不可であるという立場をとった。したがって、SDC からの寄付については、事前に合意した物品・サービスについて、調達作業を JICA 南スーダン事務所あるいは本プロジェクトが行い、SDC が、その物品・サービスを提供した業者に NUD 終了後に銀行送金するという協力形態をとった。また、この贈与には、JICA 南スーダン事務所と SDC 間で合意文書の締結を必要とした。

GIZ については、スポーツを開発ツールの一つとして取り入れた案件を他国で実施しており、南スーダンでも社会融和の促進ツールとしてスポーツを用いた新規事業を立ち上げ準備中であることを、本プロジェクト開始時に確認した。そしてプロジェクト期間中に、GIZ は「南スーダンにおける地方行政と平和的共存」プロジェクトを立ち上げ、そのなかで、「サッカーを通じた暴力予防」活動の実施を決定した。GIZ は欧米の開発支援機関で唯一スポーツを組み入れた事業を実施していることが確認できた機関であることから、プロジェクトチームは、GIZ との情報交換を継続し、その成果の一つとして、第 8 回 NUD での連携が実現した。

UNHCR については、第 6 回 NUD へのサッカーボールの寄贈の意思表示があったものの、調達の遅れにより、ボールは大会には間に合わなかった。これに代わり、2022 年 6 月、UNHCR が主催した「世界難民の日」記念サッカー行事において、MoYS との連携が実現した。同イベントには、MoYS 大臣が参列し、UNHCR よりサッカーボール 84 個が贈呈された。また、イベントに必要な競技場及び審判員の確保の調整を MoYS が実施した。



GIZ による平和促進ワークショップ



UNHCR 「世界難民の日」のイベント

3-(2) YES for Peace プラットフォームに係る活動

a. YES for Peace プラットフォームに係る背景

本プロジェクトは、終了後もスポーツを通じた平和促進活動が南スーダンで普及することを目標

とし、MoYS/MoGEI、スポーツ連盟・協会、ユース団体、草の根スポーツ団体、学校などが、それぞれの活動に必要な資源（情報、技術、資金）を動員できるような体制を終了前に構築することを目指した。Yes for Peace プラットフォーム（以下、「プラットフォーム」という。）は、そのような体制づくりの試みである。プラットフォームは、MoYS/MoGEI が運営するものであり、運営にかかるコストは必要最小限のものとなるよう配慮した。

b. プラットフォーム設立のプロセス

2021 年 10 月、プロジェクトは各国大使館や国連機関から情報を収集し、スポンサー側の視点から見たプラットフォームの理想的な形について検討を始めた。インタビューを通じて、関係機関からは、MoYS が主催する既存のフォーラムである「ユースフォーラム」を活用するのが良いのではないかとの助言を受けた。

2022 年 7 月、プロジェクトはユースフォーラムの議長である MoYS の青年局長代理と会談し、ユースフォーラムについての理解を深めるとともに、そのフォーラムがスポーツ活動の資金調達を目的とする本プロジェクトに貢献できるかどうかを評価した。その結果、ユースフォーラムの目的が、プロジェクトの目指すものと一致しないことが判明し、C/P は新たなフォーラムを設立することを決定した。

2022 年 9 月、MoYS 次官の同意のもと、プロジェクトはスポーツ関係者やスポンサーとの連携を目的とした、プロジェクト主導のフォーラムを設立することを決定した。2023 年 6 月には、ジュバに拠点を置くスポーツおよび青年関連団体を対象にワークショップを開催し、その関心度を確認した。ワークショップには、中央エクアトリア州の SMCYS/MoGEI、スポーツ連盟や協会、青年組合、プロジェクトの成果 2 に参加した学校やスポーツアカデミーなど、30 の組織から 65 名が参加した。このワークショップで、参加者のフォーラム設立の意思や目的意識を確認した上で、C/P は同ワークショップに参加した人々をメンバーとするプラットフォームを設立することを決定した。

2023 年 9 月、同年 6 月に開催されたワークショップに参加した組織が再び集まり、26 の組織から 40 名が参加する第 2 回ワークショップを開催した。ワークショップの参加者は、提案されたプラットフォームの目的、体制、必要となる資源について詳細に議論した。この議論をもとに、プロジェクトはプラットフォームのための ToR を作成した。

2023 年 11 月、3 回目の会合を開催し、16 の組織から 30 名が参加し、ToR の最終調整と採択を行った。また、この会合で 2023 年 12 月 5 日に第 1 回総会を開催することが決定された。

c. プラットフォームの体制

プラットフォームのメンバーは、MoYS/MoGEI、中央エクアトリア州 MoCYS/MoGEI、スポーツ連盟、中央エクアトリア州スポーツ協会、オリンピック・パラリンピック委員会、州ユース・ユニオン、成果 2 に参加する学校とアカデミーから構成され、必要に応じ、他省庁やドナー・国際機関、NGO、企業などと協議を持つことと規定されている。11 人の理事で構成される理事会は、行動計画を策定し、資源動員を含め行動計画の実施を管理する役割を担う。

d. プラットフォームの活動

アクションプランの作成

プロジェクトチームは同年 11 月 29 日、行動計画の策定につき議論を進めるため、第 1 回理事会を開催し、10 者が参加した。同理事会では、理事の役割や行動計画の趣旨について議論された。そのなかで、プラットフォームの活動費は自らが捻出することが前提条件であり、資源動員の可能性を含め、実現性が高い活動を特定する必要がある点が確認された。参加した理事のなかには、行動計画を持ち帰ってその中身について検討したいとの希望者が複数いたことを受け、12 月 5 日に再度集まり議論を継続することとした。したがって、12 月 5 日に予定した総会は延期することとした。同年 12 月 5 日、プロジェクトチームは第 2 回理事会を開催し、理事 5 者が参加した。

2024 年 6 月 13 日、プロジェクトチームは第 3 回理事会を開催し、10 理事が参加した。同理事会では、MoYS より行動計画の最新版が共有され、そのうち MoYS/MoGEI が提案する三つの活動について、タスクフォースメンバーから詳細の説明を行った。理事会は、最新の草案を 6 月 20 日の総会に提出することに合意した。

同年 6 月 20 日、プロジェクトチームは第 1 回総会を開催し、28 団体から 44 人の参加があった。従来のメンバーに加え、オブザーバーとして平和構築省、中央エクアトリア州平和構築省、ジェンダー省、プロジェクト活動との連携に関心を示す NewGen Peacebuilders の参加を得た。平和構築省及びジェンダー省は、プロジェクト活動及びプラットフォーム設立を歓迎した。また、両省は、オブザーバーでなく正式なメンバーとして加わることとなり、ToR の該当部分が改定された。同総会のなかで、MoYS はプロジェクトの近況の報告を行うとともに、MoYS 及び MoGEI が企画する活動を発表し、闊達な議論が行われた。最終的に、同総会は行動計画を採択した。MoYS/MoGEI が企画する活動を以下の表に示す。それぞれの活動について、外部からの資源動員も予定した。



Yes for Peace プラットフォーム第 1 回理事会



Yes for Peace プラットフォーム第 1 回総会

表 II-54 : プラットフォームでの行動計画案

活動	協賛の働きかけを行う対象者
州におけるアカデミーコーチと審判員にかかる活動	UNDP, UNFPA, UNESCO, Whitaker Peace and Development Initiative

活動	協賛の働きかけを行う対象者
体育教員の能力向上にかかる活動	UNICEF, UNESCO, Whitaker, Save the Children
平和大使にかかる活動	NewGen Peacebuilders

コンセプトノートの作成

プロジェクトチームは、総会で採択された行動方針のうち C/P が実施を予定する活動についてコンセプトノートに取りまとめたうえで C/P の資源動員努力を奨励、支援し、成功体験を蓄積することを目指しコンセプトノートを活用しながら以下の支援をした。

行動計画「州におけるアカデミーコーチと審判員にかかる活動」としては、同年 9 月から 10 月にかけて予定したトリットにおける研修の実施にあたり、UNMISS、UNDP、Whitaker との連携を目指し、調整を行った。プロジェクトチームは、コンセプトノートを準備し、3 団体と面会し、協力を要請した。具体的には、①これまで支援してきた草の根活動の成果発表を行う研修初日及び研修の成果を行動計画にまとめ発表する研修最終日への参加、②スポーツ用品の寄付を要請した。①の要請は、スポーツと平和促進の分野で活動実績がある開発パートナーと研修参加者との橋渡しを行い、将来的な協力につなげることが狙いであった。3 者とも①については了承したが、②については不可との回答であった。しかし結果的に、①についても、了承を得ていたものの、参加は実現しなかった。

行動計画「体育教員の能力向上にかかる活動」としては、南スーダンにある四つの教員養成学校の体育教員の知識・技能向上を目指すトレーニングのための資源動員に係るコンセプトノートを作成した。プロジェクトは、MoGEI がマペル、マリディ、ロンブール、トリット・エクアトリアにある 4 つの国立教員養成機関のスポーツ指導者および南スーダン全土の 15 の小学校と 15 の中等学校の体育教師を育成するための詳細な情報を含むコンセプトノートを作成することを支援した。しかし、コンセプトノートの作成後、MoGEI はこの活動を推進するための潜在的なパートナーとなる組織に働きかけを行わなかったため、コンセプトノートに関連する活動は進展しなかった。

行動計画「平和大使にかかる活動」としては、NewGen Peacebuilders から、NUD の過去の参加者である「平和大使」を対象とした平和啓発スポーツイベントの実施につき連携の関心表明があった。そこで、毎年 9 月に平和構築省が主催する「国際平和デー」の時期にあわせ、スポーツ大会及び平和啓発イベントを開催することを目指し、平和構築省及び NewGen Peacebuilders と調整を行った。しかし、資金に限りがあったため、プログラムはワークショップのみに変更された。実施準備として、平和構築省が主催する「国際平和デー」の会合に出席し、本プロジェクトの活動の紹介も行った。結果、9 月 13 日に開催された平和啓発ワークショップを MoYS と MoGEI が共同で実施した。同ワークショップには、約 40 人の NUD 経験者（平和大使）と、中等学校の学生が参加し、ゲームなどを通じ、平和促進・社会融和におけるスポーツの重要性について学んだ。



参加者とのディスカッションの様子



レクリエーションゲーム

プラットフォームメンバー間の協力

プラットフォームの運営過程において、アクションプランには含まれていなかったものの、総会メンバーの協力によって達成された成果が確認された。ジュバのアカデミーは中央エクアトリア州 SMoCYS の登録のもとで運営されているが、過去に同 SMoCYS はアカデミー登録の際に過剰な費用を請求していたため、LFA と SVA は登録ができない状況にあった。プラットフォームの活動を通じて、同 SMoCYS の DG は LFA と SVA の活動を認識し、局長が省内で調整を行った結果、2 つのアカデミーの登録が正式な料金で進められることとなった。これは、プラットフォームが情報共有組織として機能し、メンバー間の情報共有の結果としてアカデミー登録が実現した好例である。

3-(3) 学校での資源動員

1-3-2, 2-(1) で説明したとおり、学校調査により、体育およびスポーツ活動のための資源を確保する必要性から、学校がスポーツ連盟、民間企業、および関連する省庁や機関と連携する必要があることが明らかになった。このため、プロジェクトは、パイロットプロジェクトの対象校を YES for Peace プラットフォームのメンバーに含めることを提案し、これが総会で承認された。

3-(2) で示したとおり、アクションプランの作成過程において、MoGEI は全国の教員養成機関のスポーツ指導者およびジュバ以外の学校の教師を対象とする計画を策定した。そのため、パイロットプロジェクトの対象校はプラットフォームの資源動員の対象外となり、プロジェクトはパイロットプロジェクトの対象校に対する資源動員に関しては実施しなかった。

3-(4) スポーツアカデミーへの資源動員

本プロジェクトでは、対象となる LFA 及び SVA と、サッカー、バレーボール、陸上競技の各連盟に対し、人的・物的・財政的資源など現在の各組織の体制、活動内容、組織としての強みや課題、今後の活動の方向性などについて情報収集を行うためインタビューを実施した。このような聞き取り調査から得たさまざまな状況を踏まえて、スポーツアカデミーの活動を促進するための関係団体間の今後の連携の可能性や資源動員のあり方を明らかにした。

上記の調査を踏まえ、パイロット事業の対象である二つのスポーツアカデミーと、コブラクラブ、ライト・フォー・ザ・ワールド（ブラインドサッカー協会）といったほかのスポーツ組織の持続

可能な組織運営のための資源動員に関する 3 日間のセミナーを開催した。セミナーでは、グループワークを交えながら、価値・ビジョン・ミッションの明確化、ステークホルダー分析、ロジックモデルの理解など、潜在的な支援者へのアピールに関わる手法を指導した。

セミナー終了後、LFA と SVA の「物資・資金・人材の支援依頼」をまとめたシートを作成するため個別相談を行い、両アカデミーの要請シートの最終化と活用を支援した。ただし、この販売シートを使用したアカデミー向けの実際の資金調達活動は、時間的な余裕がなく、支援することができなかった。

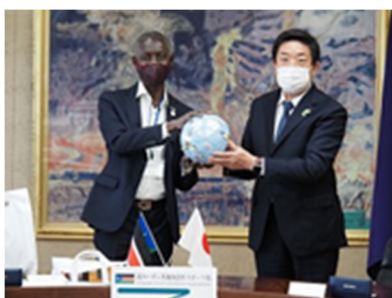


資源動員に関するセミナーの様子

1-3-4 成果横断的な取り組み：群馬県前橋市とのパートナーシップ協定

東京 2020 オリンピックにおいて、群馬県前橋市は南スーダン代表選手のホストタウンとなり、陸上選手を受け入れた。それをきっかけとして、同市は、スポーツを通じた南スーダンとのパートナー関係を強化することに関心を寄せていた。また、NUD に代表されるような、若年層を対象とした平和構築に係る南スーダンのイニシアチブを支援するため、同市は NUD で活躍した 2 名のサッカー選手を日本に招聘し、群馬を拠点とする日本のプロサッカーチームーザスパクサツ群馬ーでトレーニングの機会を提供することを MoYS に提案した。本プロジェクトは MoYS と前橋市をつなぐ橋渡し役を担い、コミュニケーションが円滑に進むよう仲介したほか、招聘選手の選考や彼らの日本ビザ申請などの支援を行った。

MoYS は前橋市からの提案を受け入れ、その内容を定めたパートナーシップ協定書は、第 1 回本邦研修において前橋市長に表敬訪問した際に両者代表（MoYS 次官と前橋市長）によって署名された。同協定書に基づき、ザスパクサツ群馬は 2023 年 5 月から 10 にかけて南スーダンから 2 名のサッカー選手を受け入れた。



パートナーシップ協定書の署名式



ザスパクサツ群馬からの歓迎を受ける南スーダンのサッカー選手

2名の選手は、日中は日本語を学ぶほか、現地の高校などを訪問して文化交流にも貢献した。夕方以降はザスパクサツ群馬のユースアカデミーの練習に参加し、サッカーの技術向上に励んだ。

2名の選手が南スーダンに帰国後、MoYS 大臣と南スーダンサッカー協会に表敬訪問した。JICA 専門家も同行し、前橋市との協定について説明したほか、本プロジェクトが支援する NUD との関係についても説明を行った。

NUD では、スポーツを通じて異なる地域の若者同士が交流し、それにより相互理解を促すことを目指している。前橋市とのパートナーシップ協定は、スポーツ（NUD）での成功がさまざまな機会（日本のプロサッカーチームでの練習機会）を創出し、その機会を通じて（日本で出会う人たち、MoYS、サッカー協会、その他支援者との）社会的繋がりが構築され、社会交流（日本滞在時の文化交流）が生まれることによって相互理解が促進されるという、NUD のなかで目指した連鎖反応が国境を越えて生じた、非常に象徴的な事例と言える。



MoYS 大臣への表敬訪問（左）と南スーダンサッカー協会への表敬訪問（右）

1-3-5 プロジェクトのインパクト調査

(1) 背景

これまで、NUD の有効性を測定するための調査が実施されてきた。そのなかには、選手選考などの NUD 準備プロセスや、NUD 実施が関係者間の交流や結束に与える影響を評価するものも含まれていた。しかし、2023 年 12 月に承認された PDM バージョン 2 では、①平和促進におけるスポーツの重要性に対する関係者の認識、②関係者が平和促進のためのスポーツを計画・実施・相談する際の中央レベルの MoYS 及び MoGEI の必要性、③本プロジェクトで得た経験や知識が関係者の日常活動にどの程度活用されているか、という要素がプロジェクト目標の達成度を測る指標として考慮されたことで、NUD の範囲に限らない、より広い指標データを取る必要性が生じた。

これらの指標とプロジェクト活動に対する関係者の認識・印象・評価を確認するため、プロジェクト関係者を対象としたインパクト調査を実施することが決定された。本調査の再委託先として、Q&A Management Consultancy Firm（以下、「Q&A」という。）が選定され、JICA 専門家と共同して本調査を実施した。調査対象ごとに整理された質問票が作成され、それに基づいてインタビューが実施された。調査の実施期間は主に第 8 回 NUD の期間中及びその後であり、2024 年 1 月から 10 月までであった。調査データ及び分析結果は Q&A によってまとめられた。

(2) 調査の枠組み

調査対象、主な調査項目及びその他の詳細は以下のとおりである。調査データ及び分析に基づく主な所見については、後述する「プロジェクトの成果」で説明する。

表 II-55 : 調査対象、主な調査項目など

調査対象	対象 インタビュー数 (女性：男性)	主な調査項目	対象がプロジェクト目標の三つの指標に適合しているか
中央 MoYS 職員	6 名 (女:3, 男:3)	1) NUD, 2) Coach training, 3) Referee refresher training, 4) Training programme in Japan, 5) Pilot activities by the Project, 6) YES for Peace Platform, 7) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	指標 1 のみ
中央 MoGEI 職員	2 名 (女:0, 男:2)	1) NUD, 2) Training programme in Japan, 3) Pilot activities by the Project, 4) YES for Peace Platform, 5) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	指標 1 のみ
SMoCYS 職員	13 名 (女:0, 男:13)	1) NUD, 2) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	全ての指標
州 MoGEI 職員	1 名 (女:0, 男:1)	1) NUD, 2) Training programme in Japan, 3) Pilot activities by the Project, 4) YES for Peace Platform, 5) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	全ての指標
州コーチ	18 名 (女:4, 男:14)	1) NUD, 2) Coach training, 3) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	全ての指標
審判	10 名 (女:3, 男:7)	1) General, 2) NUD, 3) Referee refresher training, 4) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	全ての指標
スポーツ競連盟	6 名 (女 4 男:2)	1) NUD, 2) Coach training, 3) Referee refresher training, 4) Training programme in Japan, 5) Organisational activities and collaborative work with others, 6) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	全ての指標
対象スポーツアカデミー関係者	5 名 (女:1, 男:4)	1) General, 2) Pilot activities by the Project, 3) Coach training, 4) Organisational activities and collaborative work with others, 5) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sport	全ての指標
対象学校教師	10 名 (女:1, 男:9)	1) General, 2) Pilot activities by the Project, 3) Organisational activities and collaborative work with others, 4) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sport	全ての指標
National security and police 職員	2 名 (女:0, 男:2)	1) NUD, 2) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	指標 1 のみ
NUD 8 に参加した選手	30 名 (女:22, 男:8)	1) NUD, 2) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	指標 3 のみ
過去 NUD に参加した選手	26 名 (女:16, 男:10)	1) NUD, 2) Recognition of importance of youth empowerment and peace promotion through sports	指標 3 のみ

2. プロジェクトの成果

2-1 成果と指標

2-1-1 成果 1 の指標と実績

成果 1 の指標の達成状況は下表のとおりである。

表 II-56：成果 1 の指標とその達成状況

指標	実績
成果 1: スポーツ省の NUD 関連活動に関する、事業計画、実施、監督及び評価、財政管理能力、調整能力が強化される。	
1-1. NUD 実施のための能力開発のための ニーズ調査報告書が作成される。	【達成】 完了
1-2. NUD 参加者の選考方法は、ジェンダー 主流化を含む公平性と包括性をもって、毎年見直され改善される。	【達成】 - 毎年、選考方法について関係者間で協議・確認を行った。 2021 年 11 月～2022 年 1 月に第 6 回 NUD のモニタリングを実施した。 2023 年 1 月～2023 年 2 月に第 7 回 NUD のモニタリングを実施した。 2023 年 11 月に第 8 回 NUD のモニタリングを実施した。
1-3. NUD が毎年開催される。(可能であれば MoYS やその他の地元からの拠出を増やす)	【達成】 2022 年 3 月に第 6 回 NUD を実施した。 2023 年 3 月に第 7 回 NUD を実施した。 2024 年 1 月に第 8 回 NUD を実施した。
1-4. NUD 実施マニュアルが改訂される。	【達成】 NUD マニュアル改訂案を MoYS 及び JICA 南スーダン事務所と共有した、それぞれからのコメントを確認、修正した。マニュアルは 2025 年 2 月に完成し、関係機関に配布した。

2-1-2 成果 2 の指標と実績

成果 2 の指標の達成状況は下表のとおりである。

表 II-57：成果 2 の指標とその達成状況

指標	実績
成果 2：ジュバ及びパイロット州の学校やスポーツクラブにおいて、スポーツを通じた若年層育成による平和促進活動のための実施体制が構築される。	
2-1. YES for Peace に関する活動を学校やスポーツアカデミーで実施するための能力開発のためのニーズ調査を実施する。	【達成】 定性調査を実施し、トリットを含む関係者の能力開発ニーズに関する主な確認事項を整理した。
2-2. a)対象サッカーアカデミー、b)対象バレーボールアカデミー、c)対象小学校、d)対象中学校で各パイロット活動を 2 回以上実施する。	【達成】 [対象スポーツアカデミー] a) ワークショップ 1 回（指導計画作成ワークショップ：2023 年 3 月）、コーチ研修 1 回（2023 年 9 月）、コミュニティイベント 2 回（2023 年 6 月、2024 年 2 月）、必要なスポーツ用具の提供 1 回を実施した。 b) ワークショップ 1 回（指導計画作成ワークショップ：2023 年 3 月）、コーチ研修 1 回（2023 年 9 月）、必要なスポーツ用具の提供 1 回、バレーボールコートの修理 1 回、啓発ツール作成 1 回を実施した。また、コミュニティイベント（2024 年 4 月）、保護者向けワークショップ（2024 年 9 月）を実施した。

指標	実績
成果 2：ジュバ及びパイロット州の学校やスポーツクラブにおいて、スポーツを通じた若年層育成による平和促進活動のための実施体制が構築される。	
	[対象校] c) 3 回のワークショップ（行動計画及び授業計画を対象校が協力し合って作るための準備ワークショップ：2022 年 11 月、体育授業計画作成のためのワークショップ：2023 年 9 月、体育の単元計画および行動計画作成のためのワークショップ：2024 年 9 月）、対象教師向け実技ワークショップを 1 回（2023 年 4 月）、モデル授業の実施と振り返りを 2 回（2023 年 10 月、2024 年 3 月）実施した。 d) 2024 年 4 月と 6 月に、Juba Diocesan Model 中学校において、平和に関連する価値観や意識を広める新しい方法を含むスポーツ競技会の実施を支援した。
2-3. スポーツアカデミー・学校において YES for Peace を推進するためのガイドラインが作成される。	【達成】 プロジェクトは、全体的なガイドラインとハンドブックから構成される「YES for Peace ガイドライン」を 2025 年 2 月に最終化し、関係機関に配布した。

上記の成果 2 の達成状況に関する情報を補足するため、インパクト調査（1-3-5 を参照）の結果を以下に示す。

表 II-58：学校に関するパイロット活動への関係者の印象・認識・評価

(質問事項 1) プロジェクト対象校における指導案作成・活用に関するパイロット活動について 対象となる活動：①モデル体育授業の実施と観察、②モデル体育授業実施後の振り返りセッション、③模擬授業を含むワークショップ（2022 年 11 月、2023 年 4 月及び 9 月、2024 年 3 月）の実施	
【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】 国及び州の教育省（MoGEI）関係者、対象校教師：13 人中 12 人（92%）	
【主なコメント】 - 多くの対象教師が知識とスキルを習得・向上させ、それを実践に活用できた。 - しかし、研修期間・頻度が十分ではなかった。 - 体育授業の実施を促進するための器具が十分に提供されなかった	
(質問事項 2) 青年のエンパワーメントと平和促進を目的としたスポーツイベントの支援に関するパイロット活動について 対象となる活動：①学校スポーツイベントの計画に関する議論（2023 年 11 月）、②ハウス対抗スポーツ競技大会（2024 年 4 月及び 6 月）の実施	
【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】 国及び州の教育省（MoGEI）関係者、対象校教師：10 人中 8 人（80%）	
【主なコメント】 - 学校のスポーツイベントで平和を促進する新しい方法を多くの人が理解した - ただし、より多くの実践経験が必要である	
(質問事項 3) 対象小学校への支援として、MoGEI が提供すべきだと考えるサポートは何か	
【主なコメント】 - 体育教員へのさらなる研修が必要 - 体育運動のガイドラインやハンドブックが必要 - 体育の授業で使う器具（ボール、コーン、ネットなど）が必要 - 応急処置キットが必要 - 体育教師やトレーナーのための運動着が必要 - 生徒のための運動着とスポーツ用品が必要 - 学校の運動場の整備が必要 - 学校への財政支援が必要	
(質問事項 4) 対象中学校への支援として、MoGEI が提供すべきだと考えるサポートは何か	
【主なコメント】 - 学校運動場の整地及び改善が必要 - 器具、スポーツ用品、制服が必要	

● スポーツイベントの審判に関するトレーニングが必要（ゲームルールを生徒にアドバイスするため） ● クラス対抗及び学校間対抗の競技会の支援が必要 ● 様々なスポーツの導入が必要
--

表 II-59：スポーツアカデミーに関するパイロット活動への関係者の印象・認識・評価

（質問事項1）対象アカデミーにおける啓発ツール（例：バナー、ロゴなど）の制作支援に関するパイロット活動 【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】 青少年・スポーツ省（MoYS）及び対象アカデミー：9人中6人（67%） 【主なコメント】 ● ロゴやバナーは質が高く、チームワークや相手を尊重することを伝える良いメッセージを表現でき、チームを代表するものとなった ● しかし、もっと大きなバナーや屋外の看板があれば、一般の人々にシンパ・スポーツアカデミーについてより広く知ってもらえたはず
（質問事項2）対象アカデミーにおける地域イベント（例：保護者の日）の実施支援に関するパイロット活動 【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】 青少年・スポーツ省（MoYS）及び対象アカデミー：11人中6人（55%） 【主なコメント】 ● 保護者の日を通じて、多くの保護者が一堂に会し、選手たちのパフォーマンスなどのイベントを目の当たりにし、その後、子どもをスポーツアカデミーに通わせるよう促すきっかけになった。 ● 地域社会をもっと巻き込む方法を考える必要がある。
（質問事項3）対象アカデミーにおける必要な器材（例：ボール、ネット、ユニフォーム、ジャージなど）の提供支援に関するパイロット活動 【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】 青少年・スポーツ省（MoYS）及び対象アカデミー：11人中9人（82%） 【主なコメント】 ● 器材が選手やコーチをやる気にさせ、多くのアカデミーではスポーツ器材が十分揃っていなかったため、トレーニングへの参加意欲を高めた。 ● 器材の充実によりアカデミーのメンバーでないほかの若者も参加を希望し、これが地域の犯罪率の低下につながっている ● 選手が増加しているため、器材の数が十分ではない。
（質問事項4）対象アカデミーにおけるコートや運動場の整備支援に関するパイロット活動 【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】 青少年・スポーツ省（MoYS）及び対象アカデミー：9人中6人（67%） 【主なコメント】 ● 整備前はコートが荒れていて選手が怪我をしやすかったが、整備後は怪我のケースが減少した。 ● 整備前は荒れたコートだったが、現在は良い状態になり、多くの選手がアカデミーに参加するようになった。
（質問事項5）対象アカデミーへの支援として、MoYSが提供すべきだと考えるサポートは何か 【主なコメント】 ● さらなるコーチの能力開発 ● さらなる保護者への啓発活動 ● 保護者会の設立や、社会的に悪い慣習について青少年・スポーツ省が保護者に語る機会 ● さらに多くのスポーツ器材や用具 ● 運動場の整備や運動場のフェンス設置 ● 雨季が長く活動に影響を及ぼす地域のために、屋内施設の建設 ● 男女両方に向けた多様なスポーツの導入 ● コーチのモチベーション向上のための財政支援 ● 保護者に対して収入創出のための実践的な知識を提供する支援

表 II-60：コーチ研修への関係者の印象・認識・評価

（質問事項1）コーチ研修（2022年11月24日～25日） 【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】

州のコーチ、対象スポーツアカデミー：5人中5人（100%）
【主なコメント】
- 以下のプログラムが参加者に好評だった： ➤ NUD（全国結束の日）の歴史と成果 ➤ NUDのインパクト調査結果 ➤ 実地演習（日本式準備体操、コレクションゲーム、輪っか紐とボールの移動、目隠しゲーム） ➤ UNDPによるスポーツにおける紛争管理 ➤ UNDPによるトラウマ認識と心理社会的支援研修
（質問事項2）コーチ研修（2023年9月14日～17日）
【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】
青少年・スポーツ省（MoYS）及び対象アカデミー：11人中9人（82%）
【主なコメント】
知識の習得と実地での実践トレーニングがうまく組み合わせられていた。
（質問事項3）今後のコーチ研修で取り上げてほしいテーマは何か
【主なコメント】
- 障害を持つ人々に対応方法 - 国際的なコーチによる指導 - スポーツの最新ルールについての学習 - より高度なレベルの資格を取得する方法・内容

表 II-61：審判研修への関係者の印象・認識・評価

（質問事項1）審判リフレッシュ研修（2024年1月17日～18日）
【「非常に満足」または「満足」と回答した人数】
審判員：8人中8人（100%）
【主なコメント】
- 規則やルールが毎回変わるため、研修が重要である。 - 結婚後、長い間審判をする機会がなかった参加者が、今回知識と経験を向上させることができた。
【補足情報：NUD（全国結束の日）での審判の難しさ】
- 審判の判定に対してコーチが納得せず批判する場合があります、コーチと審判の合同研修が必要である。 - ビデオリプレイ技術の導入が求められている。 - 選手やコーチの間でルールに関する知識のギャップがある。 - 一部の選手が英語やアラビア語を話せないため、審判がボディランゲージで対応しなければならない場合がある。 - 特に異なる州から来た女子選手のなかには、国際バレーボールルールに不慣れな者がいた。

2-1-3 成果3の指標と実績

成果3の指標の達成状況は下表のとおりである。

表 II-62：成果2の指標とその達成状況

指標	実績
成果3：スポーツ省及び教育省と活動実施団体（学校、スポーツクラブ・アカデミー）及び協力機関（スポーツ支援団体、国際機関・NGO、各国大使館、民間企業等）とのスポーツを通じた平和促進活動に関する連携プラットフォームが構築される。	
3-1 YES for Peace PlatformのToRがメンバーによって合意される。	【達成】 第1回総会において、メンバーは中央及び中央エクアトリア州の平和構築省をYES for Peace Platformのメンバーに含めるよう合意し、ToRを修正した。
3-2. YES for Peace Platformの活動計画がメンバーによって合意される。	【達成】 活動計画は第1回総会において承認された。
3-3. YES for Peace Platformの会合が年2回以上開催される。	【達成】 2024年6月、第3回理事会が開催され行動計画案が決定され、第1回総会が開催された。

指標	実績
成果3：スポーツ省及び教育省と活動実施団体（学校、スポーツクラブ・アカデミー）及び協力機関（スポーツ支援団体、国際機関・NGO、各国大使館、民間企業等）とのスポーツを通じた平和促進活動に関する連携プラットフォームが構築される。	
3-4. 合意された計画に基づき、スポーツを通じて平和を推進するための関連活動を2つ以上実施する。	【達成】 YES for Peace Platformの活動計画に基づき、以下の活動を実施した。 (1)総会を開催し、活動計画の共有と承認を得た。 (2)州内のアカデミーコーチや審判員を対象とした活動：州 MoCYS、地方連盟、トリットのスポーツアカデミーに対する研修の準備を行った。研修は2024年9月末から10月初めにかけて実施された。 (3) 体育教師の能力向上のための活動:体育の単元計画及び行動計画作成のためのワークショップを2024年9月に実施した。 (4) 平和大使の活動: NewGen Peacebuildersと協働で、国際平和デーのワークショップを開催した。

上記の成果3の達成状況に関する情報を補足するため、インパクト調査（1-3-5を参照）の結果を以下に示す。

表 II-63：YES for Peace プラットフォームへの関係者の印象・認識・評価

(質問事項1) プラットフォームの役割において最も重要な側面は何か
【MoYS と MoGEI が選んだ側面（計7項目）】 「MoYS が通常接触しない各スポーツ競技団体と総会メンバーが課題を議論する機会」 (86%) 「YES for Peace プロジェクトの活動におけるスポーツ競技団体からの協力の要請」 (86%) 「各種スポーツ競技団体の政策や活動内容を理解する機会」 (43%) 「南スーダンにおける青年のエンパワーメントと平和促進に関する現状と課題の特定」 (43%) 「スポーツ競技団体への YES for Peace プロジェクトの周知」 (43%)
(質問事項2) プラットフォームの最も効果的な特徴は何か
【MoYS と MoGEI が選んだ側面（計7項目）】 「様々なスポーツ競技団体とのチャネル」 (71%) 「総会」 (57%) 「アクションプラン」 (57%) 「理事会」 (43%) 「潜在的パートナーとの個別相談」 (29%)
(質問事項3) プラットフォーム総会で議論したい議題は何か
【主なコメント】 - 資源動員（資金やモノ、人材の確保） - 活動を促進・支援するための資金調達方法に関するメンバー向けの研修 - プラットフォームの活動内容の見直し - 財政、運営、地域社会からの支援を含め、プラットフォームを持続可能にする方法

2-2 プロジェクト目標とその指標：インパクト調査の結果から

プロジェクト目標に関する指標について、インパクト調査から得られた結果と主な所見を以下に示す。

表 II-64：プロジェクト目標に関する指標についてインパクト調査から得られた結果と主な所見

【プロジェクト目標に関する指標1】 More than 80% of relevant personnel (such as national and state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations, representatives of target sports academies and schools, and representatives of National Security and Police) recognize more importance of youth empowerment and peace promotion through sports compared to before starting the Project (2019).
【結果及び主な所見】 本プロジェクトに関連する関係者（中央レベルの MoYS/MoGEI、州レベルの SMOcYS/MoGEI、州のコーチ、審

判員、スポーツ連盟、対象スポーツアカデミー、対象学校)のうち、インタビュー回答者(合計71名)の91%(64名)が、本プロジェクト開始前と比較して、スポーツを通じた青年のエンパワーメントと平和促進の重要性をより認識するようになった。

- プロジェクト関連の活動を通じて、多くの人々が以下のようなスポーツによる平和促進の特徴をより認識するようになった。
 - スポーツは人々の結束、友情、良好な関係を促進する。
 - スポーツはコーチや女子選手のような人々をエンパワーメントできる。
 - スポーツは子どもが非行に走るのを防ぐことができる。
 - 選手がコーチや審判になるなど、人々はスポーツを長期間、さまざまな形で楽しむことができる。

【プロジェクト目標に関する指標 2】

More than 70% of relevant personnel (such as state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations and representatives of target sports academies and schools) are willing to consult with MoYS or MoGEI when they plan activities related to youth empowerment and peace promotion through sports.

【結果及び主な所見】

本プロジェクト関連者(州レベルのSMoCYS/MoGEI、州のコーチ、審判員、スポーツ連盟、対象スポーツアカデミー、対象学校)のうち、インタビュー回答者(合計63名)の5%(3名)が、スポーツを通じた青年のエンパワーメントと平和促進に関連する活動を計画する際に、中央レベルのMoYSまたはMoGEIに相談する意思を示した。

- 州MoGEI及び対象スポーツアカデミーの一部の回答者が、相談相手として中央レベルのMoYS/MoGEIを選択したが、より多くの回答者(12名)が州レベルのSMoCYS/MoGEIを選択した。
- 調査の結果、現在、学校、地域内の団体/人物(地域リーダー、教会リーダー、青年団体、保護者組織)、州レベルのスポーツ競技連盟が、スポーツ及び体育促進のために優先的に相談したい相手とされていた。そのため、スポーツを通じた平和促進を草の根レベルで進めるには、これらの主要な関係者を巻き込み、連携することが必要である。
- 回答者が中央レベルのMoYS/MoGEI(場合によっては州レベルのSMoCYS/MoGEI)に相談したい内容として、以下の事項が挙げられた。
 - スポーツ及び体育を促進するための政策・立法支援
 - スポーツ及び体育に関連する人材(例:コーチ、審判員、教師)向けの研修サービス
 - 地域社会の関与を促進するための啓発活動
 - 学校環境における体育及びスポーツの改善(例:学校カリキュラムとしての体育・スポーツの定着、スポーツ器材の提供、運動場やコートの整備)
 - 学校対抗スポーツ競技会の促進
 - 国際的なイベントの開催や国際的なトレーナーとの連携の促進
 - スポーツアカデミーが組織としての登録を受けるための支援
 - スポーツ競技連盟がスポーツアカデミーを支援するよう奨励すること
 - インフラ整備(例:公共の運動場、国立競技場、屋内スポーツ施設)

【プロジェクト目標に関する指標 3】

More than 50% of trained personnel (such as state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations, representatives of target sports academies and schools, and NUD participants) have utilized knowledge and skills learnt from the Project for their activities.

【結果及び主な所見】

関係者(州レベルのMoCYS/MoGEI、州のコーチ、審判員、スポーツ連盟、対象スポーツアカデミー、対象学校、第8回NUDの選手、元NUD選手)のうち、インタビュー回答者(合計119名)の97%(116名)が、本プロジェクトで習得した知識やスキルを自身の活動に活用している。

- 多くの人々が以下の場面や方法で、本プロジェクトで学んだことを活用している
 - 同僚やほかのスポーツ関係者、家族との会話や議論において
 - 関連するトレーニングや講義を実施する際
 - 実際のコーチング、審判活動、体育の授業、スポーツイベントにおいて
 - 関係者間のネットワーキング活動において

3. PDM改訂の経緯と内容

3-1 PDM改訂の背景・経緯

PDMバージョン1が2021年6月に策定された。しかし、2023年11月の第6回JCC会議において、指標(Objectively Verifiable Indicators)及び指標の入手手段(Means of Verifications)の修正が提案され、議論された。この提案の理由は、PDM策定後約2年半が経過した第2フェーズにおい

て、関連する各プロジェクト活動の具体的な進展が明確に見えるようになったためである。そのため、本プロジェクトの目的及び成果の指標を、残りのプロジェクト期間が約 1 年となる時点でより明確に定義する必要があると判断された。

その後、PDM バージョン 2 が 2023 年 12 月に承認された。さらに、地方展開に要する業務期間を十分に確保するため、プロジェクト期間が 2024 年 10 月から 2025 年 2 月まで延長されたこと (2024 年 4 月の第 7 回 JCC 会議で決定) を受けて、プロジェクト期間のみを修正した最新版である PDM バージョン 3 が作成された。以下に各 PDM 改訂の主なポイントを示す。

表 II-65 : 主な PDM 改訂内容とその理由

バージョン	改訂日	主な改訂内容	改訂の主な理由
Ver. 1	-	-	-
Ver. 2	2023 年 12 月 10 日	指標と指標の入手手段	- より測定可能で合理的な記述、目標及び数値を明確に定義する必要があったため。 - ほかの箇所に記載されており、該当する記述を削除した箇所もあったため。
Ver. 3	2024 年 6 月 6 日	プロジェクト期間	地方展開に要する業務期間を十分に確保する目的で、プロジェクト期間を延長する必要があったため。

3-2 改訂内容の詳細

PDM バージョン 1 からバージョン 2 への各改訂の詳細、特に上位目標、プロジェクト目標及び成果に関する協力概要 (Narrative Summary)、指標 (Objectively Verifiable Indicators) 及び指標の入手手段 (Means of Verification) については以下に記載する。なお、PDM バージョン 2 からバージョン 3 への変更については、プロジェクト期間が変更されたのみとなるため、ここでの記載は省略する。

表 II-66 : PDM の改訂内容の詳細

項目	バージョン 1 (改訂前の内容)	バージョン 2 (改訂後の内容)
上位目標 の指標	The degree of recognition on mutual respect is increased among the participants of National Unity Day (NUD), participants of school, sports club and academy-based Sports for Peace initiatives in Juba and pilot states (comparing beginning /end of the Project for members of school/club/academy in Juba and pilot states, and beginning/end of the matches for NUD).	1) Trained personnel of MOYS and MOGEI conduct more than 10 training sessions/workshops including the concept of youth empowerment and peace promotion through sports and realize more than 5 coordination with supporters/stakeholders on youth empowerment and peace promotion through sports. 2) Trained personnel at state level conduct more than 13 activities on youth empowerment and peace promotion through sports by using their own resources.
上位目標 の指標の 入手手段	For NUD: Results of survey conducted through questionnaire and interviews with participants of NUD For school and sports club/academy: Result of survey conducted through questionnaire and interviews with participants of pilot activities in Juba City and pilot states. (baseline/end line survey)	1) Interviews with MOYS and MOGEI trained personnel 2) Interviews with state level trained personnel
プロジェ クト目標 の指標	1) YES for Peace Taskforce team reports and informs the results and outcomes of YES for Peace activities (at least more than once a year) 2) Organize coordination and preparation meetings (including State Convention and State Consultation	1) More than 80% of relevant personnel (such as national and state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations, representatives of target sports academies and schools, and representatives

項目	バージョン 1 (改訂前の内容)	バージョン 2 (改訂後の内容)
	or Monitoring Visit) for NUD with relevant stakeholders at least 2 times a year. 3) Trainings for relevant personnel (such as national and state government officials, management personnel (representatives of sports club/academy, School Management Committee and PTA), coaches and referees for implementing each pilot activity) are conducted more than XX times 4) Actual results and willingness to support YES for Peace activities such as NUD and activities at sports club, academy and school from Sports organizations, UN agencies, NGOs, embassies and private companies.	of National Security and Police) recognize more importance of youth empowerment and peace promotion through sports compared to before starting the Project (2019). 2) More than 70% of relevant personnel (such as state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations and representatives of target sports academies and schools) are willing to consult with MOYS or MOGEI when they plan activities related to youth empowerment and peace promotion through sports. 3) More than 50% of trained personnel (such as state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations, representatives of target sports academies and schools, and NUD participants) have utilized knowledge and skills learnt from the Project for their activities. 4) Training sessions and workshops including the concept of youth empowerment and peace promotion through sports for relevant personnel (such as national and state government officials, coaches and referees, and representatives of target sports /academies and schools are conducted by MOYS or MOGEI more than 8 times. 5) More than 10 organizations support YES for Peace activities.
プロジェクト目標の指標の入手手段	1) Taskforce reports 2) Taskforce reports and interview or questionnaires to supporting partners	1) Impact survey and interviews 2) Impact survey and interviews 3) Impact survey and interviews 4) Project activity reports 5) Project activity reports
成果 1 の指標	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing NUD is created 2) Trainings for relevant personnel (such as national and state government officials, taskforce members, coaches and referees) for NUD implementation are conducted (at least XX times) 3) Selection method for NUD participants is revised and improved annually with fairness and inclusiveness including gender mainstreaming. 4) NUD event is held annually (with increased contributions of MOYS and other local sources if possible) 5) Implementation manual for NUD is revised	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing NUD is created 2) Selection method for NUD participants is revised and improved annually with fairness and inclusiveness including gender mainstreaming. 3) NUD event is held annually (with increased contributions of MOYS and other local sources if possible) 4) Implementation manual for NUD is revised
成果 1 の指標の入手手段	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing NUD 2) Training records 3) Results of monitoring visits at states 4) NUD report and budget sheet record 5) NUD Implementation Manual (revised)	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing NUD 2) Results of monitoring visits at states 3) NUD report and budget sheet record 4) NUD Implementation Manual (revised)
成果 2 の概要	System of implementation structure for YES for Peace activities at school, sports club and academy is established at Juba and pilot states	Implementation structure for YES for Peace activities at schools, sports academies is clarified in Juba and pilot states
成果 2 の指標	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing YES for Peace activities at school and sports club/academy is created 2) Trainings for relevant personnel (such as national and state government officials, management personnel (representatives of sports club/academy, School Management Committee and PTA), coaches and referees for implementing each pilot activity) are conducted more than XX times	1) Needs assessment for capacity development for implementing YES for Peace activities at school and sports academies is conducted. 2) Each pilot activity for a) target football academy, b) target volleyball academy, c) target primary schools, and d) target secondary schools, is implemented more than 2 times 3) Guideline for Promoting YES for Peace in Sports Academies and Schools is created

項目	バージョン 1 (改訂前の内容)	バージョン 2 (改訂後の内容)
	3) Pilot activities are implemented more than XX times 4) YES for PEACE PE/Sports Teaching Guideline is created	
成果 2 の指標の入手段	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing YES for Peace activities at school and sports club/academy 2) Training records 3) Pilot activity report 4) YES for PEACE PE/Sports Teaching guideline	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing YES for Peace activities at school and sports academy 2) Project activity reports 3) Guideline for Promoting YES for Peace in Sports Academies and Schools
成果 3 の概要	Platform for YES for Peace is established and managed for collaborating among MOYS, MOGEI and implementing partners (school, sport club and academy), and supporting partners (sports organizations, UN agencies, NGOs, embassies and private companies)	Platform for YES for Peace is established and managed for collaborating among national and state MO(C)YS and MOGEI, sports academies, schools, and supporting partners (e.g., sports organizations, NGOs, UN agencies, embassies and private companies).
成果 3 の指標	1) Partner coordination meeting is organized at least 2 times a year 2) Strategic plan to gain sustainable resource mobilization for NUD implementation and community-level activities is created	1) TOR of Platform for YES for Peace is agreed by members. 2) Plans of Platform for YES for Peace are agreed by members. 3) Meetings of Platform for YES for Peace Partners are held at least twice a year. 4) At least two relevant activities to promote peace through sports are implemented based on the agreed plan.
成果 3 の指標の入手段	1) Partner coordination meeting minutes 2) Strategic plan on resource mobilization	1) TOR of Platform for YES for Peace 2) Plans of Platform for YES for Peace 3) Meeting minutes of Platform for YES for Peace 4) Meeting minutes of Platform for YES for Peace

4. その他：ジェンダー／平和構築配慮の結果

「平和」というのは幅広く多様な概念で、政治、教育、経済、インフラ、文化など、「国家」という存在におけるすべての側面を含める包括的な概念と言っても過言ではない。そのため、「平和促進」に取り組む際は、およそ無限に近い数の配慮事項と向き合う必要がある。とはいえ、取り組み方によって当然配慮事項との向き合い方についても濃淡や強弱が生まれる。本プロジェクトでは、「ジェンダー公正 (gender equity)」と「現地主体の意思決定」の二点が特に重要な配慮・考慮事項として挙げられる。

ジェンダー公正 (gender equity)

本報告書内の 2-(6)で簡単に述べたとおり、長く続いた紛争や文化慣習により、南スーダンにおいて女性は周縁化されてきた。スポーツにおいても女性の周縁化は発生しており、例えば、NUD に参加したコーチやパイロット対象アカデミーにコーチからは、たびたび「スポーツは男のものだ」「女性は家事だけしていればいい」「スポーツは女性を『オトコ』にしまい、結婚できなくなる」という意見もあり、実際それにより女性のスポーツ参加が阻まれているという事実もある。NUD 期間中、代表メンバーに選ばれたものの、上記のような理由で保護者が大会参加を認めなかったことで、大会に参加できなかった女の子の話を聞くことは珍しくなかった。また、親がスポーツを認めてくれないので、親に秘密にしながら内緒でアカデミーの練習に参加しているなどという話も、プロジェクト期間中数多く耳にした。

このように、女性のスポーツ参加が男性のそれに比べ著しく阻害されていることを踏まえると、スポーツの参加機会を男女間で「平等 (equal)」にするのではなく、「公正 (equity)」にする方が

より社会的インパクトが大きいと判断された。そのため、本プロジェクトでは男女公正を念頭に以下のような（アファーマティブな）活動に取り組んだ。

- 第7回及び第8回 NUD において、女性の参加者を増加させた（男子サッカーを廃止し、女子サッカーを導入した）
- 女性メンバーが参加しているスポーツアカデミーをパイロット対象として選定した
- パイロット対象アカデミーにおいて、ジェンダー配慮に係るワークショップを実施した
- ジェンダー配慮に関するセッションをトリット研修に入れ込んだ

ここで重要なことは、上記のような取り組みはプロジェクト専門家主導で進められたことではないことである。ジェンダー公正については、C/P やアカデミーのコーチを中心として真摯にそして真剣に考慮されたものである。特に NUD において男子サッカーを廃止し、その代わりに女子サッカーを正式競技として導入した際は、州会合において賛否両論合わさり議論が白熱したが、男女間のスポーツ参加機会の格差を是正するとの目的を掲げ、最後は MoYS が女子サッカー導入の方向で押し切った。このように、JICA 専門家が押し付けるのではなく、現地主導でジェンダー公正に向けて舵を切った事実は、下記の議論とも合わせて、非常に意義深いものとなっている。

現地主体の意思決定

本報告書内の 2-(7)で簡単に述べたとおり、トップダウン型の平和構築は、現地社会の多様な文脈に丁寧に配慮した形で進めることに限界があり、たびたび批判にさらされてきた。本プロジェクトの成果 2 は草の根レベルの平和構築を目指しており、現地社会の微細なニュアンスを考慮した形で活動を進めることが求められていたため、トップダウン型の手法はうまく機能しないことが推測された。そこで本プロジェクトでは、専門家主導で物事を決めるのではなく、現地で共に活動する人々に丁寧に寄り添い、彼（女）らと伴走しながら活動の方向性を決めていくことに注力した。一言でいえば「参加型手法を採り入れた」ということになるが、本プロジェクトではより深いレベルでの「参加」を目指した。C/P も含めた現地の人々から意見を聴取し、それを採り入れながらプロジェクトが最終判断を下す、というのも広い意味で「参加」と捉えられるが、本プロジェクトでは、C/P やパイロット対象アカデミーのコーチらに（自身が関係する）各活動の決定権を握らせ、彼（女）らを各活動の「中心に据える」ことを「参加」として定義し、「現地中心」という視点で参加型手法を整理して活動を行った。ここでは、プロジェクトチームの役割は主導的に活動の明確な方向性を示すことではなく、専門家の経験・知見を生かしてさまざまな視点を提供し、現地関係者との議論を深めることだった。このプロセスのなかでは、C/P やコーチがプロジェクトチームの意見を聞きながら、自身が置かれている状況も考慮して各種活動の是非を決定していた。このプロセスを通じて、現地のコンテキストをよりニュアンスを伴った形で理解することが可能になり、そのような理解を基に本プロジェクトの活動を適応調整することができた。パイロット活動の経験を基にした Everyday Peace 概念の整理などは、その成果でもある。本プロジェクト期間中一貫してこのような姿勢を維持し、C/P を含めて現地の人々を支援の対象ではなく彼（女）らこそが本プロジェクトの効果を発現させていく主体であるとの考えのもと、共同でプロジェクト活動を進めてきた。

プロジェクト活動の結果は上述したとおりだが、どのように本プロジェクトが参加型手法を採り

入れてきたのかを概観し、下表にまとめた。

表 II-67：参加型手法の結果

成果	活動	参加型手法の結果
成果 1	州会合（NUD 正式競技に関する議論）（1-(1)参照）	第 7 回及び第 8 回 NUD については男子サッカーを廃止し、女子サッカーを正式競技として採用するという大きな転換があった。この転換は、女性のスポーツ参加が低いという問題認識に基づくものだった。男子サッカーの廃止については白熱した議論が交わされたが、MoYS タスクフォースが各州参加者らと丁寧に話し合い、最終的には合意形成することができた。
成果 2	保護者向けイベント 「Parent's Day」／コミュニティイベント（2-(5) c, d 参照） 保護者会の設立（2-(5) d 参照） ジェンダー配慮ワークショップの実施（2-(5) d 参照）	イベント計画のための議論は、常にアカデミーコーチが「アカデミーが発展するために何が必要か」という点について発案することから始まった。このプロセスのなかでは、プロジェクトの役割はアカデミーのイニシアチブを応援し、多様な視座を提供してイベント成功のための側面支援を実施することだった。つまり、最後までアカデミーがイベント活動における最終決定者だった。 保護者会の設立は、その前に実施された保護者向けイベントの勢いを感じ取ったアカデミーによって発案されたものだった。保護者会則の文案を作成したのはプロジェクト専門家だったものの、その内容は 1 カ月間の議論を通してアカデミーのコーチと保護者代表が形作ったものであった。 ワークショップの実施は、アカデミーのコーチや選手が抱える問題について把握しておくべきであるという考えの元、発案された。ここでのプロジェクトの役割は、ワークショップの目的や意図をアカデミーから聞き取り、それを基に共同で議論を進め、一つのプログラムとしてまとめることに留まった。MoYS タスクフォースの女性メンバーとアカデミーコーチがワークショップ内のすべてのセッションにおいてファシリテーター役を担った。

III. 合同評価の結果

1. 開発援助委員会（Development Assistance Committee : DAC）評価項目による合同評価の結果

(1) 妥当性：高い

本プロジェクトは、以下に述べる南スーダン政府の政策との整合性があり、社会ニーズ及びターゲットグループのニーズに合致していることが確認された。また、本プロジェクトのアプローチは、若年層を巻き込んだ平和促進の実施手段として適切と考えられる。したがって、本プロジェクトの妥当性は高いと評価される。

a. 開発政策との整合性

南スーダンの「Transitional Constitution of the Republic of South Sudan, 2011」においては、スポーツを振興し、若年層のポテンシャルを十分開発できるようにエンパワーすることが記載されている。さらに、スポーツを通じた若年層のエンパワーメントは、「Revised National Development Strategy 2021-2024」において、社会・人道分野の戦略目標の一つとして設定されている。また、「South Sudan Youth Development Policy（草案）」においては、若年層のスポーツへの参画機会が限られており、特に女性のスポーツ参画は非常に限定的であると述べられている。このため、若年層への研修などを通じて、スポーツ参画を促進することが重要とされている。また、スポーツ競技を学校の授業のなかに組み込むことが推奨されている。

以上のように、南スーダンの開発政策に記載された課題解決に対し、本プロジェクトの活動は効果的に寄与すると考えられ、開発政策との整合性は高いと考えられる。

b. 開発ニーズとの整合性

本プロジェクトの受益者は、主に 20 歳以下の若年層で、NUD の実施や草の根の活動を支援してきた。さらに、対象となる若年層を指導するスポーツアカデミーのコーチや学校教員に対して能力強化を行った。これらは、Transitional Constitution of the Republic of South Sudan でも規定されている若年層のポテンシャルを十分開発するという方針にも沿っている。

また女性の参画促進については、第 7 回 NUD において、より多くの女性選手に参画の機会を確保したこと、アカデミーでの草の根活動支援においては、意図的に女子バレーボールアカデミーを活動対象にするなど、プロジェクトとして明確な意図を持ちつつ、女性のスポーツ参画を進めてきた。またその際には、女性選手特有の課題（家族の反対・家事・生理など）を緩和するための講義を行うなど、女性の参画や女性自身による意思決定が容易にできる環境整備に努めてきた。

(2) 整合性：高い

本プロジェクトは、以下に述べる日本の政策との整合性があり、南スーダンにおける JICA の協力量針とも活動内容が合致している。また、南スーダンで実施中のほかの JICA プロジェクトと連携したり、国際機関・他ドナー・民間セクターとの連携強化を図ってきた。このため、整合性は高いと評価される。

a. 南スーダンに対する日本の協力方針／JICA の協力方針／SDG ゴール

日本政府は、南スーダンに対する国別援助方針（2021 年 9 月）において、「和平プロセスの促進」を重点分野の一つとして設定している。プロジェクトの活動が貢献する分野の中で、「和解の促進」がサブゴールとして明記されている。また、JICA は JICA グローバルアジェンダにおいて「スポーツと開発」を重点課題の一つとして掲げ、「すべての人々が、スポーツを楽しめる平和な世界に」貢献するための環境整備を目指しており、本プロジェクトはこの戦略と一致している。さらに、本プロジェクトは主に以下の 3 つの SDGs 目標の達成に貢献すると考えられる。

目標 16：「平和、正義、そして強い制度」

目標 5：「ジェンダー平等」

目標 4：「質の高い教育」

b. 他事業との連携

NUD 実施の際には、JICA が南スーダンで実施している「南スーダン放送局組織能力強化プロジェクトフェーズ 2」と連携して、NUD の実況中継や南スーダン放送局での NUD に係るトークショーの放映を行った。また、UNMISS や UNDP、UNFPA、UNESCO、他ドナー、NGOs、民間会社などから物品の支援や、医療や研修などのサービスの提供を受けた。このように計 13 機関の様々なステークホルダーと連携・協力し、プロジェクトの成果を更に強化する相乗効果を具現化した。

(3) 有効性：比較的高い

本プロジェクトの目標である「若年層を対象にした、スポーツを通じた平和促進活動を推進するための青年・スポーツ省、一般教育・指導省及びパイロット州政府の事業実施能力が強化される。」については、おおむね達成できたと判断され、有効性は中程度と判断する。

a. プロジェクト目標の達成度

本プロジェクト目標には五つの指標があり、そのうち四つは明確に達成した。他方、プロジェクト目標の指標 2 である「70%以上の関係者（州政府の職員、コーチ、レフリー、スポーツ連盟・協会の代表、パイロットアカデミー・学校の代表者）が、スポーツを通じた若年層のエンパワーメントや平和促進にかかる活動を行う際に、スポーツ省や教育省に相談したいと考える。」については、全体の回答者数の 5%しか MoYS・MoGEI に相談すると回答しなかった。地方部やアカデミー・学校でスポーツを通じた若年層のエンパワーメントや平和促進活動を行う場合は、中央省庁に相談するというよりは、近隣の学校やコミュニティリーダー、教会関係者といった、より身近な関係者に相談するということで、MoYS・MoGEI との間に一定の距離感があることが明らかになった。一部の関係者は、MoYS・MoGEI の本来の役割（政策立案、コーチ・審判・教師向けの研修、地域での啓発活動など）に対して高い期待を寄せている。これらの期待に応えるためには MoYS・MoGEI の能力強化や管理スキルのさらなる向上を図ることが重要である。

以上のような状況から、プロジェクト目標は概ね達成できたと判断できるが、MoYS と MoGEI の能力強化の程度には大きな差があった。MoYS は NUD や草の根活動の実施に積極的に取り組んだ結果、十分な能力強化が認められたが、MoGEI は C/P が活動に参加する機会が限られ、十分に能

力強化が行われたとは言えない状況である。

b. プロジェクト目標と成果の因果関係

本プロジェクトには三つの成果が規定されており、どの成果とも概ね達成できた。これらの成果達成により、プロジェクト目標の達成に対し正の影響がもたらされており、プロジェクト目標もほぼ達成できたと考えている。特に、成果1のNUDの実施と成果2の草の根の活動は、MoYS・MoGEIの能力強化に大きく貢献した。

他方、成果3については、四つある指標のすべてをほぼ達成したが、その関連活動が十分に定着している状況ではなく、その結果、YES for Peaceプラットフォームは完全には管理・運営されているとは言い難い。今後本プロジェクトの支援が終了した場合、南スーダン側の発意をもって継続されるかどうか、注視する必要がある。成果3については、MoYS・MoGEIの能力強化そのものよりも、関係団体や関係省庁の横のつながりを強化することに貢献していると考えられる。

(4) 効率性：やや低い

効率性は以下の観点から、やや低いと評価される。

a. 事業費

為替変動、新型コロナウイルス感染症や深刻な経済状況の中でCPの効率的な活動の継続に必要な支出により、当初想定予算を超過した。

他方、NUDの実施に割り当てられる予算を制限することで、特に第8回NUDにおいて、プロジェクトは効果的な出口戦略を実施し、限られたリソースを効率的に活用できるようにした。

b. 事業期間

第1段階の計画を踏まえ、第2段階（コンサルタントによる業務実施）当初の事業期間は、3年間の予定であった。PDM中には、パイロット州への活動が含まれていたが、治安等の問題からJICA専門家が地方部に行けないため、第4回JCCにおいて、まずはジュバでの活動を中心に進めていく旨、合意された。

草の根の活動を進めていくなかで、その活動の有用性が確認されるとともに、地方部での活動のノウハウも蓄積されてきたため、地方展開の可能性を模索した。その結果、一つのパイロット州でアカデミーのコーチ研修を行うことを提案し、2024年4月に実施された第7回JCCにおいて、地方部（東エクアトリア州トリット）でのコーチ研修の実施が合意された。加えて、プロジェクト事業費の増加を伴わない形でのプロジェクト期間4カ月の延長が合意された。

c. 因果関係

PDMに規定された活動を行うことによって、成果はおおむね達成されたと考えられる。したがって、成果と活動の因果関係は適切だったと評価できる。また、活動を実施していくなかで、必要な専門分野が明確になり、専門家の分野変更や現地での活動期間を再検討するなど、限られたリソースを有効活用するために、投入の柔軟な変更を行った。

具体的には当初、専門分野として「心理社会ケア」が想定されていたが、ジェンダーや障害などより広い配慮事項について現場のニーズに即した活動を行うべきと判断し、「社会的弱者配慮・社会参画促進」の分野に変更した。また、当該団員が比較的長く現地で活動できるようにするため、「若年層エンパワーメント促進／広報／業務調整」の専門家が兼務し、現地の活動進捗をしっかりとモニタリングする体制を整備した。加えて、MoYS の物品調達に係る能力強化を行うために、「調達管理」の専門家を NUD 実施前後に配置し、C/P とともに協働しながら物品調達を進め、公正で透明性の高い物品調達プロセスを確立した。

(5) インパクト：中程度

上位目標は、「スポーツを通じて、人々、特に若者の信頼醸成と団結を強化し、南スーダンの社会的結束に貢献する。」で、プロジェクト期間終了から 3 年後に達成されることが想定されている。その指標は二つあり、ともに達成可能な指標ではある。しかしながら、南スーダンの財政状況を鑑みると、資金面の調達が難しいと考えられ、本プロジェクトのインパクトは中程度と見込まれる。他方、プロジェクト期間中に、指標以外で以下の正のインパクトが確認されており、これらのケースがうまく機能すれば、今後、副次的な正のインパクトが発現することも予想される。

a. 波及効果

これまで計 8 回の NUD を実施してきたが、その参加者のなかには、国を代表するナショナルチームに選出されたり、オリンピックや国際大会に参加した選手もいる。これらの選手のなかには、アスリートとしてトップレベルの能力を持つだけでなく、南スーダンの平和に貢献したい、この国のアイデンティティを具現化したいと考えている者もいる。

また、NUD 参加者のなかには、選手としての引退後にアカデミーでコーチを行っていたり、スポーツ連盟・協会の要職に就いた者もいる。また NUD 参加者の女性アスリートは、女性がスポーツに参画する際の障害をどのように乗り越えることができるのか、自身の体験を踏まえ、今後スポーツをやりたいと思っている少女に伝えていたケースもあった。

このように、NUD 参加者の自発的な活動により、正のインパクトが生じることが想定される。

b. アカデミーの活動

草の根活動として二つのアカデミーを対象にパイロット活動を行った。活動を通じて、アカデミーの機能は強化され、またアカデミーそのものが平和促進に対して重要な役割を担うことが分かってきた。特にアカデミーメンバーの両親に対するアプローチでは、両親やその関係者と話すことで、コミュニティの治安改善やコミュニティ内の安定化に寄与することが確認された。両アカデミーは地域の模範となるべく、コミュニティ関係者を巻き込んだ活動を自主的に行うことを計画している。このように、政府のサービス提供や支援が無くても、自らの意思でコミュニティにアプローチしており、この取り組みが他のアカデミーでも試行されれば、正のインパクトが発現することが予想される。

(6) 持続性：やや低い

南スーダンは建国してまだ十数年であり、政府の政策・制度面や組織体制、財政状況は非常に脆

弱なものとなっており、持続性については、以下の観点から、やや低いと考えられる。ただし、本プロジェクトが確立してきた草の根活動、特にアカデミーでのアプローチは、自発的に活動を行っているアカデミーとの親和性が高く、アカデミー自身の取り組みにより継続される可能性が高い。

a. 政策・制度面

政策・制度面での持続性はやや低いと評価できる。

妥当性で引用した **South Sudan Youth Development Policy** はまだ草案の状況であり、現在、国会にて採択される前の公聴会を開催する段階である。この政策がドラフトされたのは10年以上も前のことであり、採択されるまでに相当の時間を要している。また制度面も十分整備されておらず、この政策を実際に実施する際の法案などは作成されていない。

b. 組織体制

組織体制の持続性はやや低いと評価できる。

MoYS の組織体制は、プロジェクト期間中に一度変更となったが、南スーダンの中央省庁から **Youth** と **Sports** を担当する省庁が無くなるとは考えにくい。また、MoGEI の組織体制に変更はない。

他方、両省の職員の給与については遅配が続いており、政府職員の仕事に対するモチベーションは著しく低く、事業が実施困難になるケースも散見される。このため、組織体制自体があっても、実質、それが機能するかどうかは、職員の仕事ぶりにかかっており、現状は非常に厳しいものとなっている。

c. 技術面

技術面の持続性は高いと評価できる。

本プロジェクトが推奨してきた草の根の活動、特にアカデミーでの活動については、外部支援がなくとも自主的に活動を行っているアカデミーが実践することで、その持続性は高くなる。特に、本プロジェクトで整理した枠組みである「**Everyday Peace**」は、自身でできることをできる範囲でやっていくという基本的な考え方から、身の丈に合った活動が整理でき、それぞれのアカデミーが、それぞれの状況にあった活動を行うことが可能である。

d. 財政面

既述のとおり、政府職員の給与の遅配が頻発しており、もちろん事業費の配賦もほとんど行われていない。外部からの支援が無いと、通常の政府サービスの提供も難しい状況となっている。スーダン内戦の影響で、スーダン経由で輸出している原油からの税収が落ち込んでおり、現在の状況は早急には改善されないものと思われる。

2. プロジェクト実施やそのアウトカムに影響する主要要因

南スーダン政府の財政状況悪化により、政府職員への給与の遅配が生じ、本報告書執筆時点では、

13 カ月分もの給与の未払いが起こっている。このため政府職員は、自身の生活費を給与以外の収入源から得る必要が生じ、公務に専念することができない状況となった。この状況は公立の学校においても同様に発生し、草の根活動の対象パイロット校のうち公立学校の先生が活動に参加できない場合も多々あった。

3. プロジェクトリスク管理の結果にかかる評価

本プロジェクトのリスク管理として最大限の配慮を行ったのは、NUD 実施時の安全対策であった。NSS 及び警察と連携し、開会式・閉会式、各競技場での安全確保に細心の注意を払った。NUD では「暴力を一切容認しない」という原則を貫いてきたため、安全を維持する場合でも競技場への武器の持ち込みを最小限にした。基本的には競技場内には警棒を持った警官を配備し、観衆などが興奮して暴徒化しないように常に警備を行った。しかしながら、もし観衆が暴徒化した場合、警棒のみでの対応では鎮圧できない可能性があることから、競技場周辺に武装化した NSS の要員を配置し、もしもの際には介入できるような体制を整備した。これらの体制は非常に効果的に機能した。また、大会実施を通じて、本プロジェクトと NSS 及び警察との関係性も良くなり、国民を守るという NSS 及び警察が本来あるべき姿を観客に見せられたという点でも非常に効果的であった。

次に、感染予防対策が挙げられる。第 6 回 NUD 実施時には、まだ COVID-19 パンデミックの影響が残っており、集団感染予防が最大のリスクマネジメントの事象となった。このため、大会の計画時に保健省とも調整し、この大会を実施してよいかどうかの判断を確認し、保健省からの事前了解を得た。また、約 300 人以上もの選手・関係者が集団感染しないように、大会前後に抗原検査を実施し、陽性の参加者は隔離を行った。加えて、参加者にはマスクや消毒薬を配布し、感染予防に努めるよう促した。また、これまで 1 カ所だった宿舎を 2 カ所設置し、濃密な接触を避ける工夫を行った。さらに、病院とも契約し、感染者が出た場合の対応も事前に整理した。この結果、集団感染が起こることはなく、大会後の抗原検査で陽性だった選手は、陰性になるまでホテルに隔離するなど、適切な対応が出来た。

最後に、NUD 実施中のけがや病気についても十分な対策を練った。病院と提携し、宿舎に医師や看護師を配置し、けがや病気に迅速に対応できる体制を構築した。深刻な場合は、病院に搬送し、治療を受けることも可能であった。また、競技時のけがに対して迅速に対応するために、競技会場には赤十字の職員を配置し、すぐに応急措置ができる体制を整えた。また、緊急の場合は、救急車で病院まで選手を搬送できる体制を構築した。特に陸上競技では、競技後に体調を急変させる選手が多くいたため、この救急搬送システムが効果的に機能した。

NUD 実施以外のリスク管理については、活動現場、特にアカデミーでの活動現場の治安状況の把握に努めたことが挙げられる。SVA の練習場は兵舎のコンパウンド内にあり、活動期間中に一度、兵舎内の武器庫で大火災が発生し、放火が疑われるなど、治安状況の悪化が確認された。また LFA の練習場があるロロゴ地域は、ギャング集団の活動が活発で、一時的に治安が悪化する場合もあった。このように比較的リスクの高い地域での活動であったため、プロジェクトは常に活動現場の治安状況を把握し、不安が残る場合は、活動を延期するなどして、リスク回避を行った。

4. 教訓

(1) 本プロジェクトが培った社会関係資本（Social Capital）の有効活用

本プロジェクトの開始以前から NUD は実施されており、計 8 回の NUD が実施された。第 1 回大会では、初めてということもあり大きな混乱が生じた。MoYS と SMOYCYS との関係も十分構築されておらず、同様にスポーツ協会・連盟、NSS や警察などともこれまで一緒に活動した機会は稀有で、まずは関係構築からのスタートだった。しかしながら回を重ねるにつれ、これらステークホルダー間との関係は強固になり、信頼関係も醸成され、有形無形のアセットが形成されてきた。また、地方部では NUD に参加した若年層が、選手としてではなくコーチ等の指導者としても活躍している例が数多く確認されていて、若年層に対してスポーツ振興、スポーツを通じた平和の促進に寄与している。これはまさに NUD 実施を通じて形成された社会関係資本であり、この社会関係資本を有効に使うことで、地方での研修を円滑に実施することが可能となった。

一部の関係者からは、大きな大会を 1 年に 1 回実施するだけでは、平和促進効果は限定的ではないかという意見もあった。しかしながら、結果的には大会実施中のインパクトのみに限定されず、それ以外のところでも、副次的に社会関係資本が形成され、それが本プロジェクトのほかの活動に効果的に活用されるに至ったことは、NUD 実施の中長期的なインパクトを証明する証拠となった。

(2) C/P との協働による透明性の高い物品調達

6 項目評価の項でも記載したとおり、本プロジェクトでは不正が起こらない透明性の高い物品調達の方法を整理した。具体的には、MoYS の C/P と JICA 専門家がともに見積もりを取得し、見積合わせをともにに行い、一番安い商店にともに訪問し、物品の品質を実際に確認したうえで購入するという、C/P との協働による物品調達を行った。南スーダンでは不正や腐敗が横行していると言われることがあるが、きちんとした方法で、きちんとしたプロセスを踏んでいけば、透明性の高い、アカウンタビリティが担保された調達を実施できることが証明された。これは、JICA 専門家が安全面との関係で随行できない地方部で C/P が活動する際に必須となる能力であり、この能力を NUD の物品調達で強化できたことは、非常に有用であった。

(3) 役割と責任の明確化

本プロジェクトは、MoYS・MoGEI の両省が共同で活動を行ってきたが、両省の役割と責任に少し不明瞭な部分があったと考えられる。効率性を確保し、積極的な参加を促すためには、あらゆる共同プロジェクトにおいて、すべての関係者の役割と責任を明確に定義することが不可欠である。これにより、混乱を防ぎ、関係者が協力し合いながら、プロジェクトの成功に向けて有意義に貢献できる環境を醸成することができると考える。

5. パフォーマンス

二段階方式の第 2 段階が始まった際、南スーダン側と日本側関係者との信頼関係が希薄であったため、まずは信頼の回復に努めた。関係者と本音ベースで話し合い、JICA 技術協力の基本方針（C/P には、毎日の活動に日当等は出せないことなど）を伝えた。ほかの協力機関と比較して、このよ

うな JICA のアプローチは非常に厳しいと言われることも多々あったが、粘り強く話し合いをすることで理解を促した。

また、NUD に係る物品の購入等については、本プロジェクト開始時には JICA 南スーダン事務所が主に行っていた。これは物品調達予算を JICA 南スーダン事務所が管理していたためである。しかしながら、本プロジェクトとしては C/P と協働で物品調達を行うことで、C/P の事業マネジメント能力の強化と、南スーダンにおいて政府機関の関係者が公正で透明性の高い物品調達ができるという実績を残したいと考え、予算を本プロジェクト側に移管し、本プロジェクトの責任で調達を行った。その際には、南スーダン側・日本側ともに見積もりを取り付け、まずは安い見積もりを出した店舗を一緒に訪問し、実際の物品の品質等を確認しながら、協働で調達行為を行った。このやり方により、お互いの信頼関係が構築され、非常に円滑に物品購入を行うことができた。

同様に NUD 実施時に JICA 南スーダン事務所に依頼してきた、ケータリング業者との契約も、第 8 回 NUD からは本プロジェクト側の責任で契約を行った。これまで比較的に見えづらかった契約プロセスを公開し、業者選定の際には、食事内容の確認のためにともに試食し、選定基準を作成し、それをきちんと点数化して、共同で選定作業にあたった。また、サービス提供時には、C/P と JICA 専門家が業者とコミュニケーションを密に取って、食事量のコントロールや食事内容の確認を日々行った。これにより、これまでの NUD 実施のなかで常に問題が起こっていた食事提供が、NUD 史上最も円滑に行われ、参加者の満足度も高い結果となった。

6. 付加価値

既述のとおり、アカデミーに対するアプローチの枠組みを **Everyday Peace** という形で整理した。この枠組みのベースとなる考えは、アカデミーはすでにその活動自体が平和促進に資するものであって、その機能を強化することによって、さらに平和促進に寄与しようというものである。この枠組みを整理する過程においては、アカデミー自身の活動を参与観察することを通じ、日々の活動内容やアカデミー関係者の考え方を詳細に把握した。このプロセスを通じて、アカデミーが本来持つ平和促進に貢献できる機能を明確にしたうえで、それらの機能や関係する活動を言語化した。この整理により、アカデミー関係者が、日々実践している自身の活動の意義をはっきりと自覚できるようになったことは、非常に有効であった。

この枠組みでは、アカデミーに参加する若年層にとっては、アカデミーの存在自体が「**Safe Space**」になると定義し、それを実現するためにやるべきこと、配慮すべきことを明確にした。これにより、アカデミー運営に携わるアドミニストレーターやコーチは、「**Safe Space**」を実現するために取り組むべき課題が明確になった。また、この「**Safe Space**」作りは、特別な活動ではなく、アカデミーそのものを良くすることで達成される目標であり、自身のキャパシティの範囲で、より良いアカデミーの実現に向かって努力することで、平和促進にも寄与できるという認識が生まれた。

また、アカデミーを取り巻くコミュニティに対しては、「**Peaceful Community**」を実現するために、アカデミーが何をできるのかというポイントで活動を整理した。アカデミーに参加するメンバーの両親を巻き込んで、アカデミーの利点を理解してもらったり、コミュニティの課題、例えば青少年のギャング化や少女の早期妊娠に対し、アカデミーがどのように課題解決に貢献できるのか

を具体的に発信し、コミュニティとのつながりを強化することで「Peaceful Community」の実現に貢献するという考え方を整理した。

さらに、この考え方と取り組みをまとめ、学会で発表した。学会の参加者からは、「Everyday Peace」については、今までは概念的な議論はされていたものの、具体的な草の根活動にまでつなげたのは珍しいケースであり、このような取り組みを促進していくべきとのコメントも寄せられた。

IV. プロジェクト終了後の上位目標の達成

1. 上位目標の達成見込み

本プロジェクトの上位目標は、「スポーツを通じて、人々、特に若者の信頼醸成と団結を強化し、南スーダンの社会的結束に貢献する。」であり、それを測るための指標は 1)「スポーツ省と教育省の研修を受けた関係者が、スポーツを通じた若年層のエンパワーメントと平和促進のコンセプトが入った研修やワークショップを 10 以上実施するとともに、スポーツを通じた若年層のエンパワーメントと平和促進について、支援者や関係者と 5 回以上の連携を実現する。」と 2)「州レベルで研修を受けた職員が、スポーツを通じた若年層のエンパワーメントと平和推進に関する 13 以上の活動を、自らの資源を活用して実施する。」の二つとなっている。

もし予算が確保できた場合、MoYS と MoGEI のキャパシティを鑑みると指標 1 の達成は十分可能であり、研修の実施やステークホルダーとの連携・調整（例：スポーツ連盟・協会や学校との連携、ドナーや NGO との調整）は可能と考える。ただし、現在、政府予算は非常に厳しい状況で、政府自身の資源を動員して実施することは非常に困難が伴うことが想定される。また、本プロジェクトの経験から、ドナーなどの支援を受けるためには、多くの会議や調整が必要となり、高い調整コストが発生するため、政府職員の通常の勤務も難しいなか、このような特別な対応を行うのは困難と考えられる。

また、指標 2 については、NUD の経験を基に、州政府スポーツ大会を自主的に開催している例も確認されており（西エクアトリア州）、このような自発的な活動が各州・地域で実施される可能性は中程度と考えられる。

以上の状況から、政府の財政面の持続性の低さがインパクト創出に与える負影響は非常に大きく、厳しい状況が想定されるが、パイロットアカデミーや学校、州政府が主導して活動を行う可能性はあると考える。

2. 上位目標達成のための活動計画と実施枠組み

(1) タスクフォース事務所の設置

現在、本プロジェクトで使用しているプロジェクト事務所は JICA の支援により設置されており、本プロジェクト終了後はその支援も終了し、プロジェクト事務所は閉鎖される予定となっている。このため、タスクフォースメンバーと一緒に業務ができるような場所の確保が必要となる。MoYS または MoGEI 内で場所が確保されることが望ましい。

(2) 活動計画の策定

上位目標の指標の一つになっている、MoYS・MoGEI のスタッフによる研修の実施とその際のほかのステークホルダーとの調整については、MoYS・MoGEI が主導できる部分であり、年間計画や中期計画を作成するなど、実施に向けた計画策定が必要である。本プロジェクトのプロジェクトマネージャーである両省の局長が主導し、これらの計画を策定することが重要である。

(3) MoYS と MoGEI の定期会合の実施

両省の進捗を共有するために、定期的に両省関係者（主に局長とタスクフォースメンバー）が集まって会議を行い、本プロジェクトに関連する活動の報告と、上述の計画の進捗を報告する機会を作ることが重要である。

3. 南スーダン側への提案

(1) タスクフォースメンバーへの支援

上述のとおり、タスクフォースメンバーに対して、本プロジェクトに関連した業務が引き続き実施できるように、事務所の確保や本プロジェクトから移管された資機材（コンピュータや複合機、業務机）等を優先的に使用できるような措置を取ることが重要である。

(2) 活動予算の確保

南スーダン政府は財政的に非常に困難な状況であり、職員の給与すら遅配する状況となっているものの、少額でもよいので、研修実施にかかる予算の確保を依頼したい。少額の予算でも確保できれば、C/P はそれを活用して研修を実施する能力は十分に有しているため、上位目標の達成のためにも、この点については強く要望したい。

(3) スポーツ連盟・協会、学校の活動支援

南スーダン政府には予算が無いものの、スポーツ連盟・協会や私立学校などは、自身で競技会やスポーツ大会などを定期的に開催している。このような通常の競技会・大会に、スポーツを通じた平和促進の要素を取り組むよう MoYS・MoGEI が働きかけることで、自身の予算が確保できない場合でも、スポーツを通じた平和促進活動につながれると考えられる。

(4) アカデミーへの活動支援

上記（3）と同様に、アカデミーの活動は外部の支援なしでも主体的に行われているものであり、活動自体は自身のリソースを活用しながら継続している。したがって、MoYS の財務的な支援が無くても、講師などマンパワーのみを提供することによって、アカデミーでの研修や啓発の実施は可能である。また、スポーツ連盟・協会と協働することで、社会面のみならず技術面の強化も可能で、本来選手の技術面での向上を目標としているアカデミーのモチベーションを上げることににつながる。活動予算が無いなかでも、できる活動を模索することが重要である。

4. プロジェクト終了から事後評価までのモニタリング計画

JICA は、プロジェクト終了後のモニタリングについて MoYS/MoGEI と協議し、プロジェクト終了から 3 年後に事後評価を実施する予定である。

添付資料

添付資料 1：本プロジェクトの実績

添付資料 2：プロジェクト成果品リスト

添付資料 3：PDM 及び PO

添付資料 4：活動発表実績

添付資料1：本プロジェクトの結果

表 A-1：JICA 専門家リスト

	氏名	担当分野	所属先
1	徳丸 周志	長期専門家（チーフアドバイザー）	
2	内海 摩耶	長期専門家（業務調整）	
3	大野 康雄	業務主任者／平和構築 1	株式会社 JIN
4	内田 順子	副業務主任者／平和構築 2	株式会社 JIN
5	半田 茂喜	スポーツ行政 1／研修 1／ 社会的弱者配慮・社会参画促進 1	株式会社 JIN
6	竹下（岡田） 千あき	スポーツ行政 2／研修 2	個人
7	佐野 耕至	若年層エンパワーメント／広報／業務調整／ 社会的弱者配慮・社会参画促進 2	株式会社 JIN
8	岡出 美則	指導者育成／体育	個人
9	服部 麻里子	スポーツ振興 1／資源動員 1	個人
10	松崎 英吾	スポーツ振興 2／資源動員 2	一般財団法人インター ナショナル・ブライン ドフットボール・ファ ウンデーション
11	吉谷 真子	調達管理／若年層エンパワーメント／広報／業務調 整／社会的弱者配慮・社会参画促進 2	株式会社 JIN

表 A-2：C/P リスト

氏名	本プロジェクトにおける役割	省内における肩書
A. MoYS		
Debora Akec Kwash	プロジェクト責任者（Project Director）	事務次官
Edward Settimo Yugu	プロジェクト管理者（Project Manager）	スポーツ担当局長
Lemor William Joseph	国家プロジェクト調整・実行役（National Project Coordinator and Administration）	青少年育成担当局長
Aisha Tombe Farajalla	タスクフォースメンバー	
Mary Iyang Ernesto	タスクフォースメンバー	
Tereza Paullino Mogga	タスクフォースメンバー	
B. MoGEI		
Kuyok Abol Kuyok	JCC メンバー Member of JCC	事務次官
David Lowila	プロジェクト管理者（Project Manager）	局長
Odera Charles Opoka	タスクフォースメンバー	
Bianka Peter Baptist	タスクフォースメンバー	
Kiri James	タスクフォースメンバー	
Rina Dongo	タスクフォースメンバー	

表 A-3 : 南スーダン国内での研修実績

日程	参加者	参加者数	訓練・訓練の目的	トレーナー・ファシリテーター
2022 年 11 月 24・25 日	- 州スポーツ省職員 - 各州のコーチ	52 名	- NUD の目的と意義を学ぶ - トラウマ・ケアと平和促進の観点からコーチング能力を向上させる - スポーツにおける対立の解決方法とその配慮事項を学ぶ	JICA 専門家 UNDP
2023 年 9 月 14-17 日	対象学校教員	15 名	- モデル体育授業を行うために必要な具体的な価値観や典型的な授業プロセスを学ぶ - 模擬授業を通じて、具体的な価値観や典型的な授業プロセスを学ぶ	JICA 専門家
2023 年 9 月 14-17 日	- 各州のコーチ - 対スポーツアカデミーのコーチ	約 30 名	- スポーツのルールやコーチングの内容・方法を学ぶ - NUD の目的である「スポーツを通じた平和促進」のために、公平で平等な競争の配慮事項を学ぶと共に、女子の参加を促すための選手や保護者への対応方法を学ぶ	各国内スポーツ連盟のトレーナー
2023 年 4 月 27 日	対象学校教員	12 名	体育の授業における活動の目的を明確にする方法や、生徒の積極的な参加を促す仕組みを学ぶ	JICA 専門家
2024 年 1 月 17・18 日	- NUD に関わった審判 - NUD 技術委員会メンバー	約 85 名	- スポーツのルールや試合の審判に関する内容・方法を学ぶ - 一般的な技術指導、審判の資質、公平で平等な試合に関する配慮事項を学ぶ	各国内スポーツ連盟のトレーナー
2024 年 3 月 26-28 日	対象学校教員	13 名	- JCC Model 小学校のモデル体育授業の評価を共有する - 体育を通じた平和促進のファシリテーションスキルを学ぶ - 修正された体育の授業計画に基づいて、模擬授業を実施する	JICA 専門家
2024 年 4 月 2-4 日	対象スポーツアカデミー、民間クラブ（コブラクラブ）、視覚障害者サッカー協会（Blind Football Association）	10 名	- 持続可能な組織運営のための資源動員について学ぶ “物品・資金・人的資源の寄付依頼”をさらに発展させるために、個別相談を行う	JICA 専門家
2024 年 9 月 30-10 月 6 日	- Torit のスポーツアカデミーコーチ、審判員、関係者 - 東エクアトリア州スポーツ省職員 - カポエタ地域、マグウィ地域のスポーツ関係者	83 名	- スポーツのルール、指導内容、指導方法を学ぶ - Everyday Peace のコンセプトについて学び、経験に基づいたアドバイスを受ける - 女子選手がスポーツに参加するための配慮事項を学ぶ - アクションプランを作成する	各国内スポーツ連盟のトレーナー スポーツ省行政官 LFA、SVA のコーチ

表 A-4 : 技術研修（本邦研修）の実績

	場所	時期	参加人数
1	日本	2022 年 10 月 7 日～19 日	14
2	日本	2023 年 7 月 23 日～8 月 5 日	13
主な研修内容			
• スポーツ行政（学校体育・スポーツ振興） • 日本の学校体育（部活動を含む） • 体育の現職教員研修・初任者研修制度 • スポーツ指導者・審判員の養成制度・資格制度 • スポーツを通じた青少年のエンパワーメントの例（スポーツ少年団など） • 子どもから高齢者まで、年齢に応じた、地域住民が自主的に運営するスポーツクラブの例（総合型地域スポーツクラブなど）。 • 障害者スポーツやその他の社会的弱者のためのスポーツの例 • スポーツイベント等で活躍するボランティア • スポーツ団体の活動例 • 上記視察・講義を踏まえたアクションプラン・現地研修計画の作成			

供与機材については、本文中の II 4 : 機材リスト（実績）を参照のこと。

添付資料 2 : プロジェクト成果品リスト

表 A-5 : プロジェクト成果品リスト

通番	成果品名	提出時期
1	Impact Survey Report//Summary for 7 th NUD	2023 年 11 月
2	Project Impact Survey	2025 年 2 月
3	NUD マニュアル	2025 年 2 月
4-1	YES for Peace Guideline	2025 年 2 月
4-2	YES for Peace Handbook for Sports Academy	2025 年 2 月
4-3	YES for Peace Handbook for Schools	2025 年 2 月

添付資料 3 : PDM 及び PO

PDM Version 1

Project Design Matrix

Project Title: Project for Youth Empowerment through Sports for Peace Promotion (YES for PEACE)

Duration: NOV 2019 to OCT 2024 (five years)

Version: 1.0

Direct Beneficiary: Ministry of Youth and Sports (MoYS) and its pilot state ministry officials, Ministry of General Education and Instruction (MoGEI) and its pilot state officials, management of selected schools, sports clubs and academies, teachers, coaches and referees, youths who participate the project activities

Target Areas: Juba City and pilot states
(NUD participants include youths from all regions)

Dated: 18 June 2021

Indirect Beneficiary: youths, communities, audience of project activities

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal: Enhance trust building and unity among people especially youths through sports and contribute to social cohesion in South Sudan.	(1) The degree of recognition on mutual respect is increased among the participants of National Unity Day (NUD), participants of school, sports club and academy-based Sports for Peace initiatives in Juba and pilot states (comparing beginning /end of the project for members of school/club/academy in Juba and pilot states, and beginning/end of the matches for NUD). (2) The degree of understanding on mutual respect is increased among the participants of National Unity Day (NUD), participants of school, sports club and academy-based Sports for Peace initiatives in Juba and pilot states (comparing beginning /end of the project for members of school/club/academy in Juba and pilot states, and beginning/end of the matches for NUD).	For NUD: Results of survey conducted through questionnaire and interviews with participants of NUD For school and sports club/academy: Result of survey conducted through questionnaire and interviews with participants of pilot activities in Juba City and pilot states. (baseline/end line survey)	1) Economic and fiscal situation does not deteriorate compared to the present. 2) The Peace Agreement does not collapse. 3) Sports policy and the Sports Policy Implementation Guidelines including the operational guidelines for NUD are approved and implemented.
Project Purpose: Strengthen capacity and management skills of Ministry of Youth and Sports (MOYS) and Ministry of General Education and Instruction (MOGEI) including pilot state ministries for promoting Youth Empowerment through Sports for Peace Promotion	1) YES for Peace Taskforce team reports and informs the results and outcomes of YES for Peace activities (at least more than once a year) 2) Organize coordination and preparation meetings (including State Convention and State Consultation or Monitoring Visit) for NUD with relevant stakeholders at least 2 times a year. 3) Trainings for relevant personnel (such as national and state government officials, management personnel (representatives of sports club/academy, School Management Committee and PTA), coaches and referees for implementing each pilot activity) are conducted more than XX times 4) Actual results and willingness to support YES for Peace activities such as NUD and activities at sports club, academy and school from Sports organizations, UN agencies, NGOs, embassies and private companies.	1) Taskforce reports 2) Taskforce reports and interview or questionnaires to supporting partners	

Output 1:	Capacity of MOYS is strengthened in terms of planning, implementation, monitoring & evaluation, financial management and coordination with relevant stakeholders for implementing NUD activities.	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing NUD is created 2) Trainings for relevant personnel (such as national and state government officials, taskforce members, coaches and referees) for NUD implementation are conducted (at least XX times) 3) Selection method for NUD participants is revised and improved annually with fairness and inclusiveness including gender mainstreaming. 4) NUD event is held annually (with increased contributions of MOYS and other local sources if possible) 5) Implementation manual for NUD is revised	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing NUD 2) Training records 3) Results of monitoring visits at states 4) NUD report and budget sheet record 5) NUD Implementation Manual (revised)	Counterpart personnel of the Project work in the same or related positions continuously.
Output 2:	System of implementation structure for YES for Peace activities at school, sports club and academy is established at Juba and pilot states	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing YES for Peace activities at school and sports club/academy is created 2) Trainings for relevant personnel (such as national and state government officials, management personnel (representatives of sports club/academy, School Management Committee and PTA), coaches and referees for implementing each pilot activity) are conducted more than XX times 3) Pilot activities are implemented more than XX times 4) YES for PEACE PE/Sports Teaching Guideline is created	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing YES for Peace activities at school and sports club/academy 2) Training records 3) Pilot activity report 4) YES for PEACE PE/Sports Teaching guideline	
Output 3:	Platform for YES for Peace is established and managed for collaborating among MOYS, MOGEI and implementing partners (school, sport club and academy), and supporting partners (sports organizations, UN agencies, NGOs, embassies and private companies)	1) Partner coordination meeting is organized at least 2 times a year 2) Strategic plan to gain sustainable resource mobilization for NUD implementation and community-level activities is created	1) Partner coordination meeting minutes 2) Strategic plan on resource mobilization	
Activity 1-1:	Analyze capacities to be improved and challenges to organize NUD sustainably, through needs assessment on NUD stakeholders and visits to other countries' national and regional sports event.		Input: 1. South Sudanese Side (1) Counterpart Personnel (2) Facility and Equipment (3) Local Cost	Pre-condition: Security does not deteriorate significantly.
Activity 1-2:	Plan and implement trainings for relevant personnel (such as national and state government officials, taskforce members, coaches and referees) for NUD implementation			

Activity 1-3:	Organize coordination and preparation meetings (including State Convention and Sate Consultation or Monitoring Visit) for NUD with relevant stakeholders at least 2 times a year, and decide NUD rules and regulations and selection methods according to existing NUD manual		2. Japanese side: (a) Dispatch of Experts: Chief advisor, Deputy Chief advisor, Coordinator and other experts in the areas necessary for the project activities: e.g. Peacebuilding, Physical Education, Administrative and Financial Management & Monitoring, Donor coordination, Monitoring & Evaluation, Peace education,	
Activity 1-4:	Monitor selection process of NUD participants at states and revise the selection methods annually. (Analyze factors reducing inclusiveness of the selection and prohibiting women and girls participation on the selection)		(b) Trainings in Japan and in third countries, when deemed appropriate and necessary (c) Machinery and Equipment, when deemed appropriate and necessary for the project activities	
Activity 1-5:	Organize NUD annually			
Activity 1-6:	To increase the budget of NUD in MoYS, enhance understanding of NUD in MoYS through sensitization and propose to Minister and undersecretary of MoYS for securing the budget			
Activity 1-7:	Review preparation and implementation process of NUD, and revise existing implementation manual for NUD			
Activity 2-1:	Assess situation of Physical Education/Sports Education; activities of sports club/academy; and availability of designated teachers and coaches, and their training opportunities at Juba and pilot states			
Activity 2-2:	Analyze possible community-level activities based at school, sports club/academy and capacities to be improved for implementing partners (school, sports club/academy), through needs and interest assessment on Peace Ambassadors, and visits to other countries for learning Physical Education and training system for coaches.			
Activity 2-3:	Examine and plan community-level YES for Peace pilot activities with selected school, sports club/academy (Consider to use Peace Ambassador for the pilot activities).			

Activity 2-4:	Plan and implement trainings for national and state government officials, management personnel (representatives of sports club/academy, School Management Committee and PTA), coaches and referees for implementing each pilot activity			
Activity 2-5:	Implement pilot activities with school, sports club/academy			
Activity 2-6:	Monitor and review the results of trainings and pilot activities, and create YES for PEACE PE/Sports Teaching Guideline. (Include the elements of youth empowerment expected by school, sports club/academy, such as development of Life Skills with psychosocial care standpoint)			
Activity 2-7:	Examine additional activities to expand YES for Peace activities (for increasing beneficiaries and coming up with new ideas of community-level activities)			
Activity 3-1:	Organize partners coordination meeting periodically with implementing partners (school, sports club/academy) and supporting partners (sports organizations, UN agencies, NGOs, embassies and private companies)			
Activity 3-2:	Lobbying supports for YES for Peace activities from supporting partners in terms of funding and technical support			
Activity 3-3:	Analyze needs of capacity development and activities of implementing partners (school, sports club/academy) for gaining technical and funding supports			
Activity 3-4:	Create a strategic plan to gain sustainable resource mobilization for NUD implementation and community-level activities			

Project Design Matrix

Project Title: Project for Youth Empowerment through Sports for Peace Promotion (YES for PEACE)

Duration: NOV 2019 to OCT 2024 (five years)

Version: 2.0

Direct Beneficiary: Ministry of Youth and Sports (MoYS) and its pilot state ministry officials, Ministry of General Education and Instruction (MoGEI) and its pilot state officials, management of selected schools, sports clubs and academies, teachers, coaches and referees, youths who participate the project activities

Target Areas: Juba City and pilot states (NUD participants include youths from all regions)

Dated: 10 December 2023

Indirect Beneficiary: youths, communities, audience of project activities

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal: Enhance trust building and unity among people especially youths through sports and contribute to social cohesion in South Sudan.	1) Trained personnel of MOYS and MOGEI conduct more than 10 training sessions/workshops including the concept of youth empowerment and peace promotion through sports and realize more than 5 coordination with supporters/stakeholders on youth empowerment and peace promotion through sports. 2) Trained personnel at state level conduct more than 13 activities on youth empowerment and peace promotion through sports by using their own resources.	1) Interviews with MOYS and MOGEI trained personnel 2) Interviews with state level trained personnel	1) Economic and fiscal situation does not deteriorate compared to the present. 2) The Peace Agreement does not collapse. 3) Sports policy and the Sports Policy Implementation Guidelines including the operational guidelines for NUD are approved and implemented.
Project Purpose: Strengthen capacity and management skills of Ministry of Youth and Sports (MOYS) and Ministry of General Education and Instruction (MOGEI) including pilot state ministries for promoting Youth Empowerment through Sports for Peace Promotion	1) More than 80% of relevant personnel (such as national and state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations, representatives of target sports academies and schools, and representatives of National Security and Police) recognize more importance of youth empowerment and peace promotion through sports compared to before starting the Project (2019). 2) More than 70% of relevant personnel (such as state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations and representatives of target sports academies and schools) are willing to consult with MOYS or MOGEI when they plan activities related to youth empowerment and peace promotion through sports. 3) More than 50% of trained personnel (such as state government officials, coaches and referees, representatives of sports federations/associations, representatives of target sports academies and schools, and NUD participants) have utilized knowledge and skills learnt from the Project for their activities. 4) Training sessions and workshops including the concept of youth empowerment and peace promotion through sports for relevant personnel (such as national and state government officials, coaches and referees, and representatives of target sports /academies and schools are conducted by MOYS or MOGEI more than 8 times. 5) More than 10 organizations support YES for Peace activities.	1) Impact survey and interviews 2) Impact survey and interviews 3) Impact survey and interviews 4) Project activity reports 5) Project activity reports	

Output 1:	Capacity of MOYS is strengthened in terms of planning, implementation, monitoring & evaluation, financial management and coordination with relevant stakeholders for implementing NUD activities.	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing NUD is created 2) Selection method for NUD participants is revised and improved annually with fairness and inclusiveness including gender mainstreaming. 3) NUD event is held annually (with increased contributions of MOYS and other local sources if possible) 4) Implementation manual for NUD is revised	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing NUD 2) Results of monitoring visits at states 3) NUD report and budget sheet record 4) NUD Implementation Manual (revised)	Counterpart personnel of the Project work in the same or related positions continuously.
Output 2:	Implementation structure for YES for Peace activities at schools, sports academies is clarified in Juba and pilot states	1) Needs assessment for capacity development for implementing YES for Peace activities at school and sports academies is conducted. 2) Each pilot activity for a) target football academy, b) target volleyball academy, c) target primary schools, and d) target secondary schools, is implemented more than 2 times 3) Guideline for Promoting YES for Peace in Sports Academies and Schools is created	1) Report on needs assessment for capacity development for implementing YES for Peace activities at school and sports academy 2) Project activity reports 3) Guideline for Promoting YES for Peace in Sports Academies and Schools	
Output 3:	Platform for YES for Peace is established and managed for collaborating among national and state MO(C)YS and MOGEI, sports academies, schools, and supporting partners (e.g., sports organizations, NGOs, UN agencies, embassies and private companies).	1) TOR of Platform for YES for Peace is agreed by members. 2) Plans of Platform for YES for Peace are agreed by members. 3) Meetings of Platform for YES for Peace Partners are held at least twice a year. 4) At least two relevant activities to promote peace through sports are implemented based on the agreed plan.	1) TOR of Platform for YES for Peace 2) Plans of Platform for YES for Peace 3) Meeting minutes of Platform for YES for Peace 4) Meeting minutes of Platform for YES for Peace	
Activity 1-1:	Analyze capacities to be improved and challenges to organize NUD sustainably, through needs assessment on NUD stakeholders and visits to other countries' national and regional sports event.		Input: 1. South Sudanese Side (1) Counterpart Personnel (2) Facility and Equipment (3) Local Cost	Pre-condition: Security does not deteriorate significantly.
Activity 1-2:	Plan and implement trainings for relevant personnel (such as national and state government officials, taskforce members, coaches and referees) for NUD implementation			

Activity 1-3:	Organize coordination and preparation meetings (including State Convention and Monitoring Visit) for NUD with relevant stakeholders at least 2 times a year, and decide NUD rules and regulations and selection methods according to existing NUD manual		2. Japanese side: (a) Dispatch of Experts: Chief advisor, Deputy Chief advisor, Coordinator and other experts in the areas necessary for the project activities: e.g. Peacebuilding, Physical Education, Administrative and Financial Management & Monitoring, Donor coordination, Monitoring & Evaluation, Peace education, (b) Trainings in Japan and in third countries, when deemed appropriate and necessary (c) Machinery and Equipment, when deemed appropriate and necessary for the project activities	
Activity 1-4:	Monitor selection process of NUD participants at states and revise the selection methods annually. (Analyze factors reducing inclusiveness of the selection and prohibiting women and girls participation on the selection)			
Activity 1-5:	Organize NUD annually			
Activity 1-6:	To increase the budget of NUD in MoYS, enhance understanding of NUD in MoYS through sensitization and propose to Minister and undersecretary of MoYS for securing the budget			
Activity 1-7:	Review preparation and implementation process of NUD, and revise existing implementation manual for NUD			
Activity 2-1:	Assess situation of Physical Education/Sports Education; activities of sports club/academy; and availability of designated teachers and coaches, and their training opportunities at Juba and pilot states			
Activity 2-2:	Analyze possible community-level activities based at school, sports academy and capacities to be improved for implementing partners (school, sports club), through needs and interest assessment on Peace Ambassadors, and visits to other countries for learning Physical Education and training system for coaches.			
Activity 2-3:	Examine and plan community-level YES for Peace pilot activities with selected school, sports club/academy (Consider to use Peace Ambassador for the pilot activities).			

Activity 2-4:	Plan and implement trainings for national and state government officials, management personnel (representatives of sports academies and schools), coaches and referees for implementing each pilot activity			
Activity 2-5:	Implement pilot activities with school, sports academy			
Activity 2-6:	Monitor and review the results of trainings and pilot activities, and create YES for PEACE PE/Sports Teaching Guideline. (Include the elements of youth empowerment expected by school, sports club/academy, such as development of Life Skills with psychosocial care standpoint)			
Activity 2-7:	Examine additional activities to expand YES for Peace activities (for increasing beneficiaries and coming up with new ideas of community-level activities)			
Activity 3-1:	Organize partners coordination meeting periodically with implementing partners (school, sports academy) and supporting partners (sports organizations, UN agencies, NGOs, embassies and private companies)			
Activity 3-2:	Lobbying supports for YES for Peace activities from supporting partners in terms of funding and technical support			
Activity 3-3:	Analyze needs of capacity development and activities of implementing partners (school, sports academy) for gaining technical and funding supports			
Activity 3-4:	Plans of Platform for YES for Peace are prepared to conduct activities to promote peace through sports.			

PO

Plan of Operation

Dated 6 June 2024

Version. 3

Project Title: Project for Youth Empowerment through Sports for Peace Promotion (YES for PEACE)

Plan

Actua

[illegible]

Output 2:		Implementation structure for YES for Peace activities at schools, sports academies is clarified in Juba and pilot state																												
Activities	2.1	Assess situation of Physical Education/Sports Education; activities of sports club/academy; and availability of designated teachers and coaches, and their training opportunities at Juba and pilot state	Plan																											
		Actual																												
	2.2	Analyze possible community-level activities based at school, sports academy and capacities to be improved for implementing partners (school, sports club), through needs and interest assessment on Peace Ambassadors, and visits to other countries for learning Physical Education and training system for coaches.	Plan																											
		Actual																												
	2.3	Examine and plan community-level YES for Peace pilot activities with selected school, sports club/academy (Consider to use Peace Ambassador for the pilot activities).	Plan																											
		Actual																												
	2.4	Plan and implement trainings for national and state government officials, management personnel (representatives of sports academies and schools), coaches and referees for implementing each pilot activity	Plan																											
		Actual																												
	2.5	Implement pilot activities with school, sports academy	Plan																											
		Actual																												
	2.6	Monitor and review the results of trainings and pilot activities, and create YES for PEACE PE/Sports Teaching Guideline. (Include the elements of youth empowerment expected by school, sports club/academy, such as development of Life Skills with psychosocial care standpoint)	Plan																											
		Actual																												
	2.7	Examine additional activities to expand YES for Peace activities (for increasing beneficiaries and coming up with new ideas of community-level activities)	Plan																											
		Actual																												
Output 3:		Platform for YES for Peace is established and managed for collaborating among national and state MO(C)YS and MOGEI, sports academies, schools, and supporting partners (e.g., sports organizations, NGOs, UN agencies, embassies and private companies).																												
Activities	3.1	Organize partners coordination meeting periodically with implementing partners (school, sports academy) and supporting partners (sports organizations, UN agencies, NGOs, embassies and private companies)	Plan																											
		Actual																												
	3.2	Lobbying supports for YES for Peace activities from supporting partners in terms of funding and technical support	Plan																											
		Actual																												
	3.3	Analyze needs of capacity development and activities of implementing partners (school, sports academy) for gaining technical and funding supports	Plan																											
		Actual																												
	3.4	Plans of Platform for YES for Peace are prepared to conduct activities to promote peace through sports.	Plan																											
		Actual																												

添付資料 4：活動発表実績

表 A-6：活動発表実績

実施日	形式	学会名	発表者	発表タイトル
2024 年 9 月 5 日	発表	Conflict Research Society (https://conflictresearchsociety.org/)	佐野 耕至	“Sports for Peace: Grassroot Approach to Community Peace.”